

緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集

Vol. 8



企業の森づくり普及啓発イベント事業（徳島県）
徳島森づくり推進機構

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、31 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑と水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 24 年 12 月「国際森林デー」の制定、平成 25 年 11 月「国連持続可能な開発のための教育 10 年（ESD）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業（平成 30 年度）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 2 年 2 月

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

- 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成2年版 (1992.4)
 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成3・4年版 (1994.8)
 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成5・6年版 (1996.3)

- 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL1 緑と水のサイエンス (1996.8)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL2 緑と水のサイエンス (2001.7)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL3 緑と水のサイエンス (2004.6)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL4 緑と水のサイエンス (2007.8)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL5 緑と水のサイエンス (2009.5)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL6 緑と水のサイエンス (2010.4)

- 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL1 (2011. 3)
 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL2 (2012. 3)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL3 (2012.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL4 (2013.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL5 (2015. 3)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL6 (2016. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL7 (2017. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL8 (2018. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL9 (2019. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL10 (2020. 2)

- 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL1 (2013. 3)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL2 (2013.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL3 (2014.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL4 (2016. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL5 (2017. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL6 (2018. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL7 (2019. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL8 (2020. 2)

目次

北海道森と緑の会

青少年育成事業 (A-1)	8
「美遊の森」体験活動事業 (A-2)	8
森林・みどり環境教育推進事業 (A-3)	9
森林ボランティア活動推進事業 (A-4)	9
野幌自然休養林再生事業を中心にした森林知識の普及啓発活動 (A-5)	10
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-6)	10
北海道指導林家社会貢献緑化推進事業 (A-7)	11
☆イベント「家族きのご観察会」(A-8)	11
お魚殖やす植樹運動促進事業 (A-9)	12
☆木育ひろば 2018in ばんけい (A-10)	12
森と自然体験の子どもエコキャンプ (A-11)	13
身近な森林再発見事業 (A-12)	13
五稜郭保安林清掃事業 (A-13)	14
木のグランドフェア (A-14)	14
「残された森」野幌原始林を学ぶ－自然探勝会」普及啓発事業 (A-15)	15
普及啓発事業 (A-16)	15
「望みの森」森林浴の集い (A-17)	16
森林を活用した青少年育成対策事業 (A-18)	16
森林及び木製遊具体験事業 (A-19)	17
緑化団体ネットワーク推進事業 (A-20)	17
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-21)	18
津別「げんきの森」利用推進事業 (A-22)	18
☆気軽に楽しめる霧多布の森づくり (A-23)	19
☆間伐施業体験事業 (A-24)	19
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業 (A-25)	20
青少年の木育推進事業 (A-26)	20
「北海道木育フェスタ」春期推進事業 (A-27)	21
☆馬追自然の森整備事業 (C-1)	21
台風被災森林の植栽後の保育活動 (C-2)	22
清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業 (C-3)	22
人道の森づくり事業 (C-4)	23
台風被災森林の植栽後の保育活動 (C-5)	23
「遊々の森」での森林体験事業 (C-6)	24
コンサ百年の森づくり事業 (C-7)	24
サミットの森プロジェクト (C-8)	25
平成 30 年度 北海道小樽商業高等学校林「植樹の会」(C-9)	25
風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり (C-10)	26
未来に向かって日高の森林づくり事業 (C-11)	26
日高の森づくり事業 (C-12)	27
「おさかなの森づくり運動」事業 (C-13)	27
市街地緑化事業 (C-14)	28
お魚を増やす森づくり (C-15)	28
旭川ユネスコの森づくり (C-16)	29
みんなでつくるビオトープの緑化・公園造成事業 (C-17)	29
☆枝幸町民植樹祭 (C-18)	30
☆「帯広の森」づくり事業 (C-19)	30

☆森は海の恋人植樹事業 (C-20)	31
青森県緑化推進委員会	
青森県森林づくり推進体験学習活動事業 (A-28)	32
青森県森林づくり推進体験活動事業 (A-29)	32
岩手県緑化推進委員会	
平成 30 年度遠野市緑化祭 (A-30)	33
2018 森林とのふれあい in 平成市民の森 (第 12 回盛岡市民育樹祭) (A-31)	33
☆第 4 回久慈地方森づくり大会 (A-32)	34
第 50 回岩手県緑の少年団大会 (A-34)	35
宮城県緑化推進委員会	
宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-21)	36
秋田県緑化推進委員会	
緑と水のキャンペーン事業 (A-35)	37
市民グループ森林づくり事業 (A-36)	37
緑の少年団育成事業 (C-22)	38
森林活動指導者支援事業 (C-23)	38
山形県みどり推進機構	
山形県緑の少年団交流研修大会開催事業 (A-37)	39
山形県林業まつり開催事業 (A-38)	39
庄内森とみどりのフェスティバル開催事業 (A-39)	40
福島県森林・林業・緑化協会	
緑化普及啓発事業 (第 27 回緑の提言・作文コンクール) (A-40)	41
森林・林業とのふれあい事業 (第 43 回福島県林業祭) (A-41)	42
ファミリー緑の教室開催事業 (A-42)	42
都市と農村の交流事業 (第 31 回ふくしま緑の百景歩こう会) (C-24)	43
☆未来の森林づくり交流事業 (C-25)	43
茨城県緑化推進機構	
青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-43)	44
緑の体験教室開催事業 (A-44)	44
グリーンフェスティバル開催事業 (A-45)	45
森林ボランティア育成事業 (C-26)	45
山村地域づくり活動助成事業 (C-27)	46
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-28)	46
とちぎ環境・みどり推進機構	
森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業 (A-46)	47
青少年の教育の場としての森林活用促進事業 (C-29)	47
☆森林環境教育指導者等支援事業 (C-30)	48
群馬県緑化推進委員会	
群馬県植樹祭開催 (A-47)	49
森と木のまつり (A-48)	49
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-49)	50
緑の少年団活動活性化事業 (A-50)	50
埼玉県緑化推進委員会	
さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-51)	51
緑の少年団育成事業 (A-52)	51
緑化普及啓発事業 (A-53)	52
森林ボランティア活動支援事業 (C-31)	52
千葉県緑化推進委員会	
第 38 回千葉県みどりの少年団交流集会 (A-54)	53

木づかい推進・普及啓発事業 (A-55)	53
森林・林業技術講習会 (C-32)	54
東京都農林水産振興財団	
ふるさとの杜活力調査事業 (B-1)	55
にいがた緑の百年物語緑化推進委員会	
普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業 (A-56)	56
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-57)	56
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-58)	57
緑化団体活動周知・地理情報活用事業 (A-59)	57
とやま緑化推進機構	
森林・木材等普及啓発事業 (A-60)	58
花とみどりの少年団活動支援事業 (C-33)	58
森づくりグループ活動支援事業 (C-34)	59
石川県緑化推進委員会	
緑化思想の普及啓発事業 (A-61)	60
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-35)	60
森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-36)	61
福井県緑化推進委員会	
もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-62)	62
ふくいの森林づくり推進事業 (活動基盤の整備) (C-37)	62
山梨県緑化推進機構	
普及啓発事業 緑の少年隊森林学習会 (A-63)	63
普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-64)	63
普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-65)	64
普及啓発事業 森の教材「くらしと森林」発刊事業 (A-66)	64
普及啓発事業 親子緑の集い (A-67)	65
普及啓発事業 緑化ポスター・標語コンクール開催 (A-68)	65
普及啓発事業 緑の活動発表会 (A-69)	66
長野県緑の基金	
緑・森林の感謝祭等事業及び児童啓発事業 (A-70)	67
岐阜県緑化推進委員会	
緑化推進活動促進と活動資材供給事業 (A-71)	68
みどりの啓蒙推進事業 (A-72)	68
恵みの森づくり事業 (C-38)	69
静岡県グリーンバンク	
森づくり県民大作戦支援事業 (A-73)	70
「緑の少年団交流集会開催事業」(C-39)	70
愛知県緑化推進委員会	
普及啓発 みどりに親しむ集い事業 (A-74)	71
普及啓発 みどりフェスティバル'19 春 (A-75)	72
調査研究 ふるさと樹木診断事業 (B-2)	72
活動基盤整備 森林ボランティア養成事業 (C-40)	73
三重県緑化推進協会	
県民参加の植樹祭開催事業 (A-78)	74
みえ森林イベント参加 (A-79)	74
森林とのふれあい促進事業 (A-80)	75
緑の少年隊活動の推進 (A-81)	75
森林教室開催 (A-82)	76
☆巨樹・古木見学会開催 (A-83)	76

☆巨樹古木普及啓発冊子作成 (A-831)	77
滋賀県緑化推進会	
緑の少年団育成事業 (C-41)	78
京都モデルフォレスト運動連携強化事業	
森の恵みを次世代に伝える京都モデルフォレスト運動実践講座の開催 (A-83)	79
大阪みどりのトラスト協会	
大阪府緑の少年団連盟 交流集会 (A-84)	80
☆市民協働による生物多様性ホットスポット保全活動 (A-85)	80
兵庫県緑化推進協会	
地域緑化イベント開催事業 (A-86)	81
森林整備・緑化活動支援事業 (C-42)	81
奈良県緑化推進協会	
森の文化事業 (A-87)	82
ボランティア緑化活動事業 (C-43)	82
和歌山県緑化推進会	
青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業 (A-88)	83
森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業 (C-44)	83
鳥取県緑化推進委員会	
活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-89)	84
活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-90)	84
活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-45)	85
活動基盤整備事業「森林空間活用推進事業」(C-46)	85
島根県緑化推進委員会	
「森の誕生日」2019事業 (A-91)	86
緑の少年団育成強化事業 (C-47)	86
岡山県緑化推進協会	
第19回森林を考える岡山県民のつどい (A-92)	87
県産木材フェア開催事業 (A-93)	87
もりもりクラブ普及活動事業 (A-94)	88
第34回くらしき都市緑化フェア (A-95)	88
緑化普及推進事業 (C-48)	89
広島県みどり推進機構	
平成30年度「緑と水の森林ファンド」事業 (A-96)	90
☆木材需要拡大講演会等開催 (A-97)	90
(第38回) 緑の少年団交流集会開催事業 (C-49)	91
やまぐち農林振興公社	
都市と山村ふれあい交流促進事業 (A-98)	92
森林体験学習支援事業 (C-50)	92
記念の森造成事業 (C-51)	93
徳島森林づくり推進機構	
企業の森づくり普及啓発イベント事業 (C-52)	94
かがわ水と緑の財団	
緑化普及活動事業 (A-99)	95
愛媛の森林基金	
木工作品製作キット配布事業 (A-100)	96
愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業 (A-101)	96
高知県森と緑の会	
土佐の名所の樹木活性化事業 (A-102)	97
森のようちえん推進事業 (A-103)	97

森の魅力普及啓発事業 (A-104)	98
高知森林インストラクター養成講座 (A-105)	98
地域の森林整備事業 (C-53)	99
活動基盤整備推進事業 (C-54)	99
福岡県水源の森基金	
ウッドフェスタ 2018 福岡 事業 (A-106)	100
森林ふれあい交流事業 (A-107)	100
グリーンフェスティバル 2019 (A-108)	101
☆第 28 回世界子ども愛樹祭コンクール (A-110)	101
里まちサイクルプロジェクト (C-55)	102
さが緑の基金	
よかウッドフェスタ (A-111)	103
☆ふれあいの森フェスタ (A-112)	103
緑の探検学習会 (C-56)	104
長崎県緑化推進協会	
森のつどい事業 (A-113)	105
緑の少年団活動活性化事業 (C-57)	105
森のめぐみいきいき活用促進事業 (C-58)	106
熊本県緑化推進委員会	
くまもと森づくり普及・啓発事業 (A-114)	107
緑の少年団活動育成事業 (C-59)	107
シンボル森林の活用促進事業 (C-60)	108
森林ネットおおいた	
ふれあい森林教室 (A-115)	109
大分県農林水産祭 (第 40 回 木と暮らしのフェア) (A-116)	109
☆大分県みどりの少年団のつどい (A-117)	110
名木保全事業 (B-3)	110
森林ボランティアリーダー養成研修 (C-61)	111
宮崎県緑化推進機構	
緑と花のふれあい推進事業 (A-118)	112
森林浴癒しの集い事業 (A-119)	112
かごしまみどりの基金	
かごしまの緑・元気な森林体験事業 (A-120)	113
かごしまの名木古木樹勢診断事業 (B-4)	113
活力ある緑の少年団活動促進事業 (C-62)	114
森林ボランティア活動促進事業 (C-63)	114
沖縄県緑化推進委員会	
平成 30 年度 緑の育樹祭開催事業 (A-121)	115

(☆は H30 新規事業)

青少年育成事業（A-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（緑の体験学習）

市内小学生を対象に、道民の森において緑の体験学習を実施した。

体験学習の内容は、屋外学習として、森の中で直接自然と触れ合いながら、森の緑について学び、屋内では自然にある木の枝や実を使って工作活動を行うことで、自然に対する意識の向上を図ったもの。

（青空園芸教室）

市内小学生を対象に、北海道深川東高等学校において青空園芸教室を実施した。

園芸教室の内容は、高校生を講師として緑に関する知識を学び、自分で選んだ花苗と野菜苗で寄せ植えを作成し、緑への理解と愛情を深めたもの。

2. 活動の成果

（緑の体験学習）

今回の体験学習を通して、森の緑と触れ合いながら、自然の仕組みや、人間と自然との正しい関係について理解を深め、自然に対する愛情とモラルの高揚となり、緑化思想の普及活動の一環となった。

（青空園芸教室）

今回の園芸教室を通して、花や野菜、木についての知識を身につけ、自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりの推進に貢献された。

3. 参加者の声

（緑の体験学習）

参加者は、前年度に参加した人もおり、自然との触れ合いを楽しんでいた。自然との関わりの中楽しさを見つけ、緑への興味を深めたようであった。

（青空園芸教室）

参加者は、緑の大切さを学び、緑の知識をより多く得たいと思ってくれたようであった。育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	6月18日	6月19日	計
事業量	緑の体験学習	青空園芸教室	青空園芸教室	
参加者数	14人	67人	50人	131人
実施場所	当別町 (道民の森)	深川市 (北海道深川東高等学校)	〃	

「美遊の森」体験活動事業（A-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

美幌市立峰延小学校の隣接する林内において、子ども達に木や森との関わりについて学習する体験学習会を実施した。

体験学習会の内容は、前半は教室で普段接している学校林の歴史や森林の機能についての講義と後半は林内で木々の種類や昆虫などを題材にしたゲームや木登り体験を行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい子どもたちの豊かな心をはぐくむことを目的とした。

2. 活動の成果

今回の学習会では、子ども達が木育マイスターの講義を熱心に聞き入り、遊びを通して木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。また、木製品を使用したゲームのほか、学校林内にて散策や昆虫採集、木登り体験を木育マイスターの話の聞きながら自然と触れることが出来た。子ども達にとって木育の専門家から話を聞くことで新たな視点で木や森について学ぶことができたと思う。

3. 参加者の声

- ・学校林の周辺が変わって来た姿を知ることができた。
- ・木の宝石箱づくりが楽しかった。
- ・森の中を歩きながら、宝箱に入れるものを探するのが楽しかった

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月31日	計
事業量	体験学習会	
参加者数	7人	7人
実施場所	美幌市立峰延小学校	

森林・みどり環境教育推進事業（A-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

光林会と道総研林業試験場、北海道水産林務部（美唄普及指導員室）が共催する「夏休みグリーンフェスティバル」は、地域の小中学生を対象として、森林や林業、みどりに関する知識の普及、意識の啓発を目的として毎年7月下旬の土曜日に開催している。

29回目となった今年度は、開催日を7月28日（土）として、「森のハーバリウム作り」や「ミニCTLでアクセサリ作り」など11の体験プログラムを実施した。さらに地元小学校のスクールバンドによるコンサートや出店者による木工体験ブースの設置など、林業試験場の施設等を活用して、森林や林業、緑に関する知識の普及・啓発を楽しみ雰囲気の中実施した。

2. 活動の成果

林業試験場の施設の活用や研究・業務内容のPRも通じて、森林や林業、みどりの大切さや良さについて普及啓発した。今後も道総研や北海道等連携して、森林や林業、緑に関する知識の普及・啓発を行っていききたい。

3. 参加者の声

来場者アンケート調査では「とても楽しかった」「楽しかった」の回答率が80%を超え、「あまり楽しくなかった」「つまらなかった」の4%を大きく上回った。具体的には「楽しい、勉強になる」との声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	計	
事業量	グリーンフェスティバルの実施		
参加者数	622人	622人	
実施場所	北海道美唄市光珠内町東山 林業試験場内		

森林ボランティア活動推進事業（A-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

道民の森への来園者を森林に誘導し、その巧みな仕組み、多様な生態、様々な効用を説明し、その重要性和親近感を抱くことができるように取り組みました。

また、インストラクターとしてボランティア活動にあたり、その更なる資質の向上を目指します。

2. 活動の成果

平成30年度のボランティア活動は、「森の観察会」では多様な働きを間近に見ることができる道民の森において、森の生い立ちとその役割、そこに生育する動植物の生態、人と森のかかわりを理解していただきました。

また、「水源の森」造成記念植樹では、森林の大切さと育成の重要性を理解していただき、ともに成果があったものと変えます。森の観察会や道民の森で開催される各種催事には多くの参加者があり、興味の対象も植物、昆虫、鳥獣、更には山菜と広範囲に及んでいます。

このため、これらを総合的に関連付けた、いわゆる森林生態系をベースとした解説を充実するためにインストラクターの養成に努めます。

3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは、森林に立ち入ることにより一見穏やかな森の中で植物間の生き残りをかけた競争や子孫を残す知恵、そしてこれと反して共存する姿を観察し、驚きと感動を得た。

また、植樹の参加者からは汗を流しながら植樹体験を体感することによって、樹木への愛情が生まれ、地球温暖化に防止につながる森林造成の役割を理解され、森林そして自然の大切さを改めて認識したとお声を多数いただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月1日から10月31日	計	計
事業量	森の観察会	森林散策と植樹ツアー	
参加者数	1,368人	846人	2,214人
実施場所	北海道当別町・月形町「道民の森」		

野幌自然休養林再生事業を中心にした森林知識の普及啓発活動（A-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野幌自然休養林にある捕植地（団体内ではシーズネットの森と命名）での活動も10年が経過、植樹した木木も2m～15mにもなつたが、初期には見られなかった笹が繁茂してきているため、下草刈りが重労働になってきている。

札幌市・石狩地域森林ふれあい推進センター主催の「札幌水源の森づくり2018」に参加し、ポットづくりをし、それを定山溪国有林への植樹に参加し、森林と実生活との関係を体験し、別に森林講座開催して、自然の驚異を勉強した。

2. 活動の成果

森林と環境（CO2）問題の関連性を考えた。

木の育成が長時間かかり、その間に生活環境も自然環境も大きく変化する事を知り、展望を持って育成していく必要を痛感している。

3. 参加者の声

- ・野幌再生事業の森林ボランティアを最初から参加しています。桜の木も大きくなり春には咲いていることを確認しました。嬉しかった。
- ・森林浴をしながらの作業、嬉しいけれど虫は嫌だ。特にヒルが居るとの情報にビビった
- ・初めて植樹に参加しました。私達が作業をする前に調査に来て、テープを張ったり、蜂の巣を駆除したことを聞き、安心して作業が出来る環境を作ってくれている裏方さんに感謝します。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月2日	7月4日	8月25日	9月30日	12月6日	計
事業量	事前調査	下草刈り	苗づくり	植樹	森林講座	
参加者数	4人	15人	22人	32人	16人	89人
実施場所	野幌自然休養林		創成川公園	定山溪	札幌エルプラザ	

次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

音更町、森町、七飯町において、子供を中心とした地域住民を対象に木工教室や自然観察会を開催し、森林・林業、木材の利用に関する体験活動を実施した。

旭川市、置戸町において、地元の高中生・中学生を対象とした枝打ち体験学習を開催し、森林づくりの体験活動を実施した。

本別町において、「銀河の里ツリーフェスティバル」の一環として、地域住民を対象に伐倒ショーや薪割り体験等を実施した。

2. 活動の成果

木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業や木材利用について、理解促進を図ることができた。

子供や中学生、高校生、地域住民が体験学習を通じて、森林の働きや森林の整備方法を学んだことで、森林に対して関心を持ち、森林の大切さや森林整備の重要性を理解することができた。

3. 参加者の声

- ・木工教室では、大人から子供まで楽しんで森林・林業や木材利用を学べる良いイベントだとの意見が多く好評であった。
- ・枝打ち作業では、「枝打ちは大変だったが楽しかった」「作業の重要性が理解できた」等の意見が多く、森林づくりに対する理解を深めていました。
- ・伐倒ショーや薪割り体験では、「初めて見て、体験して新鮮だった」「薪割り体験は楽しかった」等の意見が多く、森林・林業の普及PRができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月5日	10月14日	7月12日	10月30日	2月17日	計
事業量	木工教室 薪割り体験等 子供・地域住民 等	伐倒ショー 薪割り体験等 子供・地域住民 等	林業体験活動 (枝打ち外) 高校生・教諭外	林業体験活動 (枝打ち外) 中校生・教諭外	木工教室 自然観察会 子供・地域住民等	
参加者数	82人	300人	50人	39人	43人	514人
実施場所	十勝エコロジー パーク (音更町)	本別公園 (本別町)	旭川市江丹別町	置戸町字秋田	森町、七飯町	

北海道指導林家社会貢献緑化推進事業（A-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・幌延町、浜頓別町、中頓別町の小学生を対象にパネル等を用いて森林の大切さや桜の育て方の説明を行い、桜の種の播種、除草作業等の体験活動を行った。
- ・8月11日の「山の日」に木工体験コーナーを開設し、参加者に木に触れあうきっかけづくりを提供するとともに森林や木育活動などに関するパネル展示を行い、森林の大切さをPRした。
- ・津別町の道有林内において日本体育大学付属高等支援学校の生徒を対象に枝打ち作業と樹木学習を実施した。

2. 活動の成果

- ・小学生や高校生が体験学習を通じて、森林の働きや森林の整備方法を学んだことで、森林に対して関心を持ち、森林の大切さや森林整備の重要性を理解した。
- ・「山の日」PRイベントでは、来場した参加者に対し、森林の公益的機能の働きをPRするとともに木に触れることにより、木の良さを体感してもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・育苗体験活動では、児童は桜を育てる過程を熱心に聞き、楽しみながら種まきや除草作業に取り組んでいた。
- ・「山の日」PRイベントでは、木工体験をとおして、「木にふれあうことを子供に体験させることができてよかった」等の父母からの意見があり、好評であった。
- ・枝打ち作業では、初めて行う作業に「おもしろい」と楽しそうに取り組んでいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月12日	8月11日	8月11日	9月11日	10月24日	10月24日	計
事業量	育苗体験活動	「山の日」PRイベント		育苗体験活動		林業体験活動	
参加者数	24人	31人	43人	7人	8人	61人	174人
実施場所	幌延町 幌延小学校	中頓別町 道の駅 ピンネシリ	浜頓別町 ウソタン川 河川敷	浜頓別町 ライオンズ の森	中頓別町 町民 センター	津別町 道有林	

イベント「家族きのご観察会」（A-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 札幌市近郊の一般市民を対象に旭山記念公園においてきのご観察会を実施した。
- 観察会の内容は、参加者を3班に分け各班ごとに、観察会を実施し、鑑定用のキノコを採取した。なお、実施に当たっては、各班長の案内でキノコの解説並びにゴミの収集を行った。
- また、昼食時にはキノコ汁を振る舞った。

2. 活動の成果

今回の観察会を通して、キノコをとりまく自然環境、キノコの食・毒見分け方、美味しく食べる料理方法などを知ってもらえた。

3. 参加者の声

- ・初めて参加した人は、旭山記念公園にこんなに多くのキノコがあることに驚いていた。
- ・キノコ汁が大変美味しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月23日	計
事業量	キノコ採取 53種類	
参加者数	150人	150人
実施場所	札幌市 旭山記念公園	

お魚殖やす植樹運動促進事業（A-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当別町「道民の森」において、北海道女性連をはじめ、全道各地より水産関係者や農業・林業関係者、消費者団体等157名が参加し、ミズナラ・イタヤカエデ・ニレ各250本を植樹した。

また、過年度の植樹実施場所を視察し、苗木の成長具合を観察した。

2. 活動の成果

植樹を通じて、水産関係者だけでなく、農業・林業関係者や消費者団体等にも、植樹の大切さや森-川-海の繋がりについて理解を深めてもらえ、海洋環境の保護について様々な分野において認識を広められた。

また、本事業はすぐに成果が出るような内容ではないが、参加者が年々増加していることから、植樹の大切さが水産業界以外にも幅広く認識され始めていると思慮される。

3. 参加者の声

“森は海の恋人”と言われている通り、森-川-海の繋がりを意識しながら植樹を行えた。

過年度の植樹実施場所において、少しずつではあるが苗木が成長しているのを観察し、継続して行うことの大切さを実感した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月13日	6月3日	計
事業量	地拵え	植樹	
参加者数		157人	157人
実施場所	道民の森 神居居地区「水源の森」(当別町)		

☆木育ひろば2018inばんけい（A-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

親子で森林など自然とふれあい、木の種類や性質・見分け方などの勉強を行った。

散策をしながらクラフトで使う枝や葉を採ってきて、表札やスタンプを作った。

VR（バーチャルリアリティ）でチェンソーを使った枝払いの林業体験学習を行った。

2. 活動の成果

木によって使い方の違いや、葉の形の違いなどを勉強し、木の皮が薬になることは誰も知らなかった。

チェンソーの扱いの難しさを分かってもらえたが、VRがゲーム感覚だったので一番の人気コーナーになっていた。

3. 参加者の声

- ・面白かったので、来年もやってほしい。
- ・VRをもう少しやりたかった。
- ・豚汁が美味しかった。
- ・みんなが喜んでいて。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	計
事業量	☆木育ひろば2018inばんけい	
参加者数	57人	57人
実施場所	盤溪小学校と周辺の山	

森と自然体験の子どもエコキャンプ（A-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子ども達を対象に2泊3日の野外キャンプを行い、森林体験のほか下記のようなプログラムを実施した。

実施月日 8月3～5日 実施場所 白老町字石山 トラストの森及び周辺

参加者数 49名 子ども（小学生等）26名、大人（家族）2名
指導者・スタッフ等 21名（外部10名、会員11名）

プログラム内容 森の探索、夜の森ウォッチング、夜の森を感じよう、森の自然観察、
プログラム「森のために」（カラマツ天然更新地の除間伐、シカ被害対策の網取付）
木の実クラフト、たき火炊飯、川の自然観察・川遊びなど。

2. 活動の成果

森の手入れ活動や自然との触れ合いを通して森林や環境への関心を醸成するとともに、異年齢集団での活動を通して自主性、協調性を育むことができた。

今後も、多くの子ども達に森林の価値や森の手入れの重要性などを知ってもらうために、今回のような森林体験キャンプを継続していきたいと考えている。

3. 参加者の声

キャンプ最終日にアンケートを行ったところ、次のような回答があった。

- ・楽しかったことの中で森林体験では木の実クラフトと森づくり体験、たき火が多かった。
- ・次回のキャンプのプログラムの希望を聞いたところ、森の植物図鑑づくり、木の実クラフトのほか、楽しいので日数を増やしてほしいとの子どもの声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月3日	8月4日	8月5日	計
事業量	夜の対策 夜の森のウォッチング	除伐・枝打体験約0.125ha 夜の森を感じよう（個人）	木工クラフト （木の実等）	
参加者数	26人	26人	26人	78人
実施場所	白老町字石山 トラストの森と周辺			

身近な森林再発見事業（A-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

厚真町環境保全林において「石室広場」周辺の下草刈りを行い森林整備を進めた。それに伴い森林整備作業の際の安全確保に努めるため、機械安全講習を実施。厚真町内施設での座学と苫東社有林での実地研修にてチェーンソーの扱い、伐倒の際の安全対策等を学んだ。

また、厚真町環境保全林にて自然観察会を行った。環境保全林散策路の植物や昆虫を観察しながら散策、昼食には春の山菜を味わった。また、なめこの駒打ちも実施。

さらに、ツリークライミングや森林整備で活用するロープワークについての体験会も行った。森林整備に活用できる技術を高め、より会の活動の幅と安全性を深めることを目的としている。

2. 活動の成果

下草刈りについては、会活動の環境を整えるほか環境保全林を利用する他団体や一般市民の環境保全林の利活用も広げることができた。

また、自然観察会については幼児から年配者までが参加し、それぞれのペースで楽しむ自由度を持たせながら自然に親しむとともに参加者同士の交流を楽しんだ。

機械安全講習会、ロープワーク体験会については、今後の森林整備での安全への意識と技術を高め、会全体の意識の向上を行うことができた。

3. 参加者の声

- ・普段、家族だけで森に遊びに行くことはあまりなかったが、こういう機会があったことでたくさんの人と自然と遊ぶことが出来て楽しかった。
- ・ロープワークを基礎から教えてもらって興味深かった。今後の実際の作業で活用できるように繰り返し練習していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月8日～9日	5月19日	6月14日	6月23日	6月23日	計
事業量	機械安全講習会	自然観察会	厚真町環境保全 林下草刈り	ロープワーク 体験会	植生調査	
参加者数	8人	27人	1人	19人	5人	60人
実施場所	厚真町施設 苫東社有林	厚真町 環境保全林	厚真町 環境保全林	厚真町 環境保全林	厚真町 環境保全林	

五稜郭保安林清掃事業（A-13）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

五稜郭風致保安林の草刈りや植木の剪定、巣箱の清掃付け替え、ゴミ拾い等の清掃を行うことにより、緑化思想の普及啓発及び美化意識の向上を図った。

2. 活動の成果

緑化思想の普及啓発と美化意識及び貴重な風致・保健保安林の保護意識の向上が図られた。

3. 参加者の声

清掃終了後に五稜郭風致保安林を今後とも守り育てていこうと会員同士で話し合った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月27日	計
事業量	塀修理 草刈り、剪定 清掃活動	
参加者数	56人	56人
実施場所	函館市柳町	

木のグランドフェア（A-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

1) 活動の目的

(地独)北海道立総合研究機構林産試験場を開放し「木材の良さの体感、普段は見ること、触れることのない体験・発見」の提供により、木材に親しむ体験を通して、木材利用の拡大と北海道が推進する「木育」活動の一層の浸透を図ることを目的にしています。

2) 活動の内容

林産試験場を一般公開し、木材利用に係る試験研究内容を紹介するとともに、木材に関する科学実験、観察、見学ツアー、クイズラリー、各種の体験コーナーなど16種類のコーナーを設け実施しました。

2. 活動の成果

今年は716名の方にご来場いただきました。

多くの方々から「たくさん体験できて楽しかった」「木に触れることができて良かった」という声が聞けました。

来年度も実施したいと考えており、内容がマンネリ化しないよう参加者の声も参考にしながら催事運営に取り組めます。

3. 参加者の声

- ・身近な「木」について、なるほど〜と感動することがたくさんあり参加して良かったです。
- ・木の色々なことが知れて面白かったです。もっと知りたいと思いました。
- ・ハンノキでネームプレートをつくるのが上手くできて楽しかったです。
- ・いろいろな葉っぱでエプロンにスタンプしたのがおもしろかったです。
- ・木工作体験等で子供が色々な木に触れることができて良かったと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日	計
事業量	木になるフェスティバル	
参加者数	716人	716人
実施場所	(地独)北海道立総合研究機構 林産試験場	

「残された森」野幌原始林を学ぶー自然探勝会」普及啓発事業（A-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

旭川市、滝川市の一般市民を対象に、北広島市エコミュージアムセンター知新の駅、国指定史跡島松駅通所、黒田ハーブ農園農場において自然探勝会を実施した。

北広島市教育委員会が運営する北広島市エコミュージアムセンター知新の駅では、職員から講話をいただいた。参加者は森の面積が減少した理由や、現在の状況、維持活動の様子、北広島市民と森の関わりについて深く理解することができた。

その後、森林の沿革を事前調査し、それに基づいて作成した資料を参加者全員に配布して、バス車窓から野幌原始林を見学した。

2. 活動の成果

今回の事業の実施により、現在の森林面積の多くは再生されたものであること、そしてわずかながら残る原始林が人の手によって大切に守られていることへの参加者の知識が深まり、また森林を守ることの尊さについて理解が深まった。

森林の大切さへの理解が進んだことにより、地元の森林を守り育む取組に参加したいという参加者が増える事を期待できそうだ。

3. 参加者の声

- ・参加してよかった。北広島市に原始の森が残っていることを初めて知りました。
- ・知新の駅の職員さんの説明が丁寧で、森のことをよく理解できました。北広島市に息づく開拓者精神は素晴らしいものだと思います。
- ・1日を通じて自然探勝会のテーマがよく理解できた。北広島市のイメージが変わった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月19日	計
事業量	自然探勝会	
参加者数	40人	40人
実施場所	北広島市	

普及啓発事業（A-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私たちの生活と深いかわりをもち、限りない恵みを与えてくれる森林から生産される木材の良さを広く市民の皆さんに理解を深めたく、木に触れ、木と遊びながら木のもつ優しさ・暖かさが実感できる参加型・体験型のイベント、道産材・間伐材の紹介・パネルの展示、木材・木製品等の展示・販売等を通じて、森林や木の持つ素晴らしさ及び利用への理解を促し、併せて森林の持つ多面的機能及び地球温暖化対策の理解、さらに林業・林産業の振興をめざし開催した。

2. 活動の成果

現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされている。

環境エネルギー資源の問題解決に木材が中核的な役割を果たすことを期待し、暮らしに直結する身近な生活の中に木を取り入れてこそ癒されると、木材・木製品等の展示・販売、そして木工工作体験を通し多くの理解者が深い関心を持たた。

また、ポスターを各所へ掲示、チラシ配付、ホームページに掲載しネット配信、旭川市広報誌、タウン情報誌掲載等、広くPRに努めた結果、参加体験者が増えたことは森林・林業の収容性についての普及啓発の一翼を担ったと思う。

今後も森林・木材の普及啓発活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ・木を見て！触れて！学ぶ！体験コーナーでは、子どもたちが木の玉プール、スギックモック（杉の木の積み木）、削り馬（原木を固定する木馬型治具にまたがり、刃物で原木を削る）、おが粉アートなど木の温もりや匂いを感じながら過ごし、木とのふれあいを楽しめた。
- ・親子トンカチでは、家族で使える椅子を作った。紙すき体験でハガキを作った。
- ・木のブロックパズル（木のキューブを貼り合わせたブロックを組み合わせてパズルを解く）など木工工作を体験しながら作品を完成させた。
- ・販売コーナーでは、木工品をはじめシタケのほだ木・ラベンダー・クワガタに人気があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日	計
事業量	森の市の開催	
参加者数	1,000人	1,000人
実施場所	旭川林業会館構内 旭川市永山北1条10丁目8番3号	

「望みの森」森林浴の集い（A-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

上川北部森林室管理区内1林班「望の森」にて、森林浴参加の町民及び美深小学校3年生学年行事とタイアップして桜の木75本に、樹木専用棒状打ち込み肥料を、お礼肥として打ち込んでもらった、児童30名父兄等がてつだいで楽しんで心地よい汗をながした、作業したことにより桜の将来の姿など想像し子供同士会話が進み、より、森の樹木などに関心をもってもらえた。

2. 活動の成果

森林に親しみ、意識せずに体に良い運動し森の音楽会、輪投げ、靴飛ばしストリートダンス等を楽しみ、無料配布の、おにぎり、豚汁を食べ、ゲームに参加、玉子等景品を沢山もらい楽しい1日を過ごしたようです。森での楽しみ方や、森の木を大切に何時までも自然の恵みを享受できるよう育てることが如何に大切か思ってもらえた。

3. 参加者の声

- ・健康によく、楽しいので、又来年も友達を誘って参加したい。
- ・車の運転出来ない人は、その日だけ無料のバスがあればね。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月23日	計
事業量	施肥、自然観察	
参加者数	350人	350人
実施場所	道有林上川北部森林室管理区内1林班	

森林を活用した青少年育成対策事業（A-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

訓子府小学校の児童を対象に緑の教室を実施する予定であったが、北海道胆振東部地震に伴う停電の影響で、実施予定日の9月6日及び予備日の翌日7日ともに中止とした。内容としては、小学校付近の樹木について実際に現地での学習し、その後室内において識別試験を実施する予定であった。

自然観察会では、足寄町のオンネトー周辺と、清里町の斜里岳にて樹木草花等の観察を行った。

2. 活動の成果

足寄町のオンネトー周辺にて実施した自然観察会では、樹木草花の他、湖や滝も観察することができ、手つかずの大自然を体感したことで、自然への理解が深まった。

清里町の斜里岳では、「斜里岳原生林ウォーキングコース」を散策し、樹木や野鳥の観察はもちろん、東オホーツクの美しい自然を知り、自然保全活動等の重要性をより一層実感することができた。

3. 参加者の声

自然観察会において、樹木草花について学び、オホーツクの大自然を身近に感じたことで、自然を大切にしようという意識が高まったようであった。自然を感じられる機会が少なくなりつつある現代において、次世代へこの自然を引き継いでいくために、緑の教室等の普及啓発を続けていく考えである。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月7日	9月6日	9月29日	計
事業量	自然観察会	緑の教室	自然観察会	
参加者数	24人	中止	17人	41人
実施場所	足寄町	訓子府小学校	清里町	

森林及び木製遊具体験事業（A-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具で外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策(森林のお話と森の端材集め)
- ・木製カーリング体験キット

2. 活動の成果

日時 平成30年9月16日(日) 津別町ランプの宿、森林セラピー基地散策

参加人数 19名、森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、地域材で製作した「木製カーリング体験キット」により木材の利用拡大を理解することができた。小物入れ体験も行い木工体験ができた。

3. 参加者の声

- ・とても楽しく森の仕組みがわかることができた。
- ・カーリングを初めてやってみたが、おもしろかった。本物をやってみたい

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月16日	計
事業量	森林散策 木工体験	
参加者数	19人	19人
実施場所	津別町	

緑化団体ネットワーク推進事業（A-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

オホーツクの「みどり」を次代に引き継ぐため、オホーツク地域の各緑化団体等の取り組みの輪を広げ、みどりに親しみ、みどりを守り、みどりをつくるための活動を促進することを目的に、(1) 団体等相互の交流と情報交換、(2) 緑化活動の活性化、(3) 緑化推進によるみどりづくりに関する取り組みを行った。

2. 活動の成果

団体間で情報交換することにより、相互の交流や理解が深まった。また、各事業を実施することにより、構成団体はもとより地域住民のみどりに関する関心が深まり、みどりをつくるための輪が広がった。

今後もみどりの輪をさらに進める活動を継続する。

3. 参加者の声

- ・森林フェスティバルでの箸づくり体験が楽しかった。
- ・知床原生林の大木を見て自然の大切さを改めて感じた。
- ・みどり検定に挑戦、益々樹木や草花への興味が沸いてきた。
- ・全体会議の講演会で今まで知らない地域の生き物について知識を得られた。
- ・他の会員団体との交流が深まり、活動推進の参考となる多くの情報が得られ、みどりに関する魅力の情報発信の参考となった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28～29日	8月11日	10月13日	4月25日	計
事業量	オホーツク森林 フェスティバル	オホーツク みどり検定	「紅葉の知床悠久の 森」散策	全体会議講演会	
参加者数	297人	11人	16人	46人	370人
実施場所	網走市	網走市	斜里町	北見市	

生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間も輪を広げることを目的として活動している。具体的な活動としては、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っているボランティア育樹、針広混交林をめざす自然再生事業等への参加、パネル展・森林教室等での協力活動を行っている。また、森林ボランティア「オホーツクの会」の独自活動として「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、自然観察会（秋・冬）などを実施している。

2. 活動の成果

ボランティアの活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に対する関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになってきている。

3. 参加者の声

- ・スノーシューで森を歩くことが楽しく、そこで見たミズナラの太さに驚いた（冬の自然観察会）
- ・市街地に残された自然の中にあるエゾリス、シマリスが間近で見られてかわかったが、野生生物との関わりを考えさせられた。（秋の森林散策）
- ・木の枝やマツボックリなど、身近な材料で楽しめた。（パネル展：クラフト作り）

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月14日	7月28日	9月29日	9月30日	3月3日	計
事業量	森林教室	森林フェスティバル	パネル展、クラフト教室	森林散策会	自然観察会	
参加者数	50人	500人	200人	17人	31人	798人
実施場所	北見・網走市国有林内					

津別「げんきの森」活用推進事業（A-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「げんきの森」を活用し町内の子どもたちへの森林体験活動の機会提供に取り組む。

(1) ツリーイング

ツリーイング体験を通じて木と直接触れあい、木と人の関わりなどの学習を行う。

(2) 林業体験学習（ヤキイモ作り・ネイチャーゲーム・枯木抜倒・植樹）

森を育む心と森林の機能や役割について学習するとともに、地球温暖化防止に森林が果たす役割の理解を深めるため植樹を実施する。

2. 活動の成果

(1) ツリーイング

普段体験しない高さから森林を観察し森林を構成する樹種の違いなどを認識する機会を設けることができた。

(2) 林業体験学習

桜の苗木植え付けや枯損木の抜倒作業を体験し、樹木として成長する過程を学び、その理解を深めた。植樹体験やネイチャーゲームを通じ樹木への興味や関心を高める場を提供することが出来た。

3. 参加者の声

(1) ツリーイング

最初は戸惑いを見せる児童も見られたが、徐々にコツをつかみクライミングを楽しむようになった。普段見られない樹の上から見る景色に歓声が上げられた。

(2) 林業体験学習

植樹体験では「こんなに大変な作業をたくさんやっている人はすごい」、落ち葉を使ったヤキイモ作りでは「本で見たことはあったけど、本当に落ち葉でヤキイモが出来て感動した」などの声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月27日	5月11日	計
事業量	林業体験学習	ツリーイング体験	
参加者数	17人	18人	35人
実施場所	津別「げんきの森」（津別21世紀の森）等		

気軽に楽しめる霧多布の森づくり（A-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

団体所有林の整備として、所有林内で行われるエコツアーや環境教育で利用する散策路を安心して歩けるよう、下草刈りや枝落とし、劣勢木の伐採を行う。

間伐の際に出た材を可能な限り利用し、木のおもちゃの製作を目指す。その為、地元のおもちゃ作家の協力を得て、森をテーマとしたスマートボールを製作する。

間伐で出た枝葉を利用し、水蒸気蒸留により精油と水に分けて取り出す。また、幹については「ククサ」製作の為に利用し、ある程度の大きさまではこちらで準備しておき、仕上げを各自のデザインで作る。

2. 活動の成果

森林整備は、企業ボランティアにより下草刈り・枝落とし・劣勢木の伐採を行った。

作業完了の後、作業前との明らかな違いを感じてもらい、整備していくことの大切さを肌で理解してもらえた。

「ククサ」製作は参加者から好評で余材の活用として、有効だと感じた。

3. 参加者の声

- ・森は手入れが絶対必要！また参加したい。
- ・ククサで家族分のカップを作りたい。
- ・こんなワークショップを毎月参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月2日	7月14日	8月26日	9月1日	計
事業量	森林整備（草刈り）	森林整備 ボランティア（企業）	ククサ作り ワークショップ	森林整備（草刈り）	
参加者数	5人	20人	10人	5人	40人
実施場所	厚岸郡浜中町 四番沢20付近	厚岸郡浜中町 四番沢20付近	厚岸郡浜中町 琵琶瀬60	厚岸郡浜中町 四番沢20付近	

☆間伐施業体験事業（A-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

市内小学校4年生を対象に、市有林の間伐作業現場において森林施業現場見学会を実施した。

森林施業現場見学会の内容は、実際に間伐現場において稼働している高性能林業機械の作業風景の見学や解説を通して、林業という職業の具体的な作業内容や役割を学んでいただき、林業の重要性と素晴らしさについての普及啓発活動を実施した。

また、森林の果たす役割とその役割を維持するための手入れ作業の重要性について学んでいただくために、参加者には実際に枝打ち作業を体験していただいた。

加えて、親子を対象に魚箱制作体験をする木育推進講座を行い、根室市の間伐材を実際に利用し木工品の制作を体験していただいた。

2. 活動の成果

今回の森林施業現場見学会を通して、参加した生徒及び教員に対する森林・林業の重要性についての普及啓発及び長期的な視点での林業の担い手対策の一翼を担ったものと思う。

木育推進講座についても、参加者に普段触れる機会の多くない間伐材に接する機会を設けたことにより森林や林業への関心を深めること貢献した。

今後も更に多くの方に森林及び林業の重要性を普及啓発するため、同様の事業を継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

施業現場見学会については、参加者から、初めて体験する森林の枝打ち体験や高性能林業機械の性能に驚嘆の声が上がり、中には将来森林に係る仕事をしてみたいという感想もあり、参加者にとって非常に印象深い経験となった様子であった。

木育推進講座についても、改めて木製品の手触りなどに触れることで、優れた点を再認識し、今後も木製品を積極的に利用したいとの反響があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月16日	11月25日	計
事業量	森林施業 現場見学会	木育推進講座	
参加者数	56人	30人	86人
実施場所	根室市檜昔地区	根室市図書館	

緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業（A-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当団は、豊かな自然環境を活用した自然体験活動を主として、自然を愛し、ふるさとを愛す心を育てるとともに、集団活動を通じて相互に協力し合い、友情を深め、心身ともに健全で豊かな人間性を培い、また緑の募金活動や植樹活動等の奉仕活動、地域の行事等にも積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚を高めることを目的に年間を通じて様々な自然体験プログラムを実践しています。地元の講師に支えられながら実施した植物観察や春と秋に実施している野鳥観察、乗馬体験など専門的な分野にも触れながら、今年も楽しく活動できたと感じております。そのフィールドがあるのは緑を守る活動があってこそということも団員たちは理解しており、春と秋に2回行っている街頭募金活動では広く住民の緑の大切さをしっかりと伝え、植樹祭や林業体験への参加を通して、森林愛護の精神も活動の中で養うことができています。

2. 活動の成果

今年度も小さな子が多く苦労しましたが、育成会や中学・高校生の力強いサポートにより、予定していた活動を全て無事にを行うことができました。また、今年度は団員同士が話し合い、自ら計画することに重点をおいて活動してきたことで、プログラムのマンネリ化を防ぎ、団員の達成感が増し、より充実した活動になったと感じております。また、育成会との密な連携により、安全面でのサポート体制が充実したことも大きな成果であったと感じております。次年度以降も新たなプログラムを指導できる講師の発掘や指導者への研修機会の提供など、指導者育成に力を入れ、運営していくことを考えております。

3. 参加者の声

団員の父母からは子供たちがいつも楽しみにしており、帰宅してからその日の活動や出来事を目を輝かせながら話してくれるという声を聞き、私たち指導者の励みとなっているところです。また、3月には父母らを招いて、1年間のまとめを行いました。活動のライドや子供たちがまとめた発表を通して、団員の父母からは年々たくましく成長する子どもたちの姿にたくさんの感謝の言葉をいただきました。今後も地域の子どもたちとともに地域に根ざした活発な事業展開をしてまいります。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月20日	7月7日	9月24日	11月23日	その他28日間	計
事業量	野鳥観察会 中標津町植樹祭 緑の募金ほか	植物観察会	"野鳥観察会 緑の募金"	乗馬体験	活動事前学習 もくいく交流会 林業体験 雪像づくりなど	
参加者数	18人	18人	18人	15人	417人	486人
実施場所	中標津町森林公園緑のふるさと研修舎ほか根室管内					

青少年の木育推進事業（A-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

道東地域における緑の少年団等の交流や連携を深め、指導者のスキルアップを図ることを目的に「もくいく交流会inてしかが」を弟子屈町で開催した。

また、昨年制定された「北海道植樹の日・育樹の日条例」を記念して、「北海道の森をみんなでつくろう！」ワークショップを開催し、多くの一般道民の参加により「北海道の森」フラッグを制作した。

さらに、恵庭市立松恵小緑の少年団では、冬季の林間学校を実施し、冬の森林ならではの景色や生き物の存在を感じ、自然を尊ぶ心情を養った。

2. 活動の成果

「もくいく交流会inてしかが」では、地域独特のパイロットフォレストの見学と林業作業の現場を見学したほか、自然林の散策などを行い、木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育む取組を行った。

札幌市内で開催された「北海道の森をみんなでつくろう！」では、参加した緑の少年団により、豊かな森林を未来に引き継いでいく決意表明として「緑の宣言」を実施し、一般道民の賛同を得ながら、「北海道の森」フラッグを制作した。

さらに、冬季の林間学校では、小学校高学年と低学年が一緒の班となり、高学年が低学年を指導しながらそれぞれの役割を果たし、かつ、厳しい北海道の冬でも、美しい景色やいろいろな動物の痕跡を発見するなど自然とふれ合うことができた。

3. 参加者の声

「もくいく交流会inてしかが」に参加した子どもたちからは、「森林とその手入れの大切さ」や「人工林と天然林の違い」を学んで、勉強になったし楽しかったとの感想があった。

また、指導者から「子供達が自然にふれながらコミュニケーションや団体行動を取得できる良い活動」との感想もあり、指導者のスキルアップにもつながっている。

「北海道の森をみんなでつくろう！」での「北海道の森」フラッグづくりは、札幌地下歩道の通りすがりの親子が参加していただき、森づくりの大切さを体感していただいた。

冬季の林間学校では、天気にも恵まれ、野外活動も気持ちよく、冬の自然の美しさを味わえ、かつ、団体行動での高学年のリーダーシップなども見られ、充実した経験との感想をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21～22日	1月18～19日	1月19～20日	計
事業量	"もくいく交流会 inてしかが"	冬季の林間学校	北海道の森をみんなで つくろう！	
参加者数	20人	114人	2,400人	2,534人
実施場所	弟子屈町	札幌市	札幌市	
実施場所	中標津町森林公園緑のふるさと研修舎ほか根室管内			

「北海道木育フェスタ」春期推進事業（A-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林づくりを初めとする緑化活動を道民全体で支えていくという意識の醸成を図るため、普及啓発誌の作成・配布、春のキックオフイベントや北海道植樹祭の開催準備など春期の普及啓発事業を総合的に展開した。

2. 活動の成果

北海道森づくりフェスタは、広く道民や企業に森づくりへの参加・協力を呼びかけ、道民全体の力で未来に繋げる豊かな北海道の森を築き上げていく取り組みで、平成24年度から関係市町村等と連携しながら開催している。平成30年度は、9月9日（日）に開催予定であった植樹祭が、胆振東部地震の影響で中止となった。

令和元年5月11日（土）には、緑の少年団や関係機関等254名が参加し、春のキックオフイベントとして木育フェスタ開会式を実施した。「緑の募金」街頭募金の取組をスタートに、令和元年度は10月開催予定の「北海道植樹祭」などを柱に、全道各地で森林や木材とふれあうイベントを行う。

また、道内の緑化活動団体などを紹介した普及啓発誌「Gift」を4,000部作成して、関係機関・関係団体等へ配付し普及啓発を行った。

3. 参加者の声

5月11日に開催した北海道森づくりフェスタ開会式では、一般道民によるカミネッコ苗木づくりを行っており、参加者からは、「このまま植樹できるすぐれもの」で「実際に山に植えてみたい」との声のほか、式終了後の街頭募金に参加したガールスカウトなど緑の募金に協力していただいている団体からは、「令和になった新たな時代でも、緑の大切さをアピールしていきたい」との決意の声が聴かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日、3日	9月9日	5月11日	6月19～21日	計
事業量	2018植樹祭 準備工事	2018植樹祭 (中止)	木育フェスタ 2019開会式	2019植樹祭 準備工事	
参加者数	11人	-	254人	12人	277人
実施場所	当別町	当別町	札幌市	苫小牧市	

馬追自然の森整備事業（C-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業、また清掃作業と風倒木の処理及び登山口（7カ所）の粗大ゴミ清掃処理など、年数回実行して環境保護と整備に努めている。

自然の大切さを学ぶ研修会を開催するとともに、遊歩道を散策するトレッキングを実施している。

2. 活動の成果

遊歩道の整備をすることで、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者を和やかな気持ちにさせていただき喜んでおります。

毎年実施している登山口の清掃も、2カ所が道道に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ゴミは無くなりません。しかし現象はしてきていますが油断なりません。看板などで不法投棄を呼びかけるなど今後の課題です。

3. 参加者の声

会員達は、自然の森を守っていききたいという気持ちで、心強く取り組んで活動している。

漣台（山頂）の記録帳を見ると、町内外から大勢の登山者の方々に来ていただき、整備された遊歩道に賞賛する声が多数あります。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	8月22日	8月29日	10月10日	10月10日
事業量	観察学習会	漣台ベンチ脚修繕	漣台標識設置	長官山標識設置	長官山倒木処理
参加者数	23人	2人	3人	3人	3人
実施場所	北海道 夕張郡長沼町 馬追自然の森遊歩道一帯				
実施時期	2月6日	4月4日	4月20日	6月15日	計
事業量	研修会	長官山倒木処理	登山口清掃	草刈り	9回
参加者数	22人	6人	20人	15人	97人
実施場所	夕張郡長沼町 馬追自然の森遊歩道一帯				

台風被災森林の植栽後の保育活動（C-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

9月23日、北広島市里見町5・6丁目の住民を対象に、住宅地の南側に広がる里見緑地（第3周辺緑地）で「里見緑地台風21号被害観察会」を実施した。観察会の内容は当会が整備・保全している里見遊歩道（延長約2km）を皆で歩いて、去る9月4日の夜半から5日未明にかけて北広島市内を襲った台風21号による風倒木（100本余り）の状況を身近に観察し、自然災害の恐ろしさと森林保全の重要性を学習してもらうものである。

なお、観察会の開催に当たっては「里見緑地台風21号被害観察会里見遊歩道マップ」を作成して、参加者全員に配布した。

2. 活動の成果

当初は、当会設立10周年記念事業の一環として、地域住民を対象とした「里見緑地住民散策・交流会」を計画していたが、大型台風の被害で緑地内に風倒木が多数生じたので、台風による甚大な被害状況を知ってもらうため、急遽、上記観察会に計画変更して、自然災害の実態と防災減災に対する重要性について周知啓発を行ったものである。

3. 参加者の声

参加者は地元住民の大人がほとんどで、緑地内の遊歩道を利用したことがある者が大半であったため、無残な台風の爪痕を目の前にして、驚きの声だけが聞こえてきた。

あちこつで、遊歩道に風倒木が覆いかぶさり、路面も十数カ所ほど抉られていて段差ができ、幅も10cmを残すのみの箇所もあって、復旧には大変な労力と費用を要することを実感したようだ。会長から、風倒木は来年度以降、順次処理し、その跡地は均して植樹をしたい旨を伝えると、皆、声を上げて喜んでいった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月21日	8月3日 9月1日	9月23日	計
事業量		遊歩道へパーク敷き均し	里見緑地 台風21号被害観察会	
参加者数	49人	4人	21人	74人
実施場所	北広島市 里見緑地			

清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業（C-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○準備作業

・6/18厚田区発足ミズナラ100本仮植（青年部4名・職員1名）

・10/19厚田区発足仮植より（青年部2名・職員1名）

○広葉樹等280本を植栽し、当該植栽木の保育（根踏・下草刈）を実施

・10/20厚田区小谷ミズナラ280本植栽（女性部8名・青年部8名・役員6名・系統関係者17名・職員4名）

※合計延べ51名

2. 活動の成果

漁業関係者により、市有地「魚つき林」にミズナラの植樹を行って再生を目指す取り組みにより、森林を整備することの大切さや大変さを実感し、環境を保全することによる漁業資源の維持・増大に貢献できたものと考えます。

3. 参加者の声

今回、大学の講師の方が当組合役員の勧めもあり始めて参加して頂きました。ニシンについての著書もある方なので、この植樹した苗木の成長と海への影嘔を期待したいよの声がありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月18日	10月19日	10月20日	計
事業量	仮植	仮植	植樹	
参加者数	5人	3人	43人	51人
実施場所	石狩市厚田区発足・小谷（市有林）			

人道の森づくり事業（C-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

平成16年(2004年) 9月8日未明から北海道に接近した台風18号は、道央を中心とした太平洋側や日本海側に約4万haもの大きな森林災害をもたらした。特に支笏湖周辺の森では約7千haが根こそぎ倒された。このため、一般社団法人日本血液製剤機構千歳工場は、歩みの森、クロスの森、赤十字奉仕団の森を整備し、ボランティア団体や地域企業と共同で定期的に植樹、下草刈りを実施するとともに、観察会や勉強会を開催して森の働きを学び取組の輪を広げる。

2. 活動の成果

2018年夏の下草刈りには22名が参加し、苗木の栄養が雑草に取られるのを防ぐとともに、勉強会により森の働きを学び、各自が家族や友人に伝えた。

3. 参加者の声

途中(2010年) から参加して頂いている日赤奉仕団も10年目に入り、草刈にも慣れ、苗木の成長を楽しみにしている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日	7月21日	計
事業量	下草刈り	勉強会	
参加者数	22人	(22人)	22人
実施場所	国有林 5311林班	千歳工場 事務室	

台風被災森林の植栽後の保育活動（C-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○札幌市澄川都市環境林（札幌市56林班65.14ha）

台風や地震で被害を受けた傾斜木、中折れ木等の整理伐を継続的に行っています。

2004年と2018年の台風で被害を受けた風倒木の処理で生じた14ヶ所のギャップ地を開墾し針葉樹・広葉樹210本を植栽（京セラコミュニケーション14名、80本。ローソン38名、130本）。

今回の施業の特徴として開墾したギャップ地での自生種の自然発生を期待してヘクタール当たり千本の疎植えを実施しました。

安全作業の向上の一環として今年は風倒木処理を安全に進める為の現場講習会を行いました。

また、間伐材を活用したキノコ植菌ではホダ木200本に植菌し澄川南小、親子森林教室等で教材用に活用されています。

2. 活動の成果

○澄川都市環境林

現場での安全講習会の継続実施（下草刈り、間伐、枯損木等の処理）により安全への認識は向上している。

整理伐で生じたギャップ地の整備と植栽活動が進んでいる。

3. 参加者の声

澄川環境林のギャップ地に昨年植栽した苗木は実生発生した稚樹と比較して獣害の割合が高い事に驚いていました。やはり人間が手をかけた苗木は美味しいのかと！！

ウッドチップパー機での枝条処理作業は殆どの参加者が初めての経験に歓喜していました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/14	11/15	1/9	4/3	4/29	5/25	計
事業量	植栽 (130本)	ギャップ地 開墾 (0.5ha)	倒木安全講習	整理伐 集材作業	キノコ植菌	植栽 (130本)	6回
参加者数	15人	18人	18人	11人	11人	17人	90人
実施場所	札幌市 澄川環境林						

「遊々の森」での森林体験事業（C-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

石狩森林管理署管内の国有林において「遊々の森」を協定し、木の葉、樹皮などの学習、枝打ち、樹木の測定、植樹（苗）、森探検と動植物の観察（フィールドビンゴ）、カミネッコンによる植樹など、児童の発達段階を考えた活動を展開した。

2. 活動の成果

毎年継続的に実施し、系統的な学習を積み重ねることで、児童の森林や動植物への関心が高まっている。また、森林を守るためにどのような活動が行われているかについての理解も深まっている。植樹の際には、これから長い年月をかけて太い木に成長していくように、しっかり根付くように丁寧に作業していた。また、枝打ちや樹木の測定、樹木の種類とその特徴などの活動にも興味を持ち意欲的に取り組んでいた。低学年では、葉っぱを見たり拾ったりして楽しく木の種類を学んでいた。今後についても継続的にこの活動を実施させていただき、森林環境教育を通して、動植物愛護や学校林活動、花壇・教材園の活動の内容についても深めていきたい。

3. 参加者の声

のこぎりでの枝打ちが楽しかった。樹木の測定、樹木の種類は難しかったがよい学習になった。自然の中でのフィールドビンゴは書かれているものをしっかり見つけることができたし楽しかった。木、森林は私たちの生活に大切なものであることや、森林を守る活動をしている人たちの様子もわかった。また森林の学習をしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月12日	7月10日	7月9日	7月20日	計
事業量	はっぱの学習 葉っぱと樹皮 1・2年生	枝打ち 3年生	測樹 4年生	植樹・散策 カミネッコン植樹 5・6年生	
参加者数	79人	33人	50人	104人	266人
実施場所	北海道 千歳市鳥欄舞国有林 5298・5320				

コンサ百年の森づくり事業（C-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

台風被害により失われた支笏湖周辺の森を復興するため、2008年から植林した苗木の維持管理とともに、小学生を対象とした学習「森の教室」を現地で実施。石狩森林管理署の協力の下、森の生態系などの授業とカミネッコンを利用した補植作業を行い、森の機能を含む自然環境についての啓発と理解を深めてもらう。

2. 活動の成果

絶滅危惧種のシマフクロウをモチーフにしたコンサドーレのマスコット「ドーレくん」。子どもたちにも人気があるこのドーレくんを題材にした生態系についての学習や苗木の補植作業を現地で実施することにより、多感期の小学生に対して継続的な森の育成活動は生物多様性の保全に貢献できるのだということを理解してもらえた。

これからも「森の教室」を通して、子どもたちへ森林や自然環境についての理解を深める取り組みを実施していきたいと考えている。

3. 参加者の声

植樹は初体験という児童がほとんどで「森のことが勉強できてよかった。苗が元気に育ち、大きくなったらまた会いに来たい」など、それぞれにさまざまな思いを持ったようだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月18日	9月26日	9月27日	計
事業量	現地予見調査	下刈と置き苗床作り	学習と補植	
参加者数	1人	3人	73人	77人
実施場所	千歳市水明地区（石狩森林管理署 千歳森林事務所 5460林班）			

サミットの森プロジェクト（C-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

カーボンオフセットを目的とした植林体験や、下草刈りを通して森林保全の重要性を広く普及・啓発させる。

美幌町にて約0.5haの下草刈り体験（2018年6月実施分が7月に変更）や約200本のカラマツ植林体験（2018年10月）と森林の現状視察を実施。

2. 活動の成果

実際の森林整備を体験することによって保全の重要性やCO₂削減の大切さが理解されてきた。

今後できるだけ多くの方に参加できる機会を増やし、整備された森林を増やすことの一助としたい。

3. 参加者の声

初めて参加された方は、森林施業の重要性と大変さを感じ、毎回参加されている方は、関わった森林の成長を見るのを楽しみにしているようです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日	10月28日	計
事業量	下草刈り 森林視察	植林体験 森林視察	
参加者数	20人	10人	30人
実施場所	北海道 美幌町		

平成30年度 北海道小樽商業高等学校林「植樹の会」（C-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

北海道小樽商業高等学校では、同窓会組織の一つである校友会が中心となり、赤井川村字落合学校林で毎年「植樹」を行っている。今年度は10月20日に実施した。

参加者は小樽商業高校生、同窓会、PTAそして教職員、更に、苗木づくりに協力していただいた保育園児や保護者も加わり、後志総合振興局森林室及びびょうてい森林組合職員の指導をいただき、総勢38名でトドマツ苗木、合計50本を植樹した。

2. 活動の成果

活動の目的である、山林の素晴らしさや自然環境の保護の大切さを知る場となったことと、植樹活動を通じて学校林を育成し、将来に向けて木々とともに、学校の様々な伝統や取り組みを継承することができた。

また同時に、幼児・生徒・教職員・保護者・卒業生の異世代交流の場とすることができた。

3. 参加者の声

・異世代交流において、参加者から楽しかった、また来年も参加したいとの喜びの感想も寄せられるなど、自然環境の保護育成の大切さを実感してもらった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日	計
事業量	植樹の会	
参加者数	38人	38人
実施場所	赤井川村字落合（学校林）	

風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり（C-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

平成16年9月の台風で被害を受けた野幌森林公園の再生を検討する「野幌森林再生検討会」（座長：五十嵐恒夫北大名誉教授、主催：北海道森林管理局）の自然豊かな森林の再生に取り組む。

（内容）

- ・自生種の苗木による風倒被害地の再生を目的とした植樹。
- ・植樹した苗木の育成のための下刈作業。
- ・生育状況調査及び樹種選定の検討。

2. 活動の成果

- ・約1ヶ月前の強風により新たに風倒木が発生し、林縁のミズナラが1本植栽列をふさいでいたため手鋸で整理し植栽木の保存に努めた。
- ・植樹や保育作業（下刈）を通じて森林育成の大変さを学ぶとともに森林に興味を持つきっかけとなり、森林の重要性を認識することにつながった。
- ・自生種の苗木を植えることで樹種や特性についても学び、広葉樹に対する理解を深めることができた。
- ・植樹と下刈を始めて14年が経過し、樹木も成長し、植生も徐々に変化してきた。

（これからの取組）

- ・植樹や保育作業（下刈）などの森林育成活動の継続実施。
- ・生育状況調査及び樹種選定の再検証。
- ・女性や子供を対象とした森林学習会の実施。

3. 参加者の声

- ・自分が植えた木の名前はヤチダモと教えてもらったので覚えた。また来年来たい。（小学生）。
- ・カタツムリがいてかわいかった。雨が降ったのでスコップに土がふっついて大変だった。（小学生）。
- ・笹が太く、倒れているので刈りにくかったが、作業後はすっきりして達成感があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月29日	6月30日	計
事業量	植樹・下刈り 0.62ha	植樹・下刈り 0.62ha	
参加者数	4人	7人	11人
実施場所	野幌国有林42林班に小班（0.24ha）、54林班に小班		

未来に向かって日高の森林づくり事業（C-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地元の森林をフィールドに体験林業（森林再生を図るための造林地の下刈りや植樹・枝打ちなどの森林整備）を通じ、森林浴を満喫して、会員相互の親交を深める活動とする。

2. 活動の成果

森林・林業に関する理解の増進に資することができ、身近な自然に親しみ、森林づくりを楽しみながら、国土緑化事業や地域活性化に貢献していきたい。

3. 参加者の声

親睦を第一に、決して無理をせず」をモットーに、身の丈に応じた活動を続けており、国民の財産（森林）づくりに少しでも役立てたかなという満足感がとても心地よい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月13日 10月18日	7月6日 10月11日	7月12日	10月13日	計
事業量	希望の森事業 枝打0.75ha	町有林 枝打0.20ha 里親の桜 補植10本	森林再生事業 下草刈り 0.15ha	バットの森 植樹祭 植付500本	
参加者数	28人	23人	10人	9人	70人
実施場所	新ひだか町 国有林		苫小牧市樽前山麓 国有林	新冠町 国有林	

日高の森づくり事業（C-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

日高地域の森林で、主に地元小学生を対象とした環境教育を行い、子ども達に自然のしくみと森を大切にする気持ちをはぐくむ教育を行うことを目的に、植樹活動や枝打体験などを通じて、森の働きを学ぶ事業を行う。

新冠町立朝日小学校では、今年度も「総合的学習の時間」において、継続的に森林の働き、樹木に関する座学を実施している他、学校林「朝日の森」や学校施設を利用して、木工教室、植樹や枝打ち、シイタケ植菌等の体験学習を行い、またツリークライミングも実施した。

他に新冠町立新冠小学校の児童、新ひだか町及び浦河町内の小中学生を対象としたツリークライミング体験会を継続的に行っているほか、地域の子育てサークルの親子を対象に、森林を利用した野外活動、シイタケ植菌体験も実施している。

2. 活動の成果

身近な森林環境を活用して森林教室を継続的に行ってきた朝日小学校では、樹木や森林生態系への知識や関心を持つ児童が増え、さまざまな体験学習を生き生きと楽しむ姿が見られた。

また新冠町内及び近隣町で実施しているツリークライミング体験会では、リピーターの子も多く、普段の学校や地域活動では体験できない樹木や森林とのふれあいの中で、身近な自然に親しみ、新たな発見を楽しんでいた。

3. 参加者の声

- ・自分で道具を使って木を加工した表札作りが楽しかった。
- ・シイタケの植菌は、ドリルで穴をあけるのが難しかった。
- ・シイタケの植菌は、ホダ木を運ぶのは大変だったけど、穴あけやコマ打ちが楽しかった。
- ・木や草花のことや、森林の働きのことなど、いろんなことが学習できて面白かった。
- ・木の名前をたくさん覚えた。
- ・ツリークライミングで、高い木の上から学校の森が見れて感動した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月～9月	9月19日	11月20日	4月24日	5月14日	計
事業量	ツリー クライミング (8回)	枝打ち体験	木工学習 表札作り	シイタケ 植菌体験	植樹体験	
参加者数	97人	6人	6人	13人	7人	129人
実施場所	新冠町 新ひだか町 浦河町	新冠町 判官館森林公園 「げんきの森」	新冠町 朝日小学校	新冠町 朝日小学校 「朝日の森」	新冠町 朝日小学校 「朝日の森」	

「おさかなの森づくり運動」事業（C-13）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

八雲町遊楽部川は、全国でも有数の清流としてサケ・マスの遡上河川であり、またアユ等多数の魚類が生息している。近年、遊楽部川を含む管内河川の自然災害等により、河川の底棲動植物並びに水資源に対する影響が危惧される中、海を育む森づくり計画を策定し、海と河川に係わる森林整備を図るため、一般町民等の参加を募り緑の豊かな自然環境と普及啓蒙を図ることを目的とし、地域の関係者の連携のもとに植樹（ブナ・ミズナラ約600本）を実施した。

2. 活動の成果

平成6年度より毎年実施している本事業については、植樹による森づくり効果のみならず、本事業を今後も継続していくことにより、漁業者のみならず関係者間における森林整備が海と河川を育むという意識の維持・向上につながっている。

3. 参加者の声

毎年植樹に参加することで本事業の海への好影響を感じられる。

森林整備を継続していくことで河川からの立木や濁水の流出が抑制されることを願う。

さけ資源の維持・保護のため欠かせない事業である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月4日	計
事業量	0.2ha ブナ・ミズナラ600本	
参加者数	49人	49人
実施場所	八雲町上八雲 トウルベツ川 上流部	

市街地緑化事業（C-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

南かやべ森と海の会は、森林が持っている多様な機能が地域住民に理解されることに基づき、川汲川・大舟川流域の森林等の整備・保全及び河川環境の保全を推進することを目的に活動を行っており、活動の一環として環境美化の推進を図るため、平成30年度は大舟川周辺の豊崎生活環境保全林内にエゾヤマザクラ20本、イタヤカエデ20本を植栽した。

2. 活動の成果

エゾヤマザクラ、イタヤカエデの植栽により、大舟川流域の環境美化の推進および環境保全に対する普及促進が図られたものと思っている。

今後においても、川汲川および大舟川流域の森林等の整備・保全および河川環境の保全を図るため、植樹活動を継続的に実施していきたい。

3. 参加者の声

植樹活動による森林等の整備などが、河川環境の保全を図るうえで、重要なものであると再認識している様子であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日	計
事業量	エゾヤマザクラ 20本 イタヤカエデ 20本	
参加者数	35名	30人
実施場所	函館市豊崎町396番地1 (豊崎生活環境保全林)	

お魚を増やす森づくり（C-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

平成30年9月4日に占冠村国有林（遊々の森）で「自然体感ニニウの森で森づくり体験～次世代へつなぐお魚を増やす森づくり～（占冠村・上川南部森林管理署共催）」で開催されました。

この「お魚を増やす森づくり」は鶴川源流部で植樹をし、川を通じて栄養分を海まで運び豊かな海を作ることを目的に平成12年以降続いている植樹活動で、今年度から遊々の森を活用した森林環境教育として占冠村小学校を対象として、関係団体の協力で開催された。植樹活動に各グループなどと占冠村森林人林業グループ3名が活動に参加した。

また、植樹をした後の雑草や灌木を刈りはらう保育作業や、アオダモの食害を防止するため杭を立て周囲をのり設置を実施した。

2. 活動の成果

森林で植樹・保育作業を行うことにより、植物も動物もみんなつながっていけるよう「森・人・動物」のあり方を考える素晴らしい機会であったと思う。

3. 参加者の声

- ・森や木の大好きな私たちが、森づくりの実践活動を通じて、親睦を図るとともに「森の生活を楽しむか」を目標に、今後も活動を続けていきたい。
- ・今ある森林を絶えず育てていくことに自らが協力参加していくことは、小さいことかもしれませんが必ず将来への架け橋になるものと信じています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月28日	9月4日	10月4日	計
事業量	下刈り作業	お魚を増やす 森づくり植樹	桜の木 雪害防止柵	
参加者数	13人	3人	12人	28人
実施場所	占冠村国有林、国有林「ふれあいの森」			

旭川ユネスコの森づくり（C-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境保全及び青少年緑化教育活動を目的に、事前にミズナラの苗木を段ボールポットに移植し、大雪山の東川天人峡近くの国有林に出かけ、ミズナラの苗木を移植した。

その後、上川中部森林管理署の総括森林整備官から「森林の役割」についてのお話を伺った。

2. 活動の成果

植樹活動が19周年を迎え、一般市民の親子参加が増加し、行政との連携がスムーズになってきた。

植樹終了後は、森の神様と呼ばれるニレの巨木を見学し、森の自然を楽しんだ。

3. 参加者の声

1. 森林整備官の説明で、森の役割がわかった。
2. 子ども達「僕達は緑のダムを作っているんだね。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月11日	9月15日	計
事業量	下草刈り	苗木植樹	
参加者数	5人	47人	52人
実施場所	東川町野花南国有林		

みんなで作るビオトープの緑化・公園造成事業（C-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

平成30年度は、例年の維持管理作業に加え、羽幌の自然環境に対する地域住民の意識を高めるイベントなどを実施した。

5月に2つの植樹会、6月に記念植樹会を行った。

7月に北海道海鳥センター「海鳥フェスティバル」のイベントとして外来種（オウゴンゴウソウ）の駆除体験を行ったほか、

8月には羽幌高校の1年生とともに、ビオトープ内のトンボの調査や、池や水路の水質調査などを行った。

10月には町民対象で森や木の枝や末ぼっくりなどを使ったクラフト体験会を実施した。

2. 活動の成果

今年度の活動の実施により、町内や管内の一般市民が主体的に活動することで、地域の守るべき自然に気付いてもらうことができた。そして植樹会やクラフト体験会などの実施により、参加者に木を育てることの重要性和ビオトープの意義についても伝えることができた。また、高校生をはじめとする子どもたちがビオトープで環境活動を行う機会を設ける事で、地域の自然環境を守る次世代の人材にも寄与することが出来た。

3. 参加者の声

- ・草刈り活動や水草除去作業などは重作業で大変。また若い人が少なく参加者の高齢化が進んでいる。新しい参加者を増やす努力が必要。
- ・記念植樹に参加し、町の中心からこんなに近くに自然豊かな公園があると知った。子どもと一緒に散歩に来たいと思う

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月14日	8月30日	10月14日	計
事業量	植樹会 外来種駆除 1.6ha	環境調査 4.0ha	クラフト 体験会	
参加者数	170人	35人	20人	225人
実施場所	苫前郡羽幌町朝日（旧羽幌川跡地）自然空間はぼろ			

枝幸町民植樹祭（C-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

毎年、地域住民が自発的に植樹に参加し、オホーツクの海を豊かにするため、力を合わせて森林づくり活動を実施している。今回も昨年の植栽区域の地続きにアカエゾマツ、ケヤマハンノキ各300本を植栽した。

2. 活動の成果

地域住民参加のもと、豊かな「北の魚つきの森」を作り上げるため、協力して進める「協働」の考え方に基づく森づくりの意識高揚を図ることができた。

3. 参加者の声

毎年、開催される植樹祭に参加して、以前植えた木がすくすく育っているのを見ると、植栽した木々が、やがては大きな森となり、オホーツクの海をより豊かにしてくれると思ひ、参加者と力を合わせて、汗を流すことの心地よさを実感している。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月28日	8月30日	10月13日	計
事業量	地拵え作業	下刈り作業	"植樹活動 600本"	
参加者数	2人	3人	58人	63人
実施場所	枝幸郡枝幸町問牧（北の魚つき林）			

「帯広の森」づくり事業（C-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

帯広の森を拠点とした植樹・育樹等における帯広の森づくりガイドラインに相応しい自然と環境保全に寄与することを目的とする。

2. 活動の成果

帯広の森づくりは1975年に始まり、植樹・育樹活動はすでに40数年になる。現状として植樹後の育樹活動は一部を除き放置林状態であり、帯幌の森サポーターの会として入林してから12年目を迎えている。その間、本格的な教育もなく、初歩的な作業であったが、今日除伐期に入り対応が難しい状態に追い込まれ、知識・技術ともに備えた本格的な技術指導を依頼した次第である。

3. 参加者の声

一般にて森林に興味のある方、私有林を持っている方、森林ボランティアの方が参集しました。専門講師による、初めての説明、実際の技術指導に熱心に耳を傾け、実地指導も受け、時間が足りないほどの研修会になった。今後、参加された方の各現場で大いに役立つ研修会であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月30日	計
事業量	選木指導等	
参加者数	35人	35人
実施場所	都市公園 帯広の森	

森は海の恋人植樹事業（C-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

釧路町昆布森地域の住民や地元小中学生、関係機関を対象に、昆布森漁港近隣において植樹事業を実施した。
植樹事業の内容は、桜苗木の植樹を実施し、漁業資源の確保と水資源の環境を守ることの重要性と普及啓発活動を実施した。
なお、植樹会の開催に当たっては、鹿による食害被害を防止するため電牧柵による防止策を講じた。

2. 活動の成果

今回の植樹事業を通して、地域住民や関係団体に対し、水環境の保全や漁業活動に対する植樹の重要性についての普及啓発の一翼を担ったものと思う。

今後も植樹と水、漁業との関連を知ってもらうために、今回のような植樹事業における林業等の普及活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

参加者は、地域住民は昨年度も参加した人が多かったが、初めて参加した小学生等は、植樹事業を通して身近な海の環境が守られていることの素晴らしさや、植樹した樹木が大きくなって花が咲くことを楽しみとし、来年も植樹を実施したいとの思いを募らせていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4/24	5/14	6/1	計
事業量	電牧柵設置	植樹実施	植樹実施	
参加者数	7人	80人	64人	151人
実施場所	釧路町昆布森			

青森県森林づくり推進体験学習活動事業（A-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

午前：開会式、オリエンテーション、森林のエコ体験活動、午後：チェーンソーアート制作及び作品オークション各種4つの体験教室、(午前中の森林のエコ体験活動に参加した方を対象)の県産材を使用した木工教室、ドライフラワーアレンジメント教室、蜜ろうを使用したキャンドル教室、津軽伝統工芸アケビ蔓の細工教室を開催した。
県民に森林の重要性を認識して頂くために、「県民の森」で森林の機能や生態を学習する目的に体験会を実施した。

2. 活動の成果

参加者が森林を散策し、森林インストラクターから森林機能などについて説明を受け、森林の重要性等について理解や認識を深めてもらうことができた。

イベントを無事に終了することが出来ましたが、県民に継続して安全なイベントを提供するには、フィールドの下見に時間を掛け危険なスズメ蜂・毒蛇・熊などの情報収集して対応する必要がある。

3. 参加者の声

- ・木や草花の名前を知ることができた。
- ・森の中を歩いて気持ち良かった。
- ・森林が持つ機能について勉強になった。
- ・森林浴をして心身共にリフレッシュできた。
- ・午後の体験教室も楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日	計
事業量		
参加者数	約150人	約150人
実施場所	青森県 青森市	

青森県森林づくり推進体験活動事業（A-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・森林インストラクターによる1時間程度の森林エコ体験活動（森林・生態系等の説明）
- ・チェーンソーアート制作実演及び作品オークション
- ・森林、林業、緑化に関係する4教室の体験活動
 - ①青森県産材を使用した木工教室
 - ②ドライフラワーアレンジメント教室
 - ③蜜ろうを使用したキャンドル教室
 - ④津軽伝統工芸アケビ蔓の細工教室

2. 活動の成果

- ・参加者が森林を散策し森林インストラクターから森林機能等について説明を受け、森林エコ体験活動を通して森林の重要性等について理解や認識を深めてもらうことが出来た。

3. 参加者の声

- ・森林浴の持つ癒し効果を五感で感じる事が出来ました。
- ・森林が生態系にもたらす重要性がわかりました。
- ・木や自然の物に触れるとプラスチックなどと違い、温もりを感じた。
- ・飲み水や空気などに関わっている森林は、生きていく為になくってはならないものだと再確認した。
- ・健全な木の根には土壌をしっかりと固定する役割があるので土砂災害防止にも役立っていることを学びました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日	計
事業量	・森林エコ体験活動 ・体験教室	
参加者数	約150人	約150人
実施場所	青森県青森市浪岡大釈迦字沢内沢1-1	

平成30年度遠野市緑化祭（A-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私たちの生活に重要な役割を果たしている森林の多面的な機能とその大切さについて、森林整備の体験を通じて理解を深めることを目的とする。

2. 活動の成果

今年度は、遠野市上郷町細越にある初山市有林において開催した。

森林愛護少年団員や企業、市民や林業関係団体からの参加をいただき、住民が触れ合いながら、カラマツの植栽を行った。

昭和50年から44年間活動してきた鷹鳥屋森林愛護少年団から小友森林愛護少年団への移行式を行った。

また、記念植樹は、上郷森林愛護少年団や各森林愛護少年団によるシラカバの記念植樹を実施。上郷小学校では、大峰鉦山にあるシラカバ樹液採取を行っており、緑化祭会場の初山市有林でも樹液採取ができるようにとシラカバを植えた。

3. 参加者の声

森林愛護少年団の参加者は親子での参加が多かった。

少年団員からは、「森林の大切さや、木を伐ることの難しさを知ることができた。」等の声が聞かれ、森林整備への理解が深められたと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月8日	計
事業量	・カラマツの植栽 ・記念標柱設置 ・高性能林業機械の実演	
参加者数	482人	482人
実施場所	岩手県遠野市上郷町細越地内	

2018森林とのふれあいin平成市民の森（第12回盛岡市民育樹祭）（A-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民と森林とのふれあいを通じ、森林・林業への関心と認識を深め、緑化意識の啓発をはかる。また、森林等を散策しながら樹木に対する理解を深め、緑を守り育てる愛林思想の高揚を図る。

平成市民の森で、市民参加による育樹体験の機会を提供した。育樹体験等終了後にはドローンによる苗木運搬の実演を行い、これから期待される新しい林業の一端を見学してもらった。

また、育樹祭参加への記念として、ツリバナの苗木を配布し、地域緑化の啓蒙を図った。

2. 活動の成果

市民自らが育樹を体験することにより、森林とふれあい、森林や林業への関心と認識を深めることができた。

今回の会場は昨年と同じく、盛岡市川目にある平成市民の森で、昭和61年に市民育樹祭によりスギを植栽した場所で育樹活動を実施した。市民にとって森林愛護の啓発に繋がったと思われる。

来年については、育樹祭の実施を予定しており、育樹活動の体験から森林の大切さを伝えていきたい。

3. 参加者の声

- ・のこぎりで、さくさく切れたので楽しかった。
- ・大きな木になってほしい。
- ・なかなか普段はできない体験、子供と一緒にできてうれしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年10月13日	計
事業量	育樹体験 1,000本	
参加者数	163人	163人
実施場所	岩手県盛岡市川目第13地割96-14	

第4回久慈地方森づくり大会（A-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 目的

久慈地方の林業関係者等により植樹を行い、森林の有する公益的機能を再確認するとともに、住民の緑化意識の高揚と豊かな郷土づくりの推進に資する。

(2) 内容

久慈地方林業関係者、野田小学校5年生児童、久慈東高等学校生徒、管内関係機関153名が参加し、村内緑地（0.3ha）においてコナラ600本の植樹を行った。

2. 活動の成果

今小学生、高校生を含む参加者が植樹を体験することにより、森林や林業への関心と認識を深めることができた。

今後も、多くの地域住民に森づくりの大切さを知ってもらうために、森林・林業の普及啓発活動を展開していきたい。

3. 参加者の声

・コナラが大きく成長して欲しい。

・森林の大切さがわかった。これからも大切にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年10月30日	計
事業量	"コナラ植樹 600本"	
参加者数	153人	153人
実施場所	岩手県九戸郡野田村新町地内 緑地	

第50回岩手県緑の少年団大会（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団や森林（自然）愛護少年団が一堂に会し、森林を中心とする自然の中での学習や共同生活を通して相互に交流し、仲間の連携と理解を深めると共に、緑を愛し育てる豊かな心を育むことを目的に、少年団員の交流活動と第50回大会の記念行事を実施した。さらに、東北各県と北海道の緑の少年団にも本大会への参加を呼びかけた結果、秋田県・福島県からの参加を得て、県外少年団とも交流することができた。

2. 活動の成果

開会式において、第50回大会の節目の表彰行事として、大会参加回数が多い少年団に第50回大会記念特別表彰、長年にわたり活動している少年団に岩手県知事感謝状の贈呈、記念植樹及び記念標柱を建立して50回大会を祝った。その後、恒例の名刺交換と木工工作のほかキャンプファイヤー、出し物発表などの交流会を実施した。

二日目は、「岩手県民の森」内にある七滝までの散策と自然観察会を行った。

今年は、18少年団の団員数200名の参加があり、各少年団の積極的な交流で多くの友達ができ、さらには、人と動植物は豊かな自然環境によって生かされていることと、森林や自然を守ることへの重要性の理解と緑化意識の醸成が図られました。

県内の各少年団は年間の行事として、この大会は定着しており、次代を担う緑の少年団の育成や活動支援の一環として、今後も継続して大会を開催する予定である。

3. 参加者の声

- ・名刺交換した後に、笑顔で「ありがとう」と他の仲間に言われ嬉しかったし、沢山さんの人と友達になりました。
- ・自己紹介後の名刺交換・ジャンケンするのが楽しく、新しい仲間との思い出になりました。
- ・木工工作で綺麗なリースを作ろうと頑張りました。ドングリや松ぼっくり等の自然の物だけで、綺麗にリースが出来たので、自然の力はすごいなと思いました。
- ・今まで、他の仲間に言うのが難しかったのですが、6年生位の女の子の人が「一緒にやろう」と優しくさそってくれたのでうれしかった。私はジャンケンに負けると、「次は勝てるように頑張ってるね」と言ってくれたので、次は自分から人をさそえる自信ができました。
- ・仲間と触れ合う事が出来、自然の中で友達をつくることは楽しいことだと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年7月26日（木）～27日（金）
事業量	(1) 開会式＜寄木小学校鼓笛が歓迎の曲を演奏＞ ①結成20周年少年団の表彰2団 ②第50回大会記念特別表彰14団 ③岩手県知事感謝状2団 ④福島県からプレゼント紹介 ⑤農林中央金庫「花の種」の贈呈紹介 ⑥緑の誓い ⑦記念植樹 ⑧記念標柱建立 ⑨柏台小学校の太鼓演奏 (2) 全体交流会 ①名刺交換 ②木工工作（リース作り） ③植樹活動 ④キャンプファイヤー ⑤出し物発表（合唱、ダンスなど） ⑥早朝昆虫探し ⑦七滝散策・自然観察
参加者数	約340人（うち少年団200人、育成会73人、その他関係者）
実施場所	岩手県八幡平市「岩手県民の森」

宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

各みどりの少年団が、共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展及び健全な育成を図るため、第43回「宮城県みどりの少年団大会」を宮城県東松島市大曲浜海岸及び東松島市大曲市民センターにて開催した。

本大会は、晴天の中、県や開催地の東松島市等関係団体の協力により、少年団16団、総勢400名の参加により開催された。参加者は、東日本大震災により消失した海岸林の再生に向け、ボランティア団体から植栽方法の指導を受けながら、抵抗生クロマツ苗768本の記念植樹を行った。その後、式典会場に移動し、大会式典（表彰、活動発表）や海岸防災林に関するアトラクションクイズ、交流会（ものづくり、ネイチャークラフト）に参加した。

2. 活動の成果

参加者たちは、大会の各イベントへの参加を通じて、みどりや自然の大切さ及び海岸林の重要性を再認識するとともに、各団との相互の交流により、共通認識を図り連携を深めることができた。来年度以降も、各団の連携を深めるため交流を主眼に、みどりの少年団の健全な育成のため継続して開催を行う。

3. 参加者の声

当日は晴天で暑い中、植樹を行い、団員たちからは、笑顔がこぼれ元気に充実した1日を過ごした。

団員及び引率者からは、「仲間づくりができた」、「海岸防災林の重要性を認識できた」、「復興の状況を実際に見ることができた」などの声が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月27日	計
事業量	記念植樹 768本 式典 ネイチャークラフト	
参加者数	400人	400人
実施場所	宮城県東松島市 大曲浜海岸及び大曲市民センター	

緑と水のキャンペーン事業（A-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をなお一層向上させていくため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを実施した。

2. 活動の成果

緑の大切さをPRするため、緑の少年団、ボーイスカウト、子どもエコクラブ、高校生が地球温暖化防止や緑化推進を呼びかけ、花苗プレゼント、緑の募金活動を実施した。

3. 参加者の声

- ・花や木がいっぱいで楽しく過ごせる街になればうれしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成31年 4月20日	平成31年 4月20日	平成31年 4月28日	平成31年 4月27日	令和元年 4月27日	計
事業量	緑の募金 街頭 キャンペーン 街頭募金 花苗プレゼント 860鉢 苗木 210本 花の種 1,800袋	緑の募金 街頭 キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 150本	緑の募金 街頭 キャンペーン 街頭募金 球根プレゼント 600個	緑の募金 街頭 キャンペーン 街頭募金 花苗プレゼント 200本	緑の募金 街頭 キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 200本	花苗 1,060鉢 苗木 560本 花の種 1,800袋 球根 600個
参加者数	3,000人	200人	600人	300人	300人	4,300人
実施場所	秋田市	五城目町	大館市	八峰町	鹿角市	

市民グループ森林づくり事業（A-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができる。

3. 参加者の声

- ・地域が元気に次世代に継承される期待がある。
- ・自然の美しい公園を一般市民にもPRし、健康で楽しく歩ける公園を広めたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業量	参加者数	実施場所
8月31日	倒伏危険木等の処理	28人	由利本荘市西目町 田高町内会
9月1日	緑地環境保全	22人	大仙市富岡 十六沢城址緑市公園を守る会
10月14日	サクラとモミジの植樹 14本	18人	湯沢市 湯沢市中央公園愛護会
10月20日	森林整備	26人	秋田市河辺 御野場連合町内会
10月30日	森林整備	42人	湯沢市杉沢 新所森づくりボランティアの会
11月3日	サクラの植樹 20本	43人	仙北市角館町 株式会社花葉館・植栽グループ
計		179人	

緑の少年団育成事業 (C-22)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るための緑の少年団交流集会を開催した。また、学校における植樹体験を通じて、児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対して助成した。

2. 活動の成果

緑の少年団交流集会では県内の「緑の少年団」及び森林環境活動等を行う児童生徒が、それぞれの団体の活動発表を行うとともに、水と緑の保全と創造に関する自然体験や共同生活を通して新しい友達をつくり、水と緑を愛する心を育んだ。

3. 参加者の声

- ・知らない人ともチームワークをとれ仲良くなりました。
- ・白神山地の地形について知れて、知識が深まった。
- ・たくさん友達を作り楽しく過ごして2日間楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年 8月2日～3日	平成30年 7月～10月	平成30年 10月17日	平成30年 10月22日	計
事業量	秋田県 緑の少年団交流集会 バードコール作り、森 林散策、工場見学等	大仙市立 太田中学校 緑化活動及び大槌学園 緑化支援交流活動	大仙市立 豊成中学校 オオヤマザクラの 植樹	大仙市立 中仙中学校 樹木の整枝・ 剪定体験活動	
参加者数	38人	200人	70人	50人	358人
実施場所	秋秋田県八峰町八森 「あきた白神体験 センター」	大仙市	大仙市	大仙市	

森林活動指導者支援事業 (C-23)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。

また、森林ボランティア個人登録者670名への情報提供や、新規登録者へはヘルメットの贈呈を行った。

2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の底上げ、向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

3. 参加者の声

- ・2日間の研修で得た知識を今後の活動にいかしていきたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年 7月7日	平成30年 12月7日～8日	計
事業量	2018あきた水と緑の森林祭 植樹活動	緑の少年団指導者研修交流会 派遣研修	
参加者数	約200人	2人	ほか登録者670人
実施場所	美郷町 旧花園スキー場	東京都千代田区 砂防会館別館	

山形県緑の少年団交流研修大会開催事業（A-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

交流研修大会として、県内の21の緑の少年団が参加し、西川町弓張平公園パークプラザを会場に月山ジャンボリーを実施した。午前には緑の少年団活動発表大会を開催し、県内3つの緑の少年団の活動発表を、午後からは4つのグループに分かれて活動を行った。地区交流研修会は県内3地区において、自然観察やグリーンアドベンチャー及び木工クラフトなどを体験した。

2. 活動の成果

郷土の自然の中での活動を通じて、緑を愛する人間性豊かな社会人の育成へと繋げることができたことや、県内の緑の少年団同士の交流を図ることができた。また、指導者の情報交換の場としての役目を果たした。

3. 参加者の声

- ・自然に触れ合うことができ来年も是非参加したい。
- ・木の葉を観察し、姿や形の違いを学んだ。
- ・里山の大切さを体感・学習することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日	9月17日	8月9日	7月26～27日	計
事業量	活動発表大会 交流研修会	最上地区緑の少年団 交流研修会	置賜地区緑の少年団 交流研修会	庄内地区緑の少年団 交流研修会	
参加者数	180人	42人	64人	22人	318人
実施場所	西川町弓張平公園パークプラザ及び弓張平公園周辺・遊学の森・源流の森・ひらた生涯学習センター				

山形県林業まつり開催事業（A-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山形県林業まつりは、県民の森林や林業さらには環境に対する理解を深め、木材や林産物等の利用を促進するため「緑と水と木の祭典」(林業まつり)を開催し、美しく健全なやまがたの森林づくりを推進するとともに、地域林業・木材産業の振興を図る。主な開催内容は下記のとおりである。

- ・県産木材等の普及啓発
- ・木材を使った身近なクラフト体験
- ・子ども上棟式（餅まき）や木製大型遊具の展示等
- ・木工品の販売・体験

なお、当事業においては、木に親しむ幼児青空教室・木の体験・木製遊具コーナー・子ども上棟式を主体にイベントに取り組んだ。

2. 活動の成果

山形県林業まつりは28回目を迎え、広く県民に定着したイベントとして家族で来場するリピーターが多く、当事業においては木に親しむ・体験するイベントとして、子供を対象に木材による自由な工作が出来る「青空木工教室」や「子ども上棟式」、木と遊ぶ「木の体験コーナー」「木製遊具コーナー」を主体に取り組んだ。「青空木工教室」では木材を使っの椅子や本箱・棚などの制作を、「子ども上棟式」では、上棟式の神事や餅まきを体験、「木の体験コーナー」や「木製遊具コーナー」では、丸太切り競争及び木の積み木や昆虫等の木製遊具で自由に遊ぶなど、子供から大人まで参加できるイベントとして賑わった。

直接木に触れることで、木に対する理解を深める場となり、森林・林業の普及啓発にもつながっており、今後も木に直接触れる機会を作って行きたい。

3. 参加者の声

- ・毎年楽しみにしており、親子で一緒に木工工作が出来て良かった。
- ・近年新築しても上棟式が見られなくなってしまい、懐かし気持ちになった。
- ・木のぬくもり、香りを感じた。
- ・子供も大人も楽しめるイベントで楽しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	10月14日	計
事業量	テント 14張	テント 14張	
参加者数	1.8万人	1.8万人	3.6万人
実施場所	山形県天童市 山形県総合運動公園		

庄内森とみどりのフェスティバル開催事業（A-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割や森林整備の必要性、また地域産木材を利用することの意義について広くPRする。

主な事業内容は、木製品等の展示のほか、参加者が直接木に触れながら、その肌ざわりや香りを体感できる木工クラフトをはじめ、森林・林業・木材に親しむイベントを実施する。

2. 活動の成果

「フェスティバル」は平成2年度から継続して開催している事業であり、近年は、実施場所の市が企画するイベント「つるおか大産業まつり」、「酒田市農林水産まつり」との合同開催により知名度も上がり、数多くの参加者に「木の良さ、地域産木材利用の重要性」などをPRすることができた。

3. 参加者の声

- ・いろいろな物があって、大人も子供も楽しめるイベント。
- ・木のおもちゃはいいなと思った。木のおもちゃ博物館をつくって欲しい。
- ・木にふれる機会がないのでいいと思います。
- ・出展者と来場者の触れ合う良い機会

実績報告とりまとめ表

実施時期	(鶴岡会場) 10月13日、14日	(酒田会場) 10月27日、28日	計
事業量	テント 9張	テント 29張	テント 36張
参加者数	412人	113人	525人
実施場所	鶴岡市 小真木原公園内	酒田市 国体記念体育館周辺	

緑化普及啓発事業（第27回緑の提言・作文コンクール）（A-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。森林資源をとりまく諸情勢は厳しく全地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

2. 活動の成果

2018年11月から作品の募集を始め、年明けの冬休み終了後の1月10日前後から作品が届き始めました。

結果、小学校から66点、中学校から138点の合計204点の応募がありました。

2月14日に福島民友新聞社で審査会を開き、全部門合わせ、42名の入賞者を選びました。

翌日15日付けの福島民友本紙で結果を発表し、3月上旬までに賞状・副賞を学校宛に発送しました。

5月4日付け「みどりの日特集」で金賞・銀賞入賞作品を掲載し、その栄誉をたたえとともに、自然の大切さ・身近な環境問題意識の啓発をしました。

応募作品の内容としましては、自分の体験からくる自然・森林への思いや課題が多くみられました。身近な体験・自然環境に対する提言が多く、特に身近な体験に基づく内容は、事細かな事例や問題点が分かりやすくつづられていました。

今回も参加賞を用意しました。「花の球根と4寸鉢のセット」で、机の上で育てられる物です。身近に自然を感じてもらおうと企画しました。数年トライしてみて、反響を見極めたいと考えます。今後も、福島県の未来をどのように考えていくか、未来を担う小中学生の考え方を同コンクールを通して、紙面で伝えていきたいと考えます。

3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

■小学校低学年

- ・身近な自然に対する気付きや疑問を、子どもらしい着眼点でまとめた作品が多かった。
- ・家族との会話や、日常生活の中で緑に触れた経験など、些細なきっかけから自然について深く思いを巡らせていた作品が多く素晴らしかった。

■小学校中学年

- ・家族や級友との実体験に基づいた作文が多く、説得力があった。
- ・これからの実生活に生かしていこう、行動に示そうという決意に満ちた作品は読んでいて引き込まれた。

■小学校高学年

- ・提言が明確な作品が多く、とても興味深かった。
- ・具体的に調査した数値を根拠に論を展開した作品が多い。裏付けとなる根拠が明確に示されている作文は、やはり説得力がある。

■中学校

- ・直接的に自然と関わる体験も多かったが、自然と自分の間を取り持つ人物や出来事を通して自然と我々の関わり方について考えを深めた作品が見られ、一気に読ませる力があった。
- ・提言については、根拠となる情報をもとに理路整然と主張するものも見られたが、自分の生きた体験を考えた切り口にしたり、根拠にしたりできている作品は自分事として読む者に対して説得力をもたらした。
- ・時期的なものとして1・2年生の応募が多かった。自分たちの郷土愛を多く感じられるものばかりだった。より強くその思いを伝えられた作品は、体験をそのままではなく、それを自分なりに解釈し直したり、再構成したりして整理し、主張としてまとめられていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年11月1日	平成31年1月17日	平成31年2月14日	計
事業量	作品募集開始	作品締め切り	本審査会	
参加者数	204人		7人	211人
実施場所	本審査会は、福島民友新聞社で実施（事前審査は、附属小・中で実施）			

森林・林業とのふれあい事業（第43回福島県林業祭）（A-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本年6月9日に全国林業後継者大会、翌10日に全国植樹祭が本県で開催され、豊かな森林を次世代に継承する思いや、復興支援に対する感謝の気持ちと復興が進む本県の姿を発信した。

これらの大会を契機として高められた県民参画の森林づくりの機運を、未来に引き継ぎ、緑豊かなふるさとの再生を進めていくため、さらに多くの県民に森林・林業・木材産業への関心を持っていただくことを目的とし開催した。

林業コンクール等表彰式、森林・林業フォーラムを開催するとともに、復興再生に関するパネル展示や各林業関係団体PR、全国植樹祭・全国林業後継者大会PR、各種相談、木工工作コーナー、チェーンソーアート、きのこ品評会、模擬上棟式、森のコンサート、森のオークション、木製・竹製玩具体験、ツリークライミング、森の昔話、木工品・農林産物の展示・販売、チェーンソー選手権、林業担い手の主張などのイベントを実施し、県内各林業関係者のみならず、若年層から高齢層まで幅広い年齢層での参加があった。

2. 活動の成果

森林・林業フォーラムでは、森林の魅力や林業で働くことの大切さ、私たちにできることについて考える機会を提供し、多くの参加者の共感を得ることができた。

また、林業研究センター会場では、森林の大切さや山の恵みを活かす展示や体験、林業の担い手による抱負等の発表により、幅広い年齢層で、森林や林業、緑化に対する県民の意識が深まり、森林整備の推進や木材利用の拡大及び緑化の推進につながると思われる。

3. 参加者の声

県民からは、ツリークライミングから木工工作体験など幅広い体験を1会場で出来る機会は貴重だった、子供と一緒にできて楽しかった、また来年も参加したいという声が聞かれた。出展者・関係者からは、木工工作等の体験イベントや恒例イベントは継続しつつ、新規のイベントを実施することで、来場者が増え、県民への理解が深まるとの意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日～21日	計
事業量	第43回福島県林業祭の開催	
参加者数	7,000人	7,000人
実施場所	福島県郡山市安積町成田字西島坂1	

ファミリー緑の教室の開催事業（A-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

家族が共通の課題をテーマに、一日一緒に自然に親しみながら、地球温暖化防止等の緑の重要性を認識するため、森林・林業体験等を通じて、緑に対する愛護の心情と豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進することを目的として開催する。

【内容】

休日を利用して、家族の参加者を募集し、一日共通のテーマで自然に親しみながら福島県産間伐材を使用した木工工作キットによる木工クラフトや、ネイチャーゲーム、自然観察等を実施した。

2. 活動の成果

自然観察会及びネイチャーゲームを実施し、日常生活では触れることのない植物や昆虫に触れながら森の恵みや森林と人間の共生を学習することができ、あらためて「緑」の大切さ、森林の重要性を認識できた。また、家族と一緒に参加することで、普段の生活とは違ったコミュニケーションを図る機会を創出できた。

3. 参加者の声

自然観察会では、植物の名前について由来や特徴を交えて紹介することで、参加者が理解しやすく、「いままで何気なく目にしていた草花の名前を覚えることができた。」との感想が聞かれた。木工クラフトでは、参加者の年齢に合わせて難易度をかえて行ったことで「大人も楽しめる事ができた。」「来年も参加したい。」などの意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日	9月1日	12月15日	計
事業量	自然散策、木工クラフト、ネイチャーゲーム	自然観察会、木工クラフト	木工クラフト体験	
参加者数	家族22名	家族17名	家族22名	61名
実施場所	いわき市	南会津郡只見町	伊達郡国見町	

都市と農村の交流事業（第31回ふくしま緑の百景歩こう会）（C-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

新緑のコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的に併せて、参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために毎年実施している。今年は田村市で開催。

「ふくしま緑の百景」に選定されている、「日本五大文殊安倍文殊菩薩堂の杉並木」と大滝根河畔の桜を愛でるコースで実施した。豊かな自然や緑の百景色の選定地を中心としたコースで、家族や仲間たちと楽しみながら歩き、健康づくりと、ふくしま緑の百景の景勝地を歩くことで自然と緑の大切さを学んだ。

2. 活動の成果

福島県内と近県から、1000名を超える事前申込がありました。コースは豊かな自然と鍾乳洞で有名な「あぶくま洞」や星の村天文台など様々な景勝地や日本五大文殊菩薩堂のひとつ「安倍文殊菩薩堂」までの緑豊かな参道を歩きながら、自然を愛でながらウォーキングコースを楽しみながら歩きました。コースの途中には、大滝根川の河川敷にある桜並木を見ながら春の景色をたのしみました。

スタート・ゴール会場となった田村市の船引小学校校庭では、様々なおもてなしやトン汁なども、名産品、銘菓を振舞った。なお、受付、スタート、ゴールの各地点で緑の募金などで、緑化活動を行った。

3. 参加者の声

福島県の中央に位置する田村市の美しい自然と緑、歴史、食の宝庫である田村市で開催。県内外から多くの参加者が訪れました。富士山に似ている田村富士や大滝根河畔の桜並木を歩き、安倍文殊堂までの杉並木の参道で、森の空気と山の神様のパワーを感じながら、未舗装の参道を歩く、昨年に引き続き上り坂のコースもあったが、安倍文殊菩薩堂の知恵にあやかろう、参加者全員が参拝した。

今回も見どころも多く、歩き応えのあるコースでしたが、多くの参加者から、「来年も是非、この歩こう会に参加したい」、という声を多数頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月14日（日）	計
事業量	第31回緑の百景歩こう会開催	
参加者数	550人（申込者650人）	550人
実施場所	福島県田村市	

未来の森林づくり交流事業（C-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第69回全国植樹祭を契機として、人と人とのつながりや森林と人との絆を深め、愛するふるさとや未来の子どもたちへの思いをこめた植樹活動や交流イベントを開催し、森林づくりを推進するとともに震災からの復興の姿を広く発信することを目的に実施した。

第69回全国植樹祭2018の開催理念継承事業の「第1回ふくしま植樹祭」と合わせて実施し、県内外から多くの参加者があった。植樹活動では、海岸防災林の主林木となるクロマツやスダジイなどの広葉樹の苗木27,000本を植栽することができた。また、交流活動では、企業や団体の協力による木工体験、丸太切りのコーナーや観光PR、特産物の販売コーナーが設置され、参加した人たちが楽しんでいた。昼食時には、おにぎりや飲料水、豚汁を無料で配布した。

2. 活動の成果

福島県内外より多くの参加を得て、ふるさと再生への思いを込めた植樹等を行い、復興に向けて歩み続ける福島の姿を来て、見て、実感していただき、福島への応援と共感の輪を広げる事ができた。また、福島への復興を応援するため、歌舞伎俳優の市川海老蔵氏が参加した。

3. 参加者の声

参加した緑の少年団員からは「自分に子どもができるころには大きな森になっているかと思うとワクワクする。」と将来へ期待する声が聞かれた。植樹した人たちは「震災の記憶を伝えていくためにも子どもたちが参加することはとても意義深い、すばらしい植樹祭になった。」「全国から多くの人が集まって植樹してくれた。災害から福島を守ろうという強い気持ちを感じた」と感謝の気持ちが聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月4日	計
事業量	クロマツ苗木植樹 9,000本（1.5ha） 広葉樹の植樹 18,000本（0.4ha） 交流イベント（木工体験、県産品の販売）	
参加者数	約3,000人	約3,000人
実施場所	南相馬市鹿島区北海老地内	

青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業（A-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

教育機関への森林林業情報を流し、緑化の普及啓発を図るため、茨城県林業普及協会発行の月刊誌「林業いばらき」を県内約916か所の機関に無償配布した。

2. 活動の成果

当機構の進める「緑育」の出前授業や林業体験学習等の成果を小中学校全部に情報提供でき、また各種緑化イベントの周知徹底も図れた。

3. 参加者の声

緑化だよりで地球温暖化防止による異常気象などと森林の関係が分かって良かった。

緑化コンクールなどの表彰が近隣の関係者に周知されて良かった。

緑化関係イベントの開催情報がよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	毎月	計
事業量	916部／月	
参加者数	教育関係者多数	多数
実施場所	茨城県一円	

緑の体験教室開催事業（A-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団から公募して宿泊合宿を行い、樹木を中心とした自然とのふれあいを目的とする緑の少年団活動を体験学習させた。

2. 活動の成果

地域少年団の年代別、地域別の団員の交流により、幅広い活動意識が伝播し、樹木テストや木工教室での触れ合いによる本物のスキルを体験したこと。この体験教室を軸に県内5地域の地区緑化推進協議会ごとの秋の巡回開催なども話しあえた。

3. 参加者の声

いろいろな体験ができて楽しかった。

樹木テストで木の名前を覚えたので兄弟や友達に教えたい。

もっとたくさんの参加者がいると交流できる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30日	7月31日	計
事業量	野外活動発表、炊飯、 キャンドルファイヤー	森林散策及び樹木テスト、 木工工作 林業講話	
参加者数	39人	39人	78人
実施場所	茨城県 潮来市 水郷県民の森、	行方市 白浜少年自然の家	

グリーンフェスティバル開催事業 (A-45)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

茨城県が主催する土浦市の霞ヶ浦総合公園内で開催したグリーンフェスティバルのなかで緑化関係コンクールの表彰式及び伝達式を開催した。参加者は約10,000名で、続いて同じ会場内で緑の募金活動を行い、竹炭の無料配布や募金グッズを配布した。同じく緑化写真やポスターの展示もおこなった。屋外の体験コーナーでは緑の講話の後、間伐材を使用したプランター造りやを行った。

例年開催している茨城県森林保全協議会、茨城県森林ボランティア団体連絡協議会との共催のグリーンフェスタ・森林保全は行わず、県内で活動する森林ボランティア団体会員等へ樹木関係図書を配布し情報の提供に努めた。

2. 活動の成果

県全域の緑の少年団の参加や森林ボランティア、そして多くの一般県民に緑化事業の重要性を認識させ、また参加意欲を喚起したことである。

3. 参加者の声

木にふれあうことが少ないのでとても良いイベントだと思う。子供たちの林業への興味・関心がとても強くなった。

色々な緑の活動があるのでできれば参加したい。参加して林業の素晴らしさを知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月28日	1月～3月	計
事業量	森林ボランティア団体、 緑の少年団、一般県民	森林ボランティア団体	
参加者数	10,000人	300人	10,300人
実施場所	土浦市 霞ヶ浦総合公園		

森林ボランティア育成事業 (C-26)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

団塊の世代中心の森林ボランティア団体が急増したため、情報の共有と森林整備技術の取得を目的に、宿泊合宿により指導者の養成を行った。研修内容は各団体の活動発表、意見交換、技術講義、林業講義、林業用機器の整備方法の研修等各団体混合の班編成による組み合わせで実施した。

2. 活動の成果

各団体混成により、ネットワークができ、研修後も連絡を取り合っている。また研修後は各地別々の活動にゲストとして参加し技術の向上や知識の伝播が図れた。今後は同じ地域で活動する団体を研修会に参加させネットワークに入れ、連絡協議会員として情報の共有や活動フィールドの確保等につなげたい。

3. 参加者の声

他団体との交流がはかれてよかった。間伐の技術や機械整備の技術も高めたいので林業資格取得の場としてほしい。

なかなか見ることのできないバイオマス発電所の見学ができ有意義だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月7日	12月8日	計
事業量	森林整備技術実習	森林林業の座学	
参加者数	32人	32人	64人
実施場所	茨城県 大子町 奥久慈憩いの森		
	茨城県 常陸太田市 日立造船(株)バイオマス発電所		

山村地域づくり活動助成事業（C-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林環境整備を実施しているグループ等に技術指導や森林整備機器の助成等を目的に、自然環境特に森林整備の促進が図れた。

2. 活動の成果

地域のグループの指導や活動機器の整備により連帯感と義務感が生まれ、地域独自の植生保全等への関心が高まった。今後は他地域との交流により幅広いネットワークに参加させ、より多くのマンパワーの集結を図ること、リタイヤ年齢層と若年層参加による多くの人々の交流を図りたい。

3. 参加者の声

地域住民の連帯感が強まった。定期的集まることにより協働作業に生きがいが生まれた。生物に興味が生まれた。地域文化の保存が図れた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計
事業量	森林整備・環境整備・間伐実施・竹林整備・松林再生等	
参加者数	約300人	約300人
実施場所	茨城県 石岡市等10か所	

緑化樹木等苗木無償配布事業（C-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑化思想の普及啓発と、県民に直に樹木と接して心の豊かさを感じさせることを目的に、関係団体や市町村のイベントに合わせて、緑の募金活動とセットで苗木の無償配布を行った。

2. 活動の成果

県民参加の森づくりや街頭募金活動、地域のイベント等で苗木の無償配布や記念植樹用苗木の提供などを行い、地球環境保全と緑、特に樹木を認識させた。各市町村に広く事業の普及を広げていきたい。

3. 参加者の声

持ち帰って庭に植樹できてうれしい。記念日に木をもらったので大事に育てたい。あまり大きいと持ち運びに大変なのでミニ樹をほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月～3月	計
事業量	苗木の配布及び緑の募金PR	
参加者数	多数	多数
実施場所	県内一円	

森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業（A-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋季緑化期間中に、20市町27会場において苗木の配布会を行った。

また、苗木配布会には県土緑化メッセージを知事名・当機構会長名で読み上げ、緑化の一層の推進を図った。

なお、当機構の情報・活動内容を掲載した、広報誌「とちぎの緑化」を発行し、県内一円に配布して緑化の推進を図った。

国土緑化推進機構作成の国土緑化運動ポスターを、学校等へ配布し、緑化の重要性について普及啓発を行った。

2. 活動の成果

苗木配布会をとおして、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の高揚に資した。

また、苗木配布会場においては、募金箱や募金チラシ等で募金活動を実施し、県民の多くの方々が緑化募金に協力した。

なお、当機構の機関誌「とちぎの緑化」には、機構の組織・事業内容、事業実施者の感想等を掲載し県民の皆様へ配布し、当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただいた。今後より一層緑化の推進に努めていきたい。

3. 参加者の声

- ・苗木配布会でいただいた苗木は、大切に育てます。
- ・緑が多いと気持ちがいいですね。
- ・今後も苗木配布会を引き続き実施して欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月30日	5月31日～6月30日	計
事業量	苗木 5,274本 ポスター配布 1,030枚	広報誌「とちぎの緑化」配布 600冊	
参加者数	5,900人	550人	6,450人
実施場所	苗木配布会：20市町27会場 ポスター・機関誌：各学校・各市町等		

青少年の教育の場としての森林活用促進事業（C-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然体験をとおして、森林の重要性の理解を深めるとともに、自然環境と共生できる豊かな心を育むため、栃木県緑の少年団連盟、とちぎ環境・みどり推進機構共催で、「2018森林体験ツアー」を日光市で開催した。奥日光戦場ヶ原では自然観察会、日光自然博物館では奥日光の自然や歴史を勉強した。

2. 活動の成果

自然観察を体験することにより、自然を身近に感じられた。日光自然博物館では、奥日光の自然や歴史について、映像や展示物を見ながら楽しく学習した。これらの活動を通じ、子どもたちの自然への関心が高まるとともに自然への理解が深まった。また当機構の機関誌「とちぎの緑化」に掲載し、当機構の会員等に配布するとともに、当機構HPに掲載することにより、当機構の活動状況を発信し、森林への理解を深めることにつながる。

今後も、子どもたちが森林への理解を深めるための活動を継続的に実施して行きたい。

3. 参加者の声

- ・自然にふれあいながら観察することはあまりなくて、とても楽しみながら学べた。
- ・自然観察ガイドさんの話が楽しく、日光の自然について勉強になった。
- ・日光自然博物館の映像映画の内容が楽しく、とてもわかりやすくて良かった。
- ・森林体験ツアーに参加して、いろいろなことが学べてためになったので、この栃木や日光の自然を大切にしていきたいです。このようなイベントがあったら参加して、自然についてもっともっと知りたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日（土）	計
参加者数	参加者 17人 講師・他 4人	21人
実施場所	栃木県日光市 奥日光戦場ヶ原他	

森林環境教育指導者等支援事業（C-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子供たちが森林に対する親しみや理解を深めるために、森林ボランティア等を対象とした森林環境学習指導者研修会を開催した。

研修会はフィールド研修として、栃木県北部の塩谷町の小学校跡地で森づくり活動を実践している「くまの木里山応援団」の協力のもと、「下刈り作業」や「どんぐりの種うえ」、「焚き木を使った炊飯活動」など、森林体験活動に必要なノウハウや体験活動の注意点など実践に向けた研修を行った。

また、「里山の価値とこれから」というテーマで宇都宮大学の地域デザイン学部の高橋教授の講義では、「里山と人とのかかわり」「里山のなりたち」など、幅広い観点での森林・里山についてを学び、森林環境学習のフィールドとしての里山の価値について、新たな認識が得られた。

2. 活動の成果

森林環境学習の実践的な活動を学ぶことができ、体験作業の目的をどうわかりやすく伝えるか、また、いかに現場での安全面を配慮して実施するか等、指導方法等について理解が深まった。

さらに、森林環境学習のフィールドとして活用している里山の歴史や文化を知ることによって、里山と人とのかかわりを学ぶことができ、森林環境学習活動に効果的につなげることができる。

今後も、子どもたちが森林への親しみや理解を深めるため、森林ボランティア等に対して、実践的な森林環境学習の研修活動を継続的に実施して行きたい。

3. 参加者の声

- ・子供たちへどう伝え教えるべきかを深く考えながら実践できて、とても有意義であった。
- ・自分で楽しく行うことが、子供たちへも活動の楽しさが伝わることを身をもって体験できた。
- ・里山という資源を改めて考えることができた。
- ・いろいろな歴史や文化、人とのかかわりが今の里山を作り上げてきたということを知りたいへん勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月18日（日）	12月22日（土）	計
参加者数	参加者 17人 講師・他 10人	参加者 15人 講師・他 5人	47人
実施場所	栃木県塩谷町 くまの木地内	宇都宮市（栃木県庁）	

群馬県植樹祭開催 (A-47)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民の参加のもと、緑化思想の普及・啓蒙を図るため、群馬県、みどり市及び林係団体等と8者共催で、「第73回群馬県植樹祭」を開催。

参加者自らが苗木を植えることで、身近な環境緑化の運動推進と緑化思想の高揚を図ろうとするもの。

2. 活動の成果

群馬県植樹祭は、緑豊かな住みよい郷土を作るために行っている郷土緑化運動の中心的行事であり、参加者による記念植樹を通じて、県民の森林に対する愛情と理解を培うことを目的に毎年開催されている。

伝統ある行事ではあるが、より効率的な方法を検討していきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ・僕が植える1本の木が、やがて立派な森林になるのが楽しみです。
- ・天皇陛下御即位の記念すべき年に、かつて皇太子ご夫妻としてご視察になった富弘美術館で植樹祭を開催できて喜ばしく思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月25日	計
事業量	第73回群馬県植樹祭	
参加者数	1,000人	1,000人
実施場所	群馬県みどり市東町「富弘美術館」	

森と木のまつり (A-48)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の素晴らしさ、林業・木材産業の現状、山村の伝統文化・産業等を紹介し、地域住民に理解を促すことなどを目的として、毎年各地でイベントを開催し、森林・林業に親しむ機会を提供している。

各地域でイベントを開催するにあたり、国関係機関、地元の市町村や森林組合、農業団体、福祉団体、環境団体、NPO団体、地域活動団体などとも連携して事業を実施している。

2. 活動の成果

森林・林業に親しむ機会を提供する地域に密着したイベントとしている。

参加者からイベントの継続を望む声も多く、今後も、内容を見直しながら、森林や林業をよりわかりやすく紹介できる事業として実施したい。

赤城ふれあいの森まつりは、台風の襲来が危惧されたが実行でき、室内開催の木工広場に多くの親子連れが訪れていた。

わたらせ森と木の祭りは絶好の晴天に恵まれ家族連れを中心に例年より多くの来場者に楽しんでもらった。

3. 参加者の声

- ・リースづくり・間伐材お絵かきが楽しかった
- ・木のメダル作りが楽しかった。
- ・丸太をのこぎりで切ったり、お父さんと木工工作をしたのが楽しかった。
- ・チェーンソーで彫刻を作っていたのがすごかった。
- ・また、来てみたい。
- ・木に触れる機会が貴重な体験だった など

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	11月11日	計
事業量	赤城ふれあいの森まつり	わたらせ森と木のまつり	
参加者数	1,500人	3,100人	4,600人
実施場所	群馬県前橋市富士見町 県立森林公園「赤城ふれあいの森」	群馬県桐生市稲荷町「新川公園」	

巨樹・古木巡りツアー事業（A-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓発を図る事を目的として、毎年年2回春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー

2. 活動の成果

県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察し、直接木々に触れ、歴史を学び、自然を思いやる心、森林の重要性を伝えることが出来た。

毎回抽選するほどで、4月7日実施の応募状況は、定員160名のところ466名の応募があり、吾妻コース、利根沼田コースは毎回人気である。

一度参加された方は、4コース巡りたいと、毎回楽しみにしている。

3. 参加者の声

- ・長い歴史の中で現在、未来へと継がれる1ページを見る機会を得た。
- ・何百年も経て今もその姿を維持してるのに感激しました。大事に守ってきた人達がいたからですね。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月21日	4月7日	計
事業量	巨樹・古木巡りツアー	巨樹・古木巡りツアー	
参加者数	154人	152人	306人
実施場所	群馬県一円		

緑の少年団活動活性化事業（A-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団は県内すべての小学校等に結団され約5万7千人の団員が活動しており、全国的にも有数の規模を誇っている。しかしながら、全少年団を対象として交流集会の開催等が困難であることから、意欲ある少年団の活動を支援し、その少年団の模範的活動を冊子等で紹介することとする。

県内各少年団に対して、緑の少年団として、森林の役割や森林との関わり方を考えるきっかけとなるよう働きかけ、また指導する小学校教員に対し森林環境学習の重要性を認識してもらい、今後の少年団活動の活性化に資することとしたい。

具体的には、自然観察会やツリーイングなど実際に森林に入って体験する「夏の森林教室」を開催するほか、各緑の少年団の活動内容を紹介する冊子「緑の少年団活動の記録」ほかを作成する。

2. 活動の成果

自然観察会、ネイチャーゲーム、ツリーイングなど実際に森林に入って体験することによって、子供たちの森林や林業、環境問題等に関する理解を深めることができた。

また、活動事例冊子の配布は、他団の特色ある活動や優れた活動を知ることによって、緑の少年団活動がより一層活性化することが期待される。

「夏の森林教室」は参加した児童教員からは高い評価を得ている。今後は反省点を踏まえ、より効果的な手法を検討し、メニューの充実を図っていききたい。また、子供への森林環境教育に関心のある企業との連携による事業の充実も検討して行きたい。

3. 参加者の声

- ・橋の上に登った時は、山から雲が出ていてとてもよい景色でした。
- ・森林の大切さや森のよさをたくさん学ぶことができました。この楽しいイベントはぜひ続けてほしいです。来年も参加したいです。
- ・シカの足跡を見つけることができました。
- ・たくさん木の特徴を知ることができました。
- ・ハンモックで寝転がったとき、風が心地よくて気持ちよかったです。
- ・木の上の世界を存分に楽しみ、リラックスできました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月25日	月 日	計	備考
事業量	夏の森林業室	緑の少年団活動の記録ほか		
参加者数	40人	県内全318団ほかに配布	54人	実参加児童・教員40名 ほかスタッフ14名
実施場所	群馬県前橋市富士見町「SUBARUふれあいの森赤城」			

さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-51)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第28回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

2. 活動の成果

応募期間は平成31年3月から令和元年5月15日までとして実施し、応募作品は446点であった。同年5月に審査会を行い、特選(知事賞)1点、準特選(緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞)2点、優秀賞(埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ダイドードリンコ賞、日本製紙賞、AGS賞)5点、佳作12点を選定し、6月21日に表彰式を行った。

表彰式会場での展示のほか、7月22日から埼玉県庁3階渡り廊下で展示を行う予定である。また、6月14日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介された。併せて、埼玉新聞社のホームページでも紹介されている。

3. 審査総評

28回目を迎えたさいたま森林フォトコンテストは、応募点数446点と昨年を上回り、前回同様全体的にカラフルでメリハリのついた作品が多く寄せられるようになっている。

今年の作品傾向は、美しい四季折々の森林風景や森林の中でくつろぐ市民の姿、森林の恵みを活用する人々の様子など、様々なテーマが美しく活写されている。

ところで、過去に入選された方が多いのがこれまでの傾向であったが、本年は入選者の半数以上が過去に入選経験がなく、しかも公募者の年齢も若返っている。今後も多くの人々に森林(みどり)に対する関心が高まり、応募者の裾野が広がることに期待したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月19日～ 5月21日	5月17日	6月21日	6月21日	計
事業量	作品募集	審査会	授賞式	展示	
参加者数	446人				446人
実施場所	埼玉県内				

緑の少年団育成事業 (A-52)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成のため、指導者研修を実施するとともに、自然環境の中での活動を通じて、森林についての理解と相互の交流を深めるための交流会を開催した。

2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の推進と継続して森を守り育てることの大切さが普及啓発された。

3. 参加者の声

- ・研修会における団活動のすすめ方や安全管理の説明が参考になった。
- ・交流会での活動発表により他の団の活動の様子がよくわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月24日	10月20日	計
事業量	研修会	交流会	
参加者数	23人	112人	135人
実施場所	寄居町		

緑化普及啓発事業（A-53）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供するとともに、秋に開催される農林業イベントにおいて、ボランティアの活動状況等を展示した。

活動情報については、8月から12月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、緑の募金とともに森林ボランティア活動への参加を呼びかけた。

イベントについては、11月17日、18日に埼玉県朝霞市の朝霞の森広場で開催された彩の国食と農林業ドリームフェスタの会場において、森林ボランティアの活動状況の展示や緑の募金のPRを行って、緑化の大切さやボランティア活動参加を呼びかけた。

2. 活動の成果

新聞の情報を見て、毎月2から3人が新たに森林ボランティア活動に参加した。

また、イベントにおいて、展示を見ることより、緑の募金や緑化活動に関心を持ってもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・森林ボランティア活動をやってみたかったが、どこに問い合わせればよいかわからなかった。新聞を見て、参加のきっかけとなった。
- ・展示を見て、いろいろな活動を行っていることがわかった。機会があれば、参加してみたい。
- ・緑の募金が緑化に役立っていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月17日	11月18日	計	備考
事業量	イベント展示1日	イベント展示1日		イベント展示 実行委員会発表
参加者数	18,000人	28,000人	46,000人	
実施場所	埼玉県 所沢市			

森林ボランティア活動支援事業（C-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の森林ボランティアが主催する森林整備に必要な技術を習得するための研修会の開催に対し助成した。

これは、ボランティアによる間伐作業が安全に行なわれるよう、森林の作業を生業（なりわい）としないボランティアを対象に実技の習得時間を充実させたチェーンソー研修会を実施したものである。

2. 活動の成果

森林づくりのボランティア活動において、チェーンソーを活用した効率的で安全な間伐作業が実施できるとともにボランティアリーダーの養成につながった。

3. 参加者の声

- ・安全作業の重要性を改めて学べる良い機会となった。
- ・無事立ち木が倒れることに達成感を感じ、これからも初心を忘れず安全な作業を心がけたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月25日	9月8日	9月9日	計
事業量	学科研修：6時間	学科研修：1時間 実技研修：4時間	学科研修：1時間 実技研修：4時間	
参加者数	19人	19人	18人	56人
実施場所	埼玉県 さいたま市 越生町			

第38回千葉県みどりの少年団交流集会（A-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県下各地のみどりの少年団が一同に会し、自然のなかで総合的な緑の体験学習と共同生活を通じて、自律、責任、協力の精神を養うと共に情報交換等を行い、団の資質向上と連携を深めることを目的に第38回千葉県みどりの少年団交流集会を実施し、10市町から15団が参加した。

内容は自然豊かな大多喜県民の森を会場に1泊2日の行程(会場の収容人数の都合で2セット)をキャンプ形式で実施。そのなかで竹を利用した食器作り、薪を使用した自炊活動、体験林業(人工林の間伐・その他)、間伐材を利用した木工作等を通じ、森林資源の循環的活用を学んだ。また代表4団による活動発表会を行った。

2. 活動の成果

子どもたちの中には木を伐る、使うことに罪悪感を持っていることが多い。

今回のプログラムによって、「森林」は守だけではなく上手に活用し、循環させていくことで健全な森林の姿を維持できることを理解してもらえたと思われる。

3. 参加者の声

少年団とはいえ普段体験することの少ない野外活動を通じ、自然の素晴らしさや厳しさ、緑を育て活用していくことの重要性に気づく機会となった。また普段関わることのない地域の子も達同士が生活を共にすることで、人間性や社会性も育む事も出来た。また他の少年団の活動の状況など情報交換の場になったとの感想が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月25～7月27日	計
事業量		
参加者数	180人	180人
実施場所	千葉県 夷隅郡大多喜町 千葉県立大多喜県民の森	

木づかい推進・普及啓発事業（A-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

二酸化炭素吸収機能など、森林の公益的機能を十分に引き出すためには森林の若返りが求められている。

そのためには豊富な森林資源を上手に活用し（木づかい）、木材製品の良さを社会全体に普及啓発する必要があることから、本事業においてモデル的な取り組みとして間伐材を利用したベンチ及び樹木名ラベルを製作し、会員市町村の施設及び東上総教育事務所管内及び南房総教育事務所管内の小中学校（17）に設置した。併せて地域材、間伐材の活用を広く周知等を行った。

2. 活動の成果

市町村の庁舎だけでなく、学校や図書館などの施設に設置することにより、多くの県民が木製品に実際に触れることができるとともに、豊富な森林資源を上手に活用し循環させることの重要性について理解を広めた。

3. 配布先の声

木の自然な色合いが良い・木の暖かみがあってよい・学校も喜んでいた（学校設置分）

子どもたちが樹木名を学び、みどりにふれあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13～12月5日	9月15～12月15日	計
事業量	ベンチ	樹木ラベル	
設置数	11台	171小中学校	
実施場所			

森林・林業技術講習会 (C-32)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

健全な森づくり、災害に強い森づくり、森の生物多様性など、現代の森づくりはテーマが多様化、高度化しており、専門的な知識や技術を求めるニーズが出てきていることから、森林に携わる県民のスキルアップを図るため森林林業技術講習会を実施した。

会員や森林・林業に関心のある県民等を対象に、「森林の公益的機能と山地災害」と題して気候変動に伴う局地的豪雨と山地災害や日本の森林の歴史の変遷と自然災害との関係などについて講義。さらに富津市豊岡の復旧治山工事現場で山腹崩壊後の法切工の施行状況等の現地視察をおこない山地災害の発生メカニズムや復旧治山工事の施行方法等の知識・技術の習得を図った。

2. 活動の成果

近年、自然災害が多発し、河川に流れ込んだ大量の流木や土砂とともに崩壊した森林の映像が数多く報道されている。そこで、改めて、森林の公益的機能や自然災害との関係について、詳細でわかりやすい講義を行い、森林について学び直すことで、参加者全員が森林や緑の大切さを再確認することができた。

今後も、森林の機能と重要性について、わかりやすく発信し続けていく。

3. 参加者の声

森林が、現在の地形の維持や水循環に欠かせないものであることが良く分かった。

森林は、地球温暖化を緩和する唯一のものであることや、人間だけでなく地球上のすべての生き物にとって大切なものであることが分かり、大事にしなければと思った。等

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月3日	計
事業量		
参加者数	35人	35人
実施場所	富津市役所会議室（講義）・ 富津市豊岡【復旧治山工事】（現地視察）	

ふるさとの杜活力調査事業（B-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都内では、小規模な公園、寺社などの「杜」が多く点在している。これらは、都市の美観風致を維持しているだけでなく、古くから地域住民の憩いの場や災害時の非難場所としても重要な役割を果たしている。

このような公共的評価のある「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹、保存林などを中心とした樹林を対象として、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。

また、過去に調査した「杜」について、その後の保全や活用の状況を再（追跡）調査、評価し、「杜」を有効に地域の取り組みにいかす方法等をまとめた。

2. 活動の成果

杜の活力調査3カ所、追跡調査1カ所を実施した。

杜の活力調査において、飛鳥山公園桜（北区）、岡本静嘉堂緑地（世田谷区）、コゲラの森（小平市）の樹木・植生の現況、活力度等を調査・評価し、今後の管理方法についての提言等を行った。

追跡調査では六道山公園樹林地帯（瑞穂町）の樹木・植生を平成23年に続き調査を行い、前回調査後の変化等を調査し、持続可能な「杜」として管理するための提言等を行った。

調査した4箇所の「杜」における樹木の腐朽・枯損等の問題点や課題を明らかにし、具体的な対策を提言として地元自治体に還元し、今後、「杜」の利用者等に対する利用し易い環境の整備と安全確保のほか、景観の維持、生物多様性の保全が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期		計
事業量		
参加者数		
実施場所	活力調査：飛鳥山公園桜（北区） 岡本静嘉堂緑地（世田谷区） コゲラの森（小平市） 追跡調査：六道山公園樹林地帯（瑞穂町）	

普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業 (A-56)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな潤いのある県土づくりを目指し、「森林の世紀」といわれる今世紀に、森林・緑に対する「国民参加の森林づくり」運動の一層の推進を図るため、普及啓発情報誌を発刊し、普及啓発に努めた。

2. 活動の成果

「森林と人間との共生」を基本理念とし、県内における唯一の林業月刊誌「林業にいがた」に、当委員会の事業内容や活動状況を掲載することによって、県民に広く普及啓発を図り、「森林・緑・水」に対する認識を深め、森林づくりの重要性をアピールすることができた。

3. 参加者の声

- ・林業関係者の方に、当委員会の事業内容や各地域の活動状況を伝え、理解してもらうことができるので、今後も有効に活用し継続していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	H30年7月～H31年6月	計
事業量	「林業新潟」内 特別コーナー 2P×12ヶ月	
参加者数		
実施場所	新潟県全域	

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）(A-57)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、FM放送での周知、森づくり活動情報パンフレット、会報誌の作成を行った。

2. 活動の成果

ふるさとの環境について理解を促進するため、新潟県民エフエム放送が企画した「ポルタ」では、県民一人ひとりが身近な森林について考え、保護し活動を促すことを発信した。新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

また、にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（秋期版）や緑の募金周知のためのチラシを作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

どちらも新潟においては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・「ポルタ」の放送を聞いて緑の募金への意識が高まった。
- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はととてもありがたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	H31年1月～ R1年6月	4月～9月	9月～11月	計
事業量	FM放送	パンフレット、チラシ	会報誌	
参加者数				
実施場所	新潟県全域			

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、森の名手・名人の認定者、褒賞の受賞者を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにおいては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はとてもありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月～4月	4月～5月	4月～6月	計
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット	
参加者数				
実施場所	新潟県全域			

緑化団体活動周知・地理情報活用事業（A-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、2001年にスタートした、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、地理情報システムを活用して、県内で展開する緑化団体の活動を周知し、身近な森づくりの推進を図る。

2. 活動の成果

第65回全国植樹祭の開催を契機として、県民参加の森づくりの推進が一層求められている。当委員会が中心的役割を担う、2001年にスタートした「にいがた緑の百年物語県民運動」の、これまで積み上げた県内各地の森づくり活動を集約・発信し、森林・緑の対する意識を深める機会を提供した。同時に、身近な森づくりへの参加を促した。また、環境保全への関心を深め、ボランティアによる森林整備や緑化活動を活発にした。そして、当委員会との連携や緑化活動団体相互のつながりを密にし、県民一人ひとりが思いを抱く緑化活動の展開につなげた。

3. 参加者の声

- ・これまでの森づくり活動が簡単に検索でき、他団体の情報も知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	H30年7月～R1年6月	計
事業量	地理情報システム	
参加者数		
実施場所	新潟県全域	

森林・木材等普及啓発事業 (A-60)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 木工教室の開催

「とやま木と住まいフェア2018」(県木材組合連合会共催、場所：県木材研究所(射水市))を開催し、親子木工教室、間伐材製品等の展示、チビツ子とんかちコンクールの表彰等を行った。

(2) 緑に親しむ集いの実施

県民公園頼成の森(砺波市)において、シイタケの榎木づくり体験、林内散策とクイズラリーなどを行った。((公財)花と緑の銀行共催)

(3) 花とみどりの少年団を支援

県内の花とみどりの少年団に運営費を助成し活動を支援した。

(4) 森林・緑の普及広報活動

ホームページで事業活動を紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。また、学校への苗木配布や各種コンクールの募集、審査、表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

2. 活動の成果

木工教室やシイタケの榎木づくりを通して、森の恵みの活用や作る楽しさを知ってもらえた。また、林内での体験活動、環境教育、苗木の植栽などを通して、未来を担う青少年に木の良さや森林の働きについて理解を深める機会となった。更にはホームページで情報発信することにより、今後の森林整備・緑化の推進に繋がることが期待できた。

3. 参加者の声

- ・(木工教室で)木のぬくもりを体感できた。
- ・(林内活動で)リフレッシュすることができた。森の恵みに感謝することができた。
- ・(花とみどりの少年団活動で)森林の働きについて知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	5月4日	計
事業量	とやま木と住まいフェア2018 (木工教室)	緑に親しむ集い	
参加者数	800人	112人	912人
実施場所	富山県射水市	富山県砺波市	

花とみどりの少年団活動支援事業 (C-33)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「花とみどりの少年団体験学習」において、団員の体調管理や怪我等の緊急時に対応できるように看護師を配置した救護班を設置し、体験学習の円滑な運営を図った。

また、フォレストリーダーに森林の多面的な機能等について解説していただき、知識を深めるとともに、参加少年団からの感想等を取りまとめ「活動集」を作成、配布した。

2. 活動の成果

「花とみどりの少年団体験学習」を、平成30年7月30日～31日、国立立山青少年自然の家において1泊2日で実施した。研修内容は、自然観察、クラフト体験、野外炊飯、キャンプファイヤー等である。

この体験学習の期間、救護班を設置し、看護師2名が会場に泊まり込み24時間体制で緊急時に対応した。看護師の治療件数は、切り傷等8件であった。

また、少年団員に森林の多面的な機能を理解していただくために、フォレストリーダーによる「木工クラフト」や「森のふしぎ〇×クイズ」等の指導を行い、参加少年団からの感想等を取りまとめ「活動集」を作成、配布した。

3. 参加者の声

少年団員から「すぐに手当してもらえてよかった。」「暑い中での活動だったが、看護師さんが一緒だったので安心できた。」との声があった。父兄から「救護班が設置されているので、安心して子供を参加させることができた。」との声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30～31日	計
事業量	看護師2名、 フォレストリーダー23名	看護師2名、 フォレストリーダー23名
参加者数 (団員、引率者)	78人	78人
実施場所	富山県中新川郡立山町芦峯寺地内	

森づくりグループ活動支援事業 (C-34)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

下刈、間伐等の森林整備を行う森づくりグループの活動を支援し、里山林の再生を図るとともに森づくりグループの自発的な活動を促進した。

2. 活動の成果

とやま森林づくりボランティアの会が、平成30年9～10月にコナラ林と既存のスギ、コナラ、ミズナラなどを選木し下刈等を実施した。また、第68回全国植樹祭(平成29年5月28日富山県魚津市開催)に向け育てたコナラ、クリ、クヌギ等の保育に努め、森林の有する公益的機能の増進を図った。

3. 参加者の声

- ・5年前に残っていたコナラ、ミズナラ、カエデ類が大きく成長しているのを見て、下刈作業の効果を知り、嬉しく思いました。
- ・白樺平に植えた苗木が、大雪の降り積もる場所にもかかわらず新芽をのばしているのを見て感激しました。
- ・白樺平は林道も山の斜面も急峻で危険がいたるところにあります。事故や怪我のないよう互いに気をつけていこうと話し合いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月29日	10月27日	10月27日	計
事業量	下刈(0.4ha) 竹杭打込み	下刈(0.6ha)	作業道の草刈 (20m)	下刈(1.0ha) 竹杭打込み 作業道の草刈 (20m)
参加者数	15人	13人	4人	32人
実施場所	富山県富山市 本宮大平割地内	富山県富山市 本宮大平割地内	富山県富山市 本宮大平割地内	

緑化思想の普及啓発事業（A-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンタールの県審査における入選作品の表彰を行った。

また、「県民みどりの祭典」において、入選作品の掲示を行った。

2. 活動の成果

表彰により応募者のインセンティブが高まるとともに、緑化ポスターに対する関係者の関心が高まった。

また、イベントにおける作品の掲示を通して、広く県民の皆さんに対する緑化思想の普及啓発に役立った。

3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、子供たちの視点で絵に表現されている。

表彰や作品展示は、児童・生徒のインセンティブの向上になる。

作品を鑑賞して、子供たちの自然に対する想いの一部が伝わってきた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計
事業量	県民みどりの祭典、掲示、表彰	
参加者数	2,000人	2,000人
実施場所	河北郡津幡町	

県内産緑化苗木無償配布事業（C-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、県・市町、関係団体等の緑化イベントに合わせ緑の募金や緑化の普及啓発活動とセットで県内産緑化苗木の無償配布を実施した。

2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、新たに募金に協力する動機付けにつながった。

また、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、改めて感謝したい。

今後、緑を守り育てるための協力をしていきたい。

無償配布で頂いた緑化苗木は大切に育てていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日	4月29日	計
事業量	250本	400本	650本
参加者数	300人	2,000人	2,300人
実施場所	金沢市、小松市	河北郡津幡町	

森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-36)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中、国民参加の森づくり運動推進の中核的役割を担う森づくりボランティアのリーダー養成を目的に、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

ボランティアについては、一般県民を対象に広く募集し、地元の住民との交流、連携に努めながら、各フィールドの森林の現況に応じて、植栽、下刈、施肥、除間伐、歩道開設、竹林伐採等の作業を実施した。

また、現地での作業のほか、セミナー形式で森づくりに関する基礎的知識や、安全のポイント、森林整備の道具・機械類の扱い等の研修を開催し、人材の育成に努めた。

2. 活動の成果

各フィールドの整備が促進されたことに加え、計画的に県内の森づくりボランティア活動を担う人材の育成が図られた。

また、地元住民等との交流を通じて、農山村の活性化に役立った。

3. 参加者の声

- ・森林の大切さや森林整備における各種作業の適期、必要性が理解できた。
- ・森づくり活動は、一定期間継続しなければいけないことがわかった。
- ・事前準備の重要性や作業が重労働であることがわかった。

実績報告とりまとめ表

①森づくり活動

実施時期	9月8日	9月15日	9月22日	10月13日	10月27日	11月3日	計
事業量	除伐、間伐 0.99ha	竹林伐倒整理 0.3ha	里山林植樹、 施肥 0.2ha	下刈 0.4ha	竹林伐倒整理、 植樹 0.2ha	竹林伐倒整理、 植樹 0.3ha	2.39ha
参加者数	26人	37人	54人	37人	43人	58人	255人
実施場所	小松市	金沢市	能美市	輪島市	金沢市	津幡町	

②研修講座

実施時期	7月～2月
事業量	講義6回
参加者数	82人
実施場所	金沢市他2市町

もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-62）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

- ①「木工クラフト体験」 ②秋一番・アウトドア講座（樹木観察） ③秋の香りの樹木！きのこの達人 ④森の恵み収穫祭（落葉の森散策、観察） ⑤秋の森へ行こう（里山散歩、落葉遊び） ⑥ミニ門松づくり ⑦「楽しい工作体験」 ⑧作業活動体験

2. 活動の成果

木、花やきのこの名前が覚えられたこと、親子とも楽しく自然体験ができたこと、木のぬくもりを感じ木工体験できたこと、秋の森の紅葉、自然のきのこや昆虫を採り名前を覚えることができたこと、植樹や下刈の体験ができたことなど、森づくり活動等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの認識が深められた。

これからも、大人～子供までの県民が森の中で、森の恵みを体験できるイベントを行う。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが作った巣箱に鳥が来てくれるのか、毎日楽しみにになりました。
- ・きのこが森の中で役割を持つこと、木を森に返せることなどが発見できて新鮮だった。
- ・季節によって森が変化している様子に触れることができ、興味深かったし、リフレッシュできた。
- ・自然の中では、何もなくても遊べるものと思った。いろいろな季節に楽しみたい。
- ・雨が降り、止んで曇り、晴れ間がのぞき、森の中の風景の変化が楽しめた。
- ・のこぎりで木が伐れた。感動。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月11日 9月24日 10月27・28日	11月11日 11月23日 12月15日	2月3日 8月5日	計
事業内容	木工クラフト体験 樹木観察 自然観察	きのこ探し 木工クラフト 落葉の森の散策 木の実や枝拾い 秋の森散策	木を使おう ミニ門松づくり 工作体験	
参加者数				293人
実施場所	越前市別印、三国町、福井市朝谷町、大野市六呂師、丸岡町楽間、越前市高瀬町			

ふくいの森林づくり推進事業（活動基盤の整備）（C-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・森を元気に育てる体験会
- ・竹林を手入れし、里山林をまもろう
- ・ふくいの森林づくり間伐研修会

2. 活動の成果

植樹の大切さの体験、侵入竹除去体験や施業の集約化による低コスト化利用間伐材搬出を実践し、森林と水の大切さ、地域材・山村資源の活用等が広く県民に啓発ができた。また、これからも植樹体験会、竹林の手入れや効率的な間伐研修会を実施し、森林所有者、一般県民やボランティア団体に積極的に森林づくりに参加してもらいたい。

3. 参加者の声

- ・竹の株が、雨が入って腐りやすいように、節を割ることなど、伐採について参考になりました。
- ・小型でも機械の力はさすがだと思いました。今後に活かしたいと思います。
- ・雨の中、滑って大変でした。花が咲くのが楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月4日	11月27日	12月16日	計
事業量	侵入竹除去	間伐実践	植樹体験	
参加者数	17人	20人	15人	52人
実施場所	福井市八幡山、大野市上荒井、福井市脇三ヶ町			

普及啓発事業 緑の少年隊森林学習会 (A-63)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年隊を含む県内の小中学生を対象に、森林学習・自然体験などの活動を通じて、森林についての興味や関心を深め、自然に親しむことを目的とする。

2. 活動の成果

森の素材でクラフトづくりや、森の中で野生動物や草木の観察を五感によって学び、緑豊かな自然のすばらしさ、大切さを学ぶことができ、森林及び自然に対する興味や関心が深められ、青少年に対する森林環境教育の促進が図られた。

3. 参加者の声

- ・たくさんお新しい友だちと仲良くなれた。
- ・森にある材料を拾って工作ができて楽しかった。
- ・レンジャーさんのトークで森の大切さがわかった。
- ・森の中の動物や植物を詳しく知ることができて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年8月1日～平成30年8月2日	計
事業量	・コミュニケーションゲーム ・森の素材で木工作 ・レンジャーおまかせハイク ・レンジャートーク	
参加者数	35人	35人
実施場所	山梨県北杜市高根町清里 山梨県立八ヶ岳少年自然の家	

普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-64)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

学校周辺の自然を観察する方法や木工作の指導方法等について、実習を通じた体験的な研修を行うことにより、理科、総合的な学習の時間、生活科、環境教育等における指導方法の向上を図る。

2. 活動の成果

教職員の森林・林業への理解が深まるとともに、児童生徒に対して森林環境教育等を行う際のスキルアップが図られた。

3. 参加者の声

- ・低学年を担当しているので、生活科の授業に活用したい。
- ・中学では環境教育や働くことについて総合的に学習するので、「林業で働くこと」等の講師をお願いしたい。
- ・研修1日の流れにストーリー性があり、木のことだけでなく、森林のことについてよく理解できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年8月8日	平成30年8月10日	計
事業量	・森林・林業の基礎知識講義 ・森と人との関わり方(ヒノキ間伐体験) ・森と人との関わり方(ヒノキ樹皮で編みカゴ作成)	・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・木工作入門講義および実技	
参加者数	7人	7人	14人
実施場所	山梨南巨摩郡富士川町	山梨県森林総合研究所	

普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-65)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

夏休み期間中に県内の2箇所の森林で、小学生とその保護者を対象として、林内を歩きながら講師から樹木の解説を受けた後、樹木の名前テストを実施し、成績に応じて樹木博士の認定書を授与した。

2. 活動の成果

森林の中で、親子が共にふれあいながら樹木の名前を識別できるようになり、自然により親しんでもらうきっかけになった。

3. 参加者の声

- ・先生の説明がわかりやすかった。
- ・勉強した木をすべて問題に出してほしかった。
- ・樹木の事がよくわかりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年7月22日	平成30年8月11日	計
事業量	4名の小学生に認定書を授与した。	9名の小学生に認定書を授与した。	
参加者数	7名(保護者を含む)	21名(保護者を含む)	28名(保護者を含む)
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 河口湖フィールドセンター		

普及啓発事業 森の教材「くらしと森林」発刊事業 (A-66)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の教材「くらしと森林」を作成し、森林・林業を学習する課程に合わせて、県下の小学5年生全員に配布し、副教材として活用するとともに、県下の図書館・教育委員会等に配布し、水源かん養機能、地球温暖化防止など森林の果たす役割を普及啓発するとともに、広く緑化思想の高揚を図った。

2. 活動の成果

多くの小学校で総合学習の時間に活用しており、県下全域の小学生に対し、確実に森林・林業への理解を深めることができた。

3. 参加者の声

森林が木材を作るだけでなく、いろいろな働きを持っていることがよく理解できた。
森林を大切に守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	森の教材「くらしと森林」発行・配布(4月～8月)	計
事業量	9,800部印刷 県下小学5年生全員に配布	
実施場所	県下全域の小学校、図書館等に配布	

普及啓発事業 親子緑の集い (A-67)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森が産んだ素材の木材、枝、木の実、樹皮等を活用したクラフト教室と普段経験のない高木へ登るツリークライミングを開催し、日頃の日常生活では味わう事が出来ない天然素材の物作り等を体験し、森林の香りや癒しの効果を実感してもらうとともに、森林や緑の重要性を学んでもらう。

2. 活動の成果

森の中で遊ぶ、学ぶなど自然を体感することの少ない現代生活において、参加者からは親子のふれあいが深まり、貴重な経験ができたと感じるをうけ、これらの場を提供することにより、募金事業の有益性や理解を得ることができた。

3. 参加者の声

- ・親子で参加できとても楽しい時間が過ごせた。
- ・家族でツリークライミングに参加し、とても貴重な体験が出来た。
- ・来年もまた参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年8月19日	平成30年11月3日 平成30年11月4日	平成30年11月23日	計
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工	親子でツリークライミング	クリスマスリース作り	
参加者数	親子10組21人	親子12組38人	親子27組58人	親子49組117人
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜サービスセンター			

普及啓発事業 緑化ポスター・標語コンクール開催 (A-68)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

全県下の小中学生を対象に、緑化・育樹ポスターコンクール、国土緑化運動・育樹運動標語コンクールを開催し、優秀作品を選定後、秋に開催する林業まつり記念式典で表彰を行った。

2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、森林や自然に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

3. 参加者の声

- ・細かいところまでがんばって書いた。
- ・入賞してとてもうれしかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年6月～10月	平成30年6月～10月	計
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動 標語コンクール	
	998作品	357作品	1,355作品
実施場所	山梨県甲府市丸の内 恩賜林記念館ほか		

普及啓発事業 緑の活動発表会（A-69）

基金事業の概要

1. 活動の概要

県内各地において緑化活動を積極的に行っている各地区から推薦された4団体の児童が、日ごろの緑の少年隊や学校林活動等の状況を発表するなかで、お互いに刺激を受けながら切磋琢磨し、今後の緑化活動が発展することを目的とする。

2. 活動の成果

各団体とも地域の特色を捉えた活動内容であり、参加した児童はほかの団体の活動状況を知ることで良い刺激を受けた。指導者は、この発表会は各団体相互の情報交換の良い機会であり、今後の活動を進める上で良いヒントとなり、活動のメニュー作りの参考になった。

緑の少年隊事務局の指導者にとっても、県内緑の少年隊の活動を知る良い機会となり、今後の活動の広がりや充実が期待できる。

3. 参加者の声

- ・活動発表は緊張したが、楽しかった。これからもがんばって活動したい。
- ・他の学校の活動が知れて良かった。
- ・甲府の歴史を勉強できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年11月3日	計
事業量	緑の少年隊による緑化活動の発表会及自然・歴史観察会	
参加者数	51人	51人
実施場所	山梨県甲府市丸の内 恩賜林記念館ほか	

緑・森林の感謝祭等事業及び児童啓発事業（A-70）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、第70回県植樹祭を共催するとともに、県内各地区での植・育樹祭、講演会、緑化の推進事業等を実施した。また、郷土の森林と川を題材にした絵本作成のため作家に調査・取材の委託を行ったほか、緑の募金活動のPRを行った。

2. 活動の成果

- ・県植樹祭では、子供から高齢者まで大勢の参加の中、「育てよう 未来の森を いろどる木」をテーマに、木曾地域のシンボル「御嶽山」の麓で民国連携により実施し、さらなる健全な森林づくりの機運を盛り上げるとともに、緑豊かな住みよい県土づくりの推進が図られた。
- ・天竜川流域を舞台にした森林と川の絵本の発刊に向け、絵本作家藤岡牧夫氏とともに南信州地域の調査・取材を重ね、制作に必要な基礎データを収集した（令和元年度も引き続き調査を実施し2年度に完成予定）。

3. 参加者の声

- ・植樹祭では、子供から高齢者まで大勢の参加の中、開催地の意向でカラマツの植林を行い、森林のサイクルや美しく大切な森林を後世に残すことの意義を再確認いただき、特に、木曾川下流域県から参加した方々には、水源地域の森づくりに協力できたことに満足いただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	H30.7.1～R1.6.30	計
事業量	植・育樹祭等：5地区（6市町村） 講演会等：3地区（3市） 環境緑化：1地区（1町） 環境教育：2地区（9市町村）（50校・1公園） 緑化木頒布：2地区（12市町村） 絵本調査：1地区（2市村）	75箇所
参加者数		5,017人
実施場所	長野市、松本市他 33市町村	

緑化推進活動促進と活動資材提供事業（A-71）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供や巨樹・名木観察会の開催、みどりの少年団活動に必要な教材を提供し、緑化推進に繋がる活動を行った。

(1) 植木祭り

県内5か所において、緑に親しむ機会の創出と緑化活動への参加を促すため、啓発用苗木を配布した。

(2) 巨樹・名木探訪観察会

中津川市加子母地内の巨樹や名木を訪ね、樹木にまつわる歴史や樹木の保護保存に対する地域の取り組みなどについて、観察・研修した。

(3) みどりの少年団活動支援

みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「まつぼっくりをさがそう」を3,500部作成し、みどりの少年団員へ配布した。

2. 活動の成果

(1) 植木祭り

苗木の配布を契機に緑化に対する意識が高められた。地域において緑化に対する認識を定着させるためには、継続的に行うことが必要。

(2) 巨樹・名木探訪観察会

巨樹や名木を守り育てることを通じて、樹木や地域資源を大切にすることに加え、それらを支える地域の取り組みに対する理解が深まったので、今後も継続する。

(3) みどりの少年団活動支援

少年団活動に必要な教材を配布し、使用することによって、子どもたちの生物や樹木に対する興味を喚起することが出来たので、今後もテーマに配慮して継続する。

3. 参加者の声

(1) 植木祭り

苗木の配布を楽しみしている。苗木を植えて成長していく様子を見ると木に対する愛着がわく。

(2) 巨樹・名木探訪観察会

巨樹や名木を大切にしている地域の取り組みに敬意を表し、樹木への愛情が湧いた。

(3) みどりの少年団活動支援

まつぼっくりにもいろいろな種類があり、驚いた。
いろいろなまつぼっくりを見つけて、楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	植木祭り 平成31年4～令和元年5月	巨樹名木探訪観察会 平成30年7月25日	みどりの少年団活動支援 平成31年1～3月	計
事業量	5地区で開催 苗木1,560本	観察会1回実施	活動手帳 3,500部作成	
参加者数	3,500人	25人	3,500人	7,025人
実施場所	岐阜県内5地区	中津川市加子母地内	岐阜県内各地	

みどりの啓蒙推進事業（A-72）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○「山の日フェスタぎふ2018」

「山の日」と連携し、8月を「ぎふの山に親しむ月間」としてPRするとともに、「ぎふ木育ウィーク」として、「楽しむ」「知る」「味わう」の観点から様々な体験が出来る催しを、関係団体と共催した。

・森の恵みを使ったワークショップ、音楽会、展示、木育キャラバン 他

○「ぎふの木フェスタ2018」

子どもから大人まで多くの県民が木に親しむことを目的に、木の良さや木を使うことの大切さを普及啓発するため、関係団体と共催した。

・木のおもちゃ広場、赤ちゃん木育広場、子どもアスレチック、木のジャングルジム、木工工作体験、木工品等展示販売 他

2. 活動の成果

木に親しむ機会を幅広く提供し、来場者が体験したことにより、木の良さを実感し、木を使うことに大切さに加え、森林づくりの大切さに対する県民の理解を深めること繋がった。

3. 参加者の声

- ・木を使って色々なものを作ることができ、とても楽しかった。
- ・子どもたちが木の温かみに触れて、良い体験ができた。
- ・親子で木で作ったのりものやおもちゃで遊ぶことができ、とても楽しかった。
- ・木の良さとともに、森林づくりの大切さや森林の働きを知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月5日～11日	6月9日～10日	計
事業量	山の日フェスタぎふ2018の開催	ぎふの木フェスタ2018の開催	
参加者	2,800人	21,000人	23,800人
実施場所	岐阜市JR岐阜駅アクティブG, ぎふ清流文化プラザ	岐阜市 岐阜メモリアルセンター 芝生広場	

恵みの森づくり事業（C-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

明宝山里研究会は、以前から地域のシンボルとなる森林（恵みの森）を住民参加で整備する取り組みを続け、地域の自然環境の維持と住民の活力向上を図り、人々の交流促進とともに、森林による地球温暖化防止、地域材の利用等について普及・啓発し、人々の理解を深めた。

○シンボリック森林（恵みの森）の整備

四季を通じて美しい森林景観を呈する「せせらぎ街道」沿いの伐採跡地が景観を損ねているため、地域住民と公募による都市住民により、広葉樹の植栽を中心とする森林整備を行い、地域のシンボルである「せせらぎ街道」の景観向上と森林づくりへの理解を深め、緑化推進の意義を啓発した。

2. 活動の成果

地域のシンボルであり、多くの人々が通行する「せせらぎ街道」沿いの森林を住民参加で整備することは、地域住民の結束と地域への愛着が深まるとともに、地域へ訪れる多くの人々へのおもてなしにも繋がっている。今後も「せせらぎ街道」沿いに植栽が予定されており、適切な整備と併せて、美しい森林景観を取り戻すことが期待される。

3. 参加者の声

- ・自分たちが植えた木の成長していく様子を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・親子や地域の人々と共同作業を行うことで、家族や地域に連帯感が生まれるとともに、達成感も得られている。
- ・せせらぎ街道が美しくなることにより、沿道の美化につながっている。
- ・都市住民との交流とともに、森林に対する下流域の意識向上が期待される。

実績報告とりまとめ表

実施時期	恵みの森づくり 2019年5月	計
事業量	ヤマザクラ、モミジ、ハナモモ、カツラ等 250本 面積：0.46ha	
参加者数	50人	50人
実施場所	岐阜県郡上市明宝二間手（ふたまた）地内	

森づくり県民大作戦支援事業 (A-73)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を県民全体で支えていくという県民意識の醸成に向け、県と連携し、県内各地で行われる森づくり活動を「森づくり県民大作戦」として位置づけ、さらに活動の適期となる春と秋の一定期間を重点期間と定め、推進している。

当事業では、より多くの県民が森づくり活動の情報に触れ、森づくり活動に気軽に参加できるよう、地元ラジオ局による参加促進の放送とともに森づくり県民大作戦のPRチラシを作成・配布した。

また、全国的に注目されている森林空間を活用した幼児教育に関する「森づくりミーティング」を開催するとともに、全国の先進事例集を作成した。

2. 活動の成果

森づくり活動の参加者数は昨年と比べ約3千人減少したが、子供たちの参加や体験型の森づくり活動は定着してきている。

引き続き、県民が森づくり活動に参加する機会創出と活動に関する情報提供に取り組む。

また、森林空間の活用に向けた森づくり活動や、県民による空間活用の取り組みの拡大など、新たな森づくり活動の促進に取り組んでいく。

3. 参加者の声

- ① 木の伐採、枝払いの体験や森林に関する話を聞くことができ良かった。
- ② 伐採の様子を間近で見ることができ貴重な体験だった。
- ③ 植えた木が大きく成長することを期待している。
- ④ 山や自然が好きでイベントをHPで知り応募した。楽しく植えることができた。
- ⑤ 今回の講演内容をヒントに、展開中の森づくり活動を拡大していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～5月31日	9月15日～12月15日	その他	計
事業量	275行事	279行事	193行事	747行事
参加者数	8,214人	16,075人	3,854人	28,143人
実施場所	静岡県内 各地			

「緑の少年団交流集会開催事業」(C-39)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

少年団の普段の活動ではダイナミックな自然・森林に触れる機会が少なく、また、専門知識を有する指導員の指導を受ける機会も少ないことから、緑溢れる富士山麓の宿泊施設を会場に、専門指導員を配置し、8月8日から10日(2泊3日)のスケジュールで実施する予定であったが、台風13号が活動会場の富士宮市に接近、通過する予報が出たため、少年団員の安全面を第一と考え、8月6日に中止を決定した。事業は、中止を決定した8月6日までの開催準備に関する事務のみとなった。

2. 活動の成果

3. 参加者の声

実績報告とりまとめ表

実施時期		
事業量		
参加者数		
実施場所		

普及啓発 みどりに親しむ集い事業（A-74）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

別紙 平成30年度みどりに親しむ集い事業実施一覧表参照

2. 活動の成果

別紙 平成30年度みどりに親しむ集い事業実施一覧表参照

3. 参加者の声

別紙 平成30年度みどりに親しむ集い事業実施一覧表参照

実績報告とりまとめ表

平成30年度みどりに親しむ集い事業 実績一覧表

区分	事業主体名	事業名	実施状況	実施時期	実施場所	参加人員	活動の成果	参加者の声
山村交流	新城市	木トピア	森林や緑の大切さを理解してもらうことを目的に、木工工作を通じ、木と触れあう機会をつくり身近な「木」を感じる行事を行った。また、緑化木の配布なども行った。	30.10.20	桜淵公園	3,200人	・森林林業・身近な木工等を体験することを通じて、森林や緑の大切さを理解できた。緑化意識の高揚につながった。	・木の良さを改めて知ることができた。 ・木の使い方がいろいろあることを改めて知ることができた。 ・さまざまな取り組みがあり、楽しい一日を過ごせた。 ・家に帰って木を植えます。
作業体験	里山ルネッサンス	市民参加による子ども森林ひろば作り体験	都市近郊にありながらも一般市民が親しみにくかった雑木林に一般市民を招き、森林整備作業、あそび場作り、木工工作など緑と森林に親しむ体験を通じて、森林や緑、水の大切さを理解してもらった。	30.9.9 30.10.8 30.11.4 31.2.17	瀬戸市「遊々の森」及び尾張旭市交流館	260人	・森林整備により雑木林に光と風が入り多様な生物が住みやすい環境をつくりあげ、参加者に人と自然の心地よい関係を体験することができた。	・山に入るきっかけができた。 ・木を切り、山が明るくなったのには感動した。 ・森の工作が楽しかった。感動した。
	みどりのまちづくりグループ	グリーンクラフト	県有林と活動協定を結び、森林の除伐・間伐を実施している。間伐材などは森の恵みとしてイベントで、間伐材を利用した工作など参加者に対し行った。また、花壇づくりも行った。	30.7.1～ 31.2.15	春日井市廻間町及び春日井市西尾町県有林	447人	・活動範囲が上流から下流へと広く、自然のつながりを多くの人が体験でき、多くを学ぶことができた。また、幼児の参加も多く、幅広い年齢層の参加が得られた。	・自然素材の工作には感動した。 ・事前の準備が大変だったが、やりがいがあった。 ・花壇の花が咲き誇ったところにもう一度きたい。 ・初めて花を植えた。
木工教室	県木材組合連合会	ちびっこ木工工作ひろば	親子木工教室をキットを使い実施した。また、体験コーナーでは丸太切り、プレカットの部材を使い小さな家づくりの体験などを行い体験した。木材と森林環境のPRとして、カレンダーと木育教本を配布した。	30.10.20 30.10.21	豊橋公園	109人	・実際に木に触れて、木の香りや質感を感じることができ、木の良さを知ることができた。また、親子での工作では、木との触れあう環境を提供できた。	・家族で工作づくりが楽しかった。 ・普段さわれない木に感激した。
	犬山市	木工教室	木とのふれあいや緑化意識の高揚を図るため、犬山市産業振興祭において、木工教室を開催し、間伐材を利用したミニベンチ、プランターカバー、カセットラックなどの日用品を作製した。	30.10.13 30.10.14	犬山市民文化会館	134人	・木材需要の拡大とともに、緑化意識の高揚を図ることができた。また、木との触れ合いができた。	・一人での参加でも楽しかった。 ・日曜日がありがたい。大事にしたい。 ・お父さんやお母さんと作れて、楽しかった。 ・組み立てるだけだったが苦勞した。
	豊明市	グリーンフェスタin勅使水辺公園	全国植樹祭のPR、緑化木配布、クラフトづくり、緑化講習会など、「グリーンフェスタin勅使水辺公園」を開催した。多くの市民がみどりに親しむ体験ができた。	30.10.20	豊明市勅使水辺公園	525人	・自然とふれあいながら、みどりに親しむ体験を通して、森林やみどりの大切さを理解し、緑化意識の向上につながった。	・緑に関する、いろいろな体験ができた。 ・クラフトづくりが楽しかった。 ・松の剪定の話が聞けた、ためになった。 ・子供に、花の植え付け体験が楽しそうだった。
	額田木材製材業組合	木工教室	地域材活用の木工教室や緑化木配布を通じ、森づくりの重要性を普及した。3種の椅子キット、間伐材でのサンタクロースの絵描きなど、木の良さを実感することができた。	30.11.18	岡崎市豊富小学校(運動場)	500人	・地域材活用と森林整備の重要性を理解していただくため、木工教室を通じ、推進することができた。	・まな板はお母さんへのプレゼント。 ・間伐材に絵を描くのが、おもしろかった。 ・いろいろな催し物があり素晴らしい。
	岡崎木材組合	ちびっこ木工教室	森林や緑の大切さを学び、木工細工を通して子供たちに木とのふれあいの場を提供した。椅子、木箱、プランター等子供でも作成しやすいキットを用意した。木の香りや温もりを感じることができた。	30.11.3 30.11.4	岡崎市乙川河川敷	1,000人	・毎年の恒例行事として定着してきた。多くの親子が楽しみながら、木の大切さを学んできた。子どもたちでも、きれいに完成させることができた。	・キットなのできれいに完成することができた。 ・毎年来ている。楽しい一日がすごかった。 ・この工作は、お母さんにあげたい"
環境教育	知多森林緑化振興会	知多地域みどりの少年団交歓会	知多地域のみどりの少年団の親睦と交流を図るとともに、緑との触れ合いを通して、緑に親しみ、緑を守り育てる心を育むことができた。	30.10.13	知多市旭公園	140人	・自然の大切さや役割を認識し、緑に対する関心が高まった。今後の少年団活動に役立てることができた。地域の少年団の親睦を図る行事として定着した。	・家族の写真たてがきれいにできた。 ・他の少年団と交流ができた。楽しかった。 ・新しい友達ができた。
計	8事業					6,206人		

普及啓発 みどりフェスティバル'19春 (A-75)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然や緑とふれあい、体験を通じ、森林・木材の大切さや緑化意識の高揚を図るため、愛知県緑化センターで「みどりフェスティバル'19春」を開催した。

緑の募金キャンペーンを始め、自然観察や木工、この木なんの木と様々な体験活動を行った。また、平成30年度の緑化ポスター原画コンクールの入賞者の作品展示を期間中行うこともできた。

また、第70回全国植樹祭のグッズの配布など、PR活動を行った。

2. 活動の成果

子供達を含む、多数の県民が参加したことにより、緑化に関する認識や意識が県下全体に広く浸透し、地域緑化の推進につながっている。

また、自然や緑とのふれあい、木材、木の実とのふれあいが、実体験として残ることが、貴重な体験となる。

今後も本事業が継続し実施することが、緑化意識の高揚や地域緑化の推進につながる。

3. 参加者の声

- ・家族みんなが楽しめた一日であった。
- ・毎年、緑化木の配布を楽しみにしている
- ・緑の中での一日、天気も最高だ
- ・募金をした
- ・全国植樹祭のグッズの工作がかわいい
- ・モミジパフウのくす玉づくりが楽しかった

実績報告とりまとめ表

実施時期	みどりフェスティバル19期間 令和元年5月3日～令和元年5月5日	計
参加者数	139,000人	
	5月3日(金) 46,900人	
	5月4日(土) 49,000人	
	5月5日(日) 43,100人	
実施場所	豊田市西中山町 愛知県緑化センター	

調査研究 ふるさと樹木診断事業 (B-2)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等(ふるさと樹木)を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。

樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて41本の診断樹木を選定し、一般社団法人日本樹木医会愛知県支部に委託し実施した。

診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立てている。

2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。

緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も続けて実施する予定でいる。

平成6年からのデータの蓄積(約1,300本)もあり、保護・保全に役立っている。過去のデータをまとめ、情報の共有を計画している。

3. 参加者の声

- ・事業を今後も続けてほしい。
- ・名木(シンボル)が保存され、地域住民の緑化の高揚にも繋がった
- ・過去のデータをとりまとめて、誰でも見えるようにしてほしい。
- ・手当をした際このデータが役に立った。(過去の診断木)
- ・名木を一覧にして本にならないか。

実績報告とりまとめ表

実施時期 (委託)	委託期間 平成30年8月1日～平成31年1月31日	
	委託完了 平成31年1月31日	
事業量	樹木診断本数	41本
実施場所	愛知県内	19市町

活動基盤整備 森林ボランティア養成事業 (C-40)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

間伐の大切さ、チェーンソーの知識・技術を学び、森林整備ができるボランティアリーダーの育成を図った。

また、中学生、高校生に対し森林環境学習や間伐材を利用した木工作を行い、森林活性化のリーダーとしての育成を図った。

2. 活動の成果

間伐を実施できるリーダーの育成ができ、自主的な森林整備活動へ繋がっている。毎年、間伐ボランティアグループが設立され活動も活発に行われている。

また、将来を担う子ども達に、木工作や森林作業を通じ、木に親しみを抱き、森林環境や育林に興味を持つ子どもも現れ、将来に期待をもてた。また、森林の重要性を認識した子どもたちを多く見ることができた。

3. 参加者の声

- ・木に親しみが持てた ・刈り払ったあとの爽快感
- ・林業作業の大変さ（肉体労働）がわかった
- ・チェーンソーの知識の向上につながった
- ・安全教育の大切さをしることができた。
- ・初めてチェーンソーを触った。振動がすごい
- ・大きな木が倒れるところを間近に見ることができた。
- ・地域との連携により間伐を勧めて行きたい。

実績報告とりまとめ表

平成30年度 活動基盤整備（森林ボランティア養成事業）実施一覧表

事業主体	事業名	実施時期	実施時期	実施場所	参加人数
豊田市 (豊田市)	森林ボランティア 研修・養成講座	間伐の大切さや、チェーンソーを扱う上で必要な知識・技術を学ぶための講座を開設し、間伐ボランティア及び自力で森林整備ができる山主を育成する。 ・活動内容 7回 間伐ボランティア初級講座（3日間） 9月15日・16日・17日 山主自力間伐講座（4日間） 9月29日・10月13日・14日 11月3日	H30.7.1 ～31.1.29	豊田市 市内公共 施設 県有林他	間伐ボランティア 初級講座 延べ 54人 山主自力間伐講座 延べ 41人 2講座合計参加者 延べ 95人
特定非営利活動法人 森林真剣隊 (新城市)	森林管理ボラン ティアリーダー 育成実習活動	都市・農山村居住者を対象とした森林管理技術者兼ボランティアリーダーの育成と、これらを通じた森林の健全育成と林業の再活性化。また次世代を担う子供たちと共に森林環境学習や、間伐材を利用した木工作を行い、森林環境整備や森林活性化の先達としての育成を図る。 ・活動内容 12回 平成30年 7月14日～15日 視察研修 9月20日 新城高校演習林実習 10月11日 新城高校演習林実習 10月13日 森林真剣隊講座 10月18日 新城高校演習林実習 10月21日 木工作 10月25日 新城高校演習林実習 11月11日 初級活動、環境整備 12月16日 初級活動、環境整備 12月19日 鳳来中学校森林体験学習 平成31年 1月20日 初級活動、環境整備 2月17日 初級活動、環境整備	H30.7.1 ～31.3.5	新城市 門谷及び 周辺地区	参加者 318人 ・中学生 93人 ・高校生 225人 を含む 真剣隊 87人 延べ 405人
2団体	2件	19回			500人

県民参加の植樹祭開催事業 (A-78)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林活動の体験を通じて、森林・緑・水に対する国民の認識を深めるため、県民参加の植樹祭「県民参加の植樹祭 in 御在所山上公園」を三重県及び菰野町と共催で開催した。会場では、先に鈴鹿国定公園指定50周年式典が開催され、植樹祭はその関連イベントとして実施された。

参加者は、菰野町みどりの少年隊とその保護者などが参加し、広葉樹100本が認定特定非営利活動法人「森林の風」の指導のもと植栽した。樹種は、国定公園の地域であり山上に植栽されることから地域樹所のミズナラなどを選定し、獣害、風雪害から守るため、ネットをかぶせた植栽とした。

2. 活動の成果

植樹活動を実施することで広く県民、市民や子どもたちに森林活動の大切さ、楽しさやの普及啓発が図られた。

特に、厳しい環境で鹿の害で減少する樹木の再生を図るための植樹活動を体験することにより、森林保全の難しさを感じ取ってもらえることができた。

3. 参加者の声

- ・アカヤシオやシロヤシオなど貴重な樹木が鹿害にあつて大変な状況を知った。
- ・植栽地は山頂で標高が高いが雪や風に負けずに育ててほしい。
- ・暑い日で植えるのは大変だったが、山頂ですがすがしい中で植栽できて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月22日	計
事業量	植樹活動 広葉樹65本	
参加者数	100人	100人
実施場所	三重県菰野町御在所 「御在所山上公園」	

みえ森林イベント参加 (A-79)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

もりづくり月間に三重県が開催した「みえ森林イベント」の一つである「みえ子ども森の学びサミット」に出展し、「森のせんせい」登録団体である森林ボランティア活動団体の協力を得て、来場者の子ども及びその保護者を対象に「原木シイタケの菌打ち体験」を実施した。

子どもたちへは、森のせんせいから森林の役割とシイタケ原木栽培の解説を行い、菌打ちの体験を行った。

当日は、出展イベントの「木工工作」、「ミエトイ・キャラバン」などに参加した子供や保護者でにぎわい、来場者に体験への参加を呼びかけ当日受付で4回実施した。

2. 活動の成果

丸太の原木と触れ合う機会のない子どもたちに直接原木にふれ、森の恵みを得る不思議さにより、森林への関心を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・展示用の原木シイタケを見て同じように早く上がることが楽しんだ。
- ・種ゴマを打つのは楽しかった。
- ・原木栽培と菌床栽培があるのをはじめて知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月1日	計
事業量	体験参加者	
参加者数	44人	44人
実施場所	三重県松阪市 「みえこどもの城」	

森林とのふれあい促進事業（A-80）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林ボランティア6団体に対して、それぞれ10万円を限度とする助成を行い、青少年等に対する森林環境教育等を行うとともに森林ボランティア交流大会を開催し、森林・緑・水に対する国民の認識を深める普及啓発活動を効率的に行う。

助成対象は、県内において概ね20名の一般参加を得て実施される森林整備、環境緑化、森林環境教育等の推進に係る緑化関係イベントの開催とする。

- ①「ういの郷クラブ」は、市民による里山緑化植樹イベントを実施、また児童の里山保全体験学習活動を実施しコナラ60本植栽した。
- ②グリーンボランティア「森林づくり三重」は、間伐材を使った緑の少年隊など子どもたちを対象とした木工工作体験を実施した。
- ③「鈴鹿市大久保町自治会」は、自治会管理の活動フィールドで地域住民の参加を得て下刈りなど森林整備を実施した。また、地域の小中学生の卒業記念植樹を行った。
- ④「穂積製材所プロジェクト」は、森林学習や木工工作など年間を通じて実施した。
- ⑤「竹林整備隊」は、みえ子ども森の学びサミットにおいて、木のクイズや竹ポックリづくり体験教室を開催した。
- ⑥「大山田大日つあんクラブ」は、伊賀市甲野の里山において、間伐、植樹体験、遊歩道整備、キノコ菌打ち体験を実施した。
- ⑦（公社）三重県緑化推進協会は、森林ボランティア団体の活動の活性化を目指すため、森林ボランティア交流大会を開催し、間伐・下刈の体験と樹木の剪定方法の講習、各活動団体の活動発表などで意見交換を行った。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体の活動に支援することで、県下各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、楽しさの普及啓発が図られた。

また、これらの団体の交流を深め、情報交換することにより活動の幅を広げられるきっかけとなった。

3. 参加者の声

直接イベントを当協会が開催する事業でないため、支援を行った団体からの聞き取りになるが、活動基盤の弱い団体にとって当助成により広がりのある活動が可能となり、子どもたちに森林環境教育の機会を設けることができ、参加者からは好評の声が多く事業継続を求める声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	11月23日	計
事業量	助成団体6団体 植樹祭、木工工作等	交流大会開催 1回	助成団体6団体 大会開催1回
参加者数	840人	27人	867人
実施場所	三重県下一円		

緑の少年隊活動の推進（A-81）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

三重県の緑の少年隊7隊が一堂に集い、日頃の活動を発表するとともに、自然の中で野外活動を通じて緑の大切さを学ぶとともに、相互の交流と親睦を図るため、県交流集会を開催する。また、それぞれの隊の日頃の活動を活性化するため、活動に対して支援する。

今回は、県下の3隊が三重県環境学習情報センターに集合し、開会式、活動発表、誓いのことば、班編成などを経て、班別活動を開始した。班別活動では、2班に分かれて、「森のせんせい」の指導のもと自然環境観察と紙すき体験を実施した。

また、県下の7隊にそれぞれ3万円づつの活動助成費を補助し、活動装備品の充実や自然体験学習の費用などに充当した。

2. 活動の成果

森のせんせいの解説により、身近にある樹木の特性や木の感触にふれることにより、木への親しみが深まり、緑化意識の高揚に繋がることが期待された。併せて、緑の少年隊が交流することでそれぞれの隊の情報交換により、各隊の活動の深まりが期待できた。

また、活動強化を図るための助成金により、施設の利用や装備品の充実で活動の幅が拡大した。

3. 参加者の声

- ・県交流集会は、毎年楽しみにして参加しており、今回も楽しかった。
- ・活動発表は準備が大変で難しかったが無事にできてほっとした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月17日	月日	計
事業量	緑の少年隊交流集会一式	活動支援	
参加者数	51名	7隊	45人
実施場所	三重県四日市市桜町「三重県環境学習情報センター」		

森林教室開催（A-82）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林、木とのふれあいを通じて森林に親しみ、森林の大切さを感じ取ってもらうため、青少年等を対象とした森の恵みについて理解を深める森林教室を開催した。

三重県大紀町内の小学生を対象に「シイタケ菌打ち体験」の森林教室開催を募集したところ、大紀小学校から応募があり、シイタケ栽培を行っている「森のせんせい」であるキノコランドで開催した。

講師の原木栽培から菌打ち、キノコ発生までの過程を現場で説明した。

2. 活動の成果

原木栽培からシイタケ収穫までの全体の過程を知ることで、生産の大変さを感じ取ってもらうとともに、丸太の原木と触れ合う機会のない子どもたちに直接原木にふれ、森の恵みを得る不思議さにより、森林への関心を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・原木の栽培からシイタケの収穫まで大変な仕事だと勉強できた。
- ・シイタケが上がるのを楽しみにしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月21日
事業量	シイタケ原木菌打ち体験 1式
参加者数	25人
実施場所	三重県大紀町崎「キノコランド」

巨樹・古木見学会開催（A-83）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林活動等の体験を通じて、森林・緑・水に対する国民の認識を深めるため、三重県熊野市において、103年ぶりに発見された新種の野生種のサクラ「クマノザクラ」の現地見学会を開催した。募集は、新聞等による公募で43名が抽選で選ばれ、津駅前から借上げバスにより現地へ移動し、講演会の会場の熊野市「瀧流荘」で発見者の勝木博士から講演を受け、その後現地で解説を受けた。また、長全寺のナギの巨木も見学した。

当日は、テレビ局3社の取材もあり、報道として翌日放送された。

2. 活動の成果

クマノザクラの発見は、参加者に生物多様性を保全していくために、遺伝子攪乱をしない植樹活動の大切さを学んで頂いた。また、巨樹・古木に触れ合うことで未来に引き継いでいくことの大切さも学んでいただき、保全への関心を高めた。

3. 参加者の声

- ・クマノザクラが鑑賞木として普及することの可能性を感じた。
- ・参加を楽しみにしていたので当選して良かった。勝木先生の講演もあり、期待したとおりであった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月4日	計
事業量	巨樹・古木見学会開催 1回	
参加者数	43人	43人
実施場所	三重県熊野市紀和町「瀧流荘」及び 紀和町地内森林	

巨樹・古木普及啓発冊子作成（A-831）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林活動等の体験を通じて、森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための巨樹・古木普及啓発冊子を作成する。

当協会は、一般県民を対象とした巨樹・古木見学会を樹木医の解説のもと開催しており、実施に当たって、参加者への普及啓発用の冊子「三重の巨樹・古木」活用していたが、作成が平成19年と期間が相当経過したため、同冊子に掲載する樹木の現況調査等を実施するとともに枯損木については削除し、新たに11本の樹木を掲載した冊子の改訂版を発行した。

2. 活動の成果

巨樹・古木に触れ合うことで未来に引き継いでいくことの大切さも学んでいただき、保全への関心を高めることが期待できる。また、最新の情報を提供することができて、今後実施する巨樹・古木見学会へ正確な解説を実施することができる。

3. 参加者の声

・利用者から、枯死木の情報が寄せられ、改訂版の発行の要望があったがこれに対応が可能となった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月28日
事業量	三重の巨樹・古木作成 500部
実施場所	三重県下一円

緑の少年団育成事業（C-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団44団、2,859人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や活動交流会・発表会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動となった。

また、活動交流会・発表会の開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

とりわけ平成26年度より、滋賀森林インストラクター会の協力を得て緑の少年団サポーター制度を設け、当インストラクター会の指導のもと県内を4ブロックに分けて行っている指導者研修会を平成30年度は計6回開催し、またそのフォローアップとして5回にわたり個別指導を実施したことによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上が図られた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していきたい。

3. 参加者の声

森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通 年	7月～9月	2月23日	計
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 6回	活動交流会 活動発表会	
参加者数	2,859人	47人	49人	2,955人
実施場所	県下一円	びわこ地球市民の森 (守山市)他5箇所	希望が丘文化公園 (竜王町)	

森の恵みを次世代に伝える京都モデルフォレスト運動実践講座の開催（A-83）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

これまで築かれてきたモデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体の協働」をさらに強め、活かすことによる運動のさらなる発展を目指して、企業のCSR担当者を対象としたセミナーや企業の森林づくり担当者や森林づくりリーダー等を対象とした実践講座、次世代を担う青少年や親子、一般府民向け講座、緑の少年団及び指導者を対象とした交流会等を開催。また国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、海外のモデルフォレストと情報交換を行った。

2. 活動の成果

個人、親子連れ、緑の少年団など幅広い層を対象とした体験行事を開催し、府民共有の財産である森林の豊かさを引き継ぐ大切さを広く共有できた。また、企業の森林づくり担当者等を対象とした森林づくり活動の企画運営講座や他社の活動見学の受け入れなどオープンフォレストの取り組みを進めることで、参加者間の連携強化に繋がった。

3. 参加者の声

- ・「森づくり活動について新しいヒントを得ることができた」「先駆的な取り組み事例を知ることが出来て良かった。」（CSR活動公開セミナー）
- ・「他社の森づくり活動の実際を直接聞いて良かった。自社でも取り入れられるところなど参考になった」（研修交流会）
- ・「知らない木や花の名前を知ることが出来て良かった」「森林インストラクターからたくさん話を聞いて良かった」「木の香りで癒された」（体験教室）
- ・「知らない木の名前がたくさん憶えられた」「京都の生きものについてのクイズが楽しかった。勉強になった」（山キッズ交流会）

実績報告とりまとめ表

実施時期	9/11	① 10/25 ② 2/1, 3/21, 6/13 ③ 12/8	11/24, 25 2/23 5/18	3/21	計
事業量	CSR活動公開セミナー	オープンフォレスト ①生物多様性ワークショップ ②研修交流会 ③体験会	普及啓発・体験教室・森林体験ツアー	山キッズ交流会	
参加者数	67人	67人	132人	185人	451人
実施場所	京都市左京区	南丹市、京都市、和東町	京都市伏見区	南丹市	

大阪府緑の少年団連盟 交流集会（A-84）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大阪府内の緑の少年団の団員および指導者の交流、また日常の活動の研鑽や意欲の向上を目指して開催した。

開催地 奈良県山添村生涯学習施設『東豊館』（大阪府羽曳野市契約施設）参加団 府内5団

実施日 平成30年8月19日（日）

10:00 開会式 10:10 交流ゲーム 11:00 竹コップ・竹箸づくり

12:00 昼食（流しそうめん・アルファ米のおにぎり）

13:00 活動発表・功労者表彰式

13:40 交流ゲーム

15:00 閉会式・集合写真 15:30 現地発

2. 活動の成果

子どもたちに自然体験や環境について学びの機会を提供するため、年に1度、府内各団が集まる機会を持っている。交流ゲームやお昼ごはんの流しそうめん用にオリジナルの竹の器と箸をつくった。また、自団の活動紹介や功労者表彰も行い、各団の団員、指導者間の交流を図ることが出来た。

暑い中の団を超えた班対抗交流ゲームを通じ、団員たちにも緑が多く自然豊かな場所で思いっきり体を動かし、新しい出会いもあり新鮮な機会だった様子である。また指導者には安全管理の再確認などを行う機会にもなった。

3. 参加者の声

- ・暑い日だったが、元気に楽しく活動できた。特に食後のかき氷が良かった。
- ・団紹介は各団の特徴がわかって良かった。自団の取組みをまとめる機会にもなった。
- ・自分で竹を紙やすりで削ったお箸は、家でも使いたい。
- ・流しそうめんは生まれて初めての経験だった。
- ・楽しく充実した1日だった。年に1度の機会なので、来年は子どもたちの交流がもっと出来る内容になればいいと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月19日	同左	計
事業量	緑の少年団連盟 交流集会	同左	
参加者数	団員 52人	指導者 31人	83人
実施場所	奈良県山添村東豊館（羽曳野市提携施設）		

市民協働による生物多様性ホットスポット保全活動（A-85）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの市民が森林・みどり・水、あるいはそこに培われる多様な生きものを身近に感じ、それらに対する認識を深めるため、関係者の協力を得ながら、各種の普及啓発やイベントの開催を行う。

また、各活動地の生物多様性豊かな環境を守っていくために、必要な手入れを行うとともに、将来のボランティアリーダーになり得る人材を育成するための講座、「森人塾」を開催する。

- ①普及啓発やイベントの実施
- ②各活動地のボランティア・地域の方々・企業参加による保全活動の実施
- ③人材育成のための講座「森人塾」の開催

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。

- ①自然災害が多く発生したため、中止のイベントもあったが、府内各所で4回のイベントを開催し、293名が参加。
- ②主に3ヶ所（三草山ゼフィルス森及び麓の里地、地黄湿地）でボランティアや地域の方々及び企業による保全活動を行った。
- ③3期目を迎えた森人塾。全11回の座学・フィールド学習による講座を開講。10月に行った特別講演もあわせて、47名の受講者があった。森人塾卒業によるネットワークを構築中。

3. 参加者の声

- ①大阪にも珍しい動物がいてることを知りました。
- ②大阪府の北部はシカの食害がひどくなっていることを知った。
- ③保全活動での動物への対応や、具体的な取組がよくわかりました。
自然の中に自生しているサギソウを見ることができて、感激しました。図鑑の中でしか見たことがないので、ラッキーでした。湿原も人の手が入らないと維持できないというのも驚きでした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	通年	通年	計
事業量	普及啓発やイベント	保全活動	森人塾	
参加者数	のべ293人	のべ1,595人	47人	1,935人
実施場所	大阪府大阪市、岸和田市、貝塚市、豊能郡能勢町 ほか			

地域緑化イベント開催事業（A-86）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑あふれる県土づくりと森林の持つ役割・重要性を広く県民に周知するため、森林の良さを肌で感じることができる森づくりの機会を提供するとともに、都市と農山村の交流を通じて森林や木材に対する認識を深めることを目的とするイベントを開催した。

(1) ゆめさきの森公園「ゆめさきの森まつり」の開催

木工クラフト体験、丸太伐り体験、森の食体験の各ブースを設置。

森のウォークラリー、森の音楽会を実施

(2) 神戸新聞まつり「木にふれよう！楽しもう！」イベントの開催

木製おもちゃの展示、親子で楽しめる松玉プール、木工体験（木製の温度計）、

木造住宅相談の各ブースを設置

2. 活動の成果

森林や木材に対する理解を深めるイベントを開催することで、緑あふれる県土づくりを進める契機とすることができた。

「ゆめさきの森まつり」では、里山の保全をボランティアスタッフと共に進めて、地元住民と都市住民の交流の場、世代間の交流の場、親子・家族の触れ合いの場を提供する機会となり、将来に向け、人的ネットワーク形成の上での実効ある県民参加の森林づくりの推進に寄与することができた。

「木にふれよう！楽しもう！」イベントでは、持続可能な森林資源を適正に維持する林業生産サイクルの一翼を担う木材利用と人と地球環境に優しい木材の良さを認識を高めて貰うことが出来た。木に触れる催しにはりピーターも多くあり、国の国産材率50%という目標達成には木材の利用をさらにPRする必要があることから、引き続き開催する予定である。

3. 参加者の声

- ・とても楽しかった。こんな良い場所が身近にあったことが知らなかったの、これからもっと森に親しみたい。
- ・毎年楽しみに来ています。のんびりできる良い場所です。
- ・初めてきました。子供が大変喜んでいました。今度はお弁当を持って来たいです。
- ・森を歩く機会が無かったので、子供と一緒にウォークラリーはとても良かったです。
- ・木製おもちゃがすばらしい。
- ・松玉プールは楽しい。家にもほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月28日	11月3日	計
事業量	ゆめさきの森公園 「ゆめさきの森まつり」	「木にふれよう！楽しもう！」 イベント	
参加者数	1,829人	13,000人	14,829人
実施場所	姫路市	神戸市	

森林整備・緑化活動支援事業（C-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

兵庫県が進める「県民総参加の森づくり」の実現を図るため、次代を担う持つ緑の少年団の活動を支援をした。

(1) 指導者研修会の開催

指導者向けの救急法講習、少年団向けの森林レクリエーションを実施した。

(2) 緑の少年団のつどいの開催

「ひょうご森のまつり2018」に合わせ開催し、ひょうご森のインストラクターによる里山林整備体験、緑の募金活動を実施した。

(3) 出前講座の実施

森林活動をサポートするため、希望する団に指導者を派遣した。

(4) 緑の少年団地域活動の支援（地域交流集会及び各少年団活動の支援）

兵庫県内の地区連絡協議会に地区活動費及び少年団活動費を助成した。

2. 活動の成果

指導者研修会を実施することで、救急法講習による知識の習得だけでなく、他の少年団の指導者との交流ができた。

また、研修会・つどいでは森のインストラクターによる指導を見学することで、各団の今後の活動の参考にすることができた。

出前講座を実施することで、知識・経験不足等で森林体験がしづらかった少年団において、森林活動を行うことができた。少年団と指導者である森林インストラクターとの繋がりができ、来年度以降の活動に繋げることができている。

3. 参加者の声

- ・普段の活動ではできない里山林整備体験を、多くの指導者がいる中で安全にすることができてよかった。
- ・出前講座を行った森に入って活動したり遊ぶ子どもが増えた。自然に興味を持つようになった。
- ・出前講座を受ける前とその後では、同じ場所なのに違う森に来たみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	11月4日	10月～12月	7月～2月	計
事業量	指導者研修会	緑の少年団のつどい	出前講座	各地区での活動	
参加者数	66人	84人	101人	10,901人	11,152人
実施場所	市川町	福崎町	西宮市、淡路市、加東市	県内各地	

森の文化事業（A-87）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑の役割、働きを都市と山村の交流や森林・緑とのふれあいイベントを通じて理解・認識を深めてもらう。

「奈良県山の日・川の日」に開催された「森林体験山もり・てんこ森」イベントの北部会場にブースを出展。森林に関するパネル展示や緑化作品コンクール入賞作品の展示、花苗500本を配布し、緑化啓発活動をした。

また、昭和の日には、県営公園で緑化苗500本の配布と、緑化作品コンクール入賞者の表彰を行ったほか、ゴールデンウィーク期間中は緑化啓発PR展としてポスター等の掲示を行った。同じくゴールデンウィーク期間中に、県うだアニマルパークで緑化苗1000本の配布を行った。

「大和路花と緑のフェスティバル」実行委員会のオブザーバーとして、企画運営に関わったほか、「大和路プチガーデニングコンテスト」「大和路フラワーデザインコンテスト」で理事長賞を授与した。フェスティバルでは、パネル展示や緑化作品コンクール入賞作品の展示を行った。

その他、年間を通じて、「花いっぱい推進運動」の一環として、事務所前や協力団体の玄関等に花苗のプランターを設置、街の景観保全につとめた。

2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。

3. 参加者の声

- ・森林の役割や現状がわかりやすく理解できた。
- ・木工工作が出来て、たのしかった。
- ・木の特性や機能がわかり、興味がわいた。
- ・森林の機能やあり方など、現在の環境について、もっと勉強したいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	4月～5月	計
事業量	普及啓発 展示、花の種、資料配布	普及啓発 花苗配布、展示、表彰等	
参加者数	500人	4000人	5,000人
実施場所	奈良県奈良市、広陵町、宇陀市、橿原市		

ボランティア緑化活動事業（C-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、活動充実のための物資等支援や貸し出しを行った。その他、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行い、指導した。

また、当協会と連携して事業を行うボランティア団体の会報づくりに協力した。

2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。また、安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。

今後も引き続き、地域に密着した活動を支援していきたい。

3. 参加者の声

- ・個々のボランティア団体の事務的支援をお願いする。
- ・国土緑化推進機構等の助成事業など、情報提供をお願いする。
- ・各ボランティアが長く活動を続けられるよう、これからも事務的援助をお願いしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	計
事業量	イベント紹介、事業紹介、参加促進	
参加者数	300人	300人
実施場所	奈良県全域、奈良市	

青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業（A-88）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進する。

今年度の主な活動としては、県内各地のみどりの少年団代表が集まり、共に活動しながら情報交換・交流を深める交流集会を実施し、和歌山県伊都郡高野町において、高野山森林公園を歩きながら、森林の役割や林業の重要性について学習会を行った。

また、木材の暖かみを子供達に知ってもらうため、地域で行うイベント会場（商工祭り）において、「木工体験コーナー」を出展し、紀州材を活用した木工教室を行った。

2. 活動の成果

- ・みどりの少年団交流集会の開催により、青少年に対して、森林・林業に関する普及啓発活動、木材の重要性及び都市地域の小学生と山村地域の小学生の交流・情報交換が行えた。
- ・地域で行うイベント会場（商工祭り）において、「木工体験コーナー」をもうけ、親子の絆をテーマに、紀州材木製品の良さや間伐材需要拡大等の啓発活動を行えた。

3. 参加者の声

- ・みどりの少年団交流集会に参加の子供達からは、山を歩きながら色々話しが聞けて勉強になった。交流集会では名刺交換して新しい友達が出来た等の声があった。また、参加団体の引率者からは、このような企画は子供達にとって重要であり、是非、続けて欲しいなどの意見があり好評だった。
- ・木工イベントでは、「木工体験コーナー」では、用意していた木工キットが全てなくなるほど好評で、子供だけでなく、親も一緒に夢中になって作業をしていた。親子で共同作業できるので良い取組だ等の意見をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年8月20日（月）	平成30年8月21日（火）	平成30年10月13日（土）・14日（日）
事業量	和歌山県伊都郡高野町の高野山において、森林散策及び学習会を実施。紀北青少年の家にて、各みどりの。少年団の活動実績をポスターやプロジェクター等を用いて発表。終了後に親交を深めるため名刺交換会を行った。	県内の間伐材を使用した木工教室を開催し、ブックスタンドを作製した。	1. 木工体験 紀州ヒノキの間伐材で製作した木工キットを用いて親子木工体験を実施。 2. 緑の募金活動 木工キットに係る費用分の金額を目安に、緑の募金の呼びかけを行った。また、緑の募金の使途・活用等についてパンフレットを用いて普及活動を行った。
参加者数	120人		300人
実施場所	和歌山県伊都郡高野町・かつらぎ町 (高野山森林公園・紀北青少年の家)		和歌山県和歌山市 (和歌山ビッグホール)

森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業（C-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、そのまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体の連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林監察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指した。

2. 活動の成果

一年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来た。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えている。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促す。

3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の先生の話しが聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、身をもって学べた」等の意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年7月～令和元年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）		
事業内容	1. 座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処と和歌山県の自然植生について・様々な樹木の生育特性と自然配植技術・和歌山県の特用林産物・日本の林業と和歌山県の林業 2. 実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・人工林整備（チェーンソーの使い方と人工林間伐作業）・苗木の植栽・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・里山整備（竹炭窯出し）・照葉樹林の森林観察・光るキノコ観察・ブナ林の観察・紀州備長炭生産とウベメガシ原本林観察		
参加者数	延べ386人		
実施場所	座学：和歌山市中央コミュニティセンター 実習：和歌山県紀美野町・岩出市・日高川町・護摩壇山・みなべ町・すさみ町		

活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-89)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する市町村等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

2. 活動の成果

公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

3. 参加者の声

- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。
- ・公園や公的施設、登山ルートに設置したことで、利用者に高評価をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		計
事業量		
参加者数		
実施場所	鳥取県内10市町村 17箇所 468枚	

活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-90)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図るとともに、森林の働き、環境緑化等の認識を深める。

2. 活動の成果

教育の場を通じて、木材の良さ、森林の働き、環境緑化等の意識高揚が図られた。鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや細工の難しさ等感じる事ができた。

3. 参加者の声

- ・糸鋸で直線や曲線が切れるようになったことで、いろいろな形の作品に挑戦することができた。
- ・初めてのこぎりを使った工作に挑戦しました。のこぎりの使い方はとても難しかったです。
- ・本立て作りをして、くぎ打ちはぜんぜんできなかったのに、この学習のおかげでできるようになりました。しっばいはたくさんしたけど、最後までがんばりました。金づちになれてきて楽しくなりました。またやってみたいです。
- ・とてもいい木だったので、とてもおもしろい作品が出来ました。木は木のいい香りや木目がとてもすてきでした。
- ・県産のスギ材のぬくもり、板模様、香りを感じ取りながら製作することができた。
- ・完成したときは嬉しかった。家でも大切使いたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		計
事業量	602組	602組
実施場所	鳥取県内 18小・中学校	

活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-45)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の良さを多くの子ども達に知ってもらう活動を通じ、森林整備の重要性を認識してもらうことを目的とする。

2. 活動の成果

民間の任意団体等が自主的な緑化活動等を実施することにより、森林や環境への認識の度合いがより強くなり、また中核となる森林ボランティア育成にも繋がり、周りへの影響力も大きなものとなった。

木材の良さを子ども達に体験してもらい、木材需要・森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・かなづちで釘がなかなか上手く打てなかった。
- ・いろんな経験を子どもにさせたかったので、このような企画開催はとてもうれしいです。
- ・次回も参加したいです。
- ・木材の特徴を教えてもらいながら、組み立て仕上げをし上手に出来ました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	8月5日	計
事業内容	木工教室の開催 棚づくり	親子木工教室の開催 A.小物入れ① B.おもちゃ箱 C.ごみ箱 D.小物入れ②	
参加者数	20人	14人	34人
実施場所	鳥取県 大山町	鳥取県 大山町	

活動基盤整備事業「森林空間活用推進事業」(C-46)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

鳥取ハドルの会が鳥取市内の人を中心にスタッフを含め、午前の部（森林観察、草木染め等）、午後の部（ラフターヨガ）を行った。

森林の現状を観察し、森林を育てることの大切さや考え方を知ってもらい、森林林業についての教養を深める。

また、森林散策、森林観察、森林作業、作品造り、ラフターヨガの効果を通して、森林の持つ健康増進効果を体感する。

2. 活動の成果

都市部の人や子どもたちに森林の大切さ、林業の役割を実体験してもらい、森林の大切さを知ってもらうことにより、森林林業の理解者のすそ野が広がり、森林の文化教養、健康増進の場としても強くアピールできた。

3. 参加者の声

- ・21世紀の森での森林散策で森の不思議な魅力に触れることができました。
- ・森のなかでのラフターヨガ（笑いのヨガ）でストレスが取れました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月2日	計
事業内容	鳥取ハドルの会 ・森林観察 ・草木染め ・ラフターヨガ	
参加者数	38人	38人
実施場所	鳥取県 鳥取市	

「森の誕生日」2019事業（A-91）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「ふるさと森林公園」の開園記念日である4月29日を「森の誕生日」と定め、県内森林関係団体、NPO組織などが一堂に集まり「森林保全の大切さ」や「森林の持つ多面的機能」の普及啓発を行い、合わせて「緑の募金」を呼びかける総合イベントを実施した。

主な内容は以下の5項目

(1)「森の学びブース」

森林関係10団体が、日頃の活動を紹介し、親子で楽しめる体験型の活動を行った。

(2)「森とのふれあいコーナー」

端材を使った木遊び体験やネイチャートレッキング、木登り体験、飾り炭作りなど森林インストラクター等の指導による活動、地元高校生による「移動ミニ動物園」を開催した。

(3)「ステージイベント」

森をテーマとした緑の少年団のダンス、地元高校による吹奏楽演奏等を行った。

(4)「森のマーケット」

アウトドアグッズ販売、フリーマーケット等を行った。

(5)「緑化苗木の配付」

ハナミズキ、サラサドウダン等の苗木を配付した。

2. 活動の成果

大型連休の始めに、家族連れで出掛ける魅力あるイベントとして定着した。事前に、関係団体HPでの告知や周辺小中学校へのチラシ配布、周辺JR駅構内へのポスター掲示等県民への周知に努めたが、当日雨模様となり、例年より少ない4000名程度の来場者となった。

ステージでは「森林」や「環境」の重要性を訴える内容が披露され、来場者に分かりやすいと評価された。例年実施している緑化苗木の配付も好評であった。

なお、当日は、島根県が全国植樹祭1年前記念イベントを併催した。

3. 参加者の声

イベントが定着し、多くの家族連れに来場いただいた。苗木配付や体験ブースには行列もでき、「毎年、このイベントを楽しみにしている」との声を聞くことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計
事業量		
参加者数	4,000人	4,000人
実施場所	島根県松江市宍道町3352 「ふるさと森林公園学習展示館及び駐車場」	

緑の少年団育成強化事業（C-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親善と交流活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会・森林林業体験活動等を通じ森林環境教育を推進し、「森づくり」の大切さを理解させる。

2. 活動の成果

●指導者講習会では、島根大学大学院教育学研究科 長和弘教授（元小学校長）に「これからの社会 これからの子ども これからの学校 ―森林環境教育の可能性を探る―」という演題で、子どもたちの現状を踏まえて、島根の豊かな自然を活かした環境教育の有効性と具体的な活動事例をお話していただいた。

●県活動発表大会では、緑あふれる自然の中での学習、活動発表や共同生活を通じて知識を深めるとともに、互いに親睦を深めることができた。熱中症対策として、スポーツドリンク・塩あめの配布を行ったところ、先生や団員にも好評だった。発表大会には見学者も含め約60名参加し、県内緑の少年団の多様な活動を知る事ができ、今後の活動につながる良い刺激となった。

3. 参加者の声

●指導者講習会

・新学習指導要領の方向性と結びついた内容でわかりやすく、イメージの持てるものであった。

・子どもたちに「何ができるようになるか」「何をできるようにさせるのか」そのための教育の方向性を改めて考えさせられた。自校での環境教育の可能性を探っていきたい。

●活動発表大会・交流集会

(教員)

・発表は各団、地域独自のものを活かした内容で勉強になった。

・へき地校のため、同年齢の他校とのふれあい・関わりはとても重要で、交流集会によって社会性を広げることにつながった。

・異校種・異学年が声を掛けながら活動でき、貴重な体験であった。

(生徒・児童)

・自分たちの自然を守る活動についてしっかり発表することができて良かった。他の少年団の活動を聞いたら、こんな活動もいいなと思うものがあって、聞くことができて良かった。

・それぞれ行っている活動は違うけど“地域のため”というのを多く感じた。

・ネイチャーゲームは自然の音をたくさん聞けて良かった。

・木工教室は楽しかったし、友達もできて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月28日	7月31日～8月1日	計	備考
事業量	島根県緑の少年団連盟 総会・指導者講習会	島根県緑の少年団 活動発表大会・交流集会		(通年) 冊子・募金箱等配布
参加者数	30人	62人	92人	少年団113団
実施場所	島根県 出雲市	島根県 江津市		県内

第19回森林を考える岡山県民のつどい（A-92）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図るため、基調講演会、県民参加の森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、木工製品・地域特産品等の展示販売を行い、広く県民に森林の保全や美しい森づくりの推進と森林・緑・水に対する認識を深めてもらう場を提供した。

2. 活動の成果

基調講演会では、林野庁長官をお招きして「林業・木材産業の成長産業化に向けて」と題し、過去から現在に至るまでの森林・林業事情の変化や、これから向かうべき方向性についてを、川上、川下とに分けてご説明いただいた。

参加いただいた県民の皆様には森林整備、森林保全、木材活用の促進について考えていただくきっかけとなった。

また、各種木工教室や苗木の無料配布などによって、子どもたちをはじめ多くの方に木に親しみ、木の魅力を知ってもらうことができた。

今後も、参加される方々に地域産材の利用を紹介・推進し、県産材利用の向上につながるような取り組みを行っていきたい。

3. 参加者の声

- ・来られている方の森林・林業に対する情熱や真剣さが伝わってきた。
- ・とても良い勉強になった。
- ・講演会において、法改正の方向性等、詳しく参考になる話であった。
- ・有意な会だと感じた。身近で継続的な取り組みから始めたい。
- ・「伐って、使って、植えて、育てる」このサイクルをうまくまわすことを学んだ。
- ・いろいろな展示物を楽しんで観させていただいた。
- ・今まで10回くらい参加した中で、一番良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月27日	計
事業量	1日	1日
参加者数	約2,500人	約2,500人
実施場所	岡山県津山市大田920番地 グリーンヒルズ津山	

県産木材フェア開催事業（A-93）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

おかやまコープの「コープフェスタ2018の一面にブースを借り上げ、木材のぬくもりや木造住宅の快適性、安全性を広く一般県民に認識してもらうとともに、県産木材の利用拡大を図るため、児童、生徒を対象とした木育及び木材・木製品の展示・販売や親子木工教室や・木製品の展示・販売や親子を対象とした木工教室を行った。併せて、木のジャングルジム(子ども建前ごっこ)、等を開設して、直接木材に触れる体験をさせた

2. 活動の成果

当日は、天候にも恵まれ、全体の入場者約20,000人の参加者があり、木材、木造住宅の良さに理解が得られ、木材の利用拡大に貢献できた。

木材に触れたいと多くの子供が参加した木工教室では、42組106人が便利棚づくり(別紙)に挑戦するなど木育の目的を達成することができた。

3. 参加者の声

親子がいっしょに汗を流し、初めて使うノコギリやカナヅチで作品を完成させることができ、また、木のジャングルジム(子ども建前ごっこ・大工さんと小さな家を建てよう!)も子ども達が大工さんと組立体験ができて、木のぬくもりを直接感じられたことも含めて非常に有意義な1日であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年9月22日(土)	計
事業量	1回	
参加者数	入場者(全体)約20,000人 ・木のジャングルジム(子ども建前ごっこ)60人 ・木工教室42組106人	約20,000人 166人
実施場所	岡山市北区大内田675 コンベックス岡山 中展示場	

もりもりクラブ普及活動事業（A-94）

基金事業の概要

1. 活動の概要

森林をフィールドに次世代を担う子ども達に五感を使って『もり』を体感してもらい、森林・林業・木材利用に対する興味や関心を持ってもらうことを目的としている。

間伐体験・丸太切り・森林公園内での自然観察といった体験型事業を行った。また、森林を考えるつどいでは間伐事業のパネル展示・木製クラフト・葉脈しおり作りを行った。

体験型事業では、間伐の役割についてリーフレットで説明し、その後、手鋸を使用し、丸太切りを体験した。岡山県立森林公園では自然散策を行った。

つどいでは公社のPRパネルの展示を行った。またポックリ・丸太椅子・コースターの木製クラフト販売と葉脈のしおり作りを行った。

2. 活動の成果

間伐体験では間伐の必要性の説明や自らの手で木を伐り倒すことによって林業に対する興味や関心が高まった。丸太切り体験では、子どもたちに競争要素を取り入れながら実際にしてもらうことで、木を切ることの難しさを楽しみながら学ぶことができた。また岡山県立森林公園では自然散策を行い、自然に触れ合うことの大切さを学ぶことができた。

ヒノキの木工クラフトの丸太椅子・コースター、葉脈のしおりといった普段から身近に使用できるものを提供することで今まで以上に森や木などに対する興味・関心が高めることができた。

今後と同様に間伐・丸太切り体験や木工クラフト、葉脈しおりづくりを実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・ノコギリで木を切る体験は新鮮でおもしろかった。(小5・女子)
- ・双眼鏡の使い方がわかってよかった。(小5・女子)
- ・双眼鏡で鳥を観察したのがおもしろかった。(小5・女子)
- ・間伐の重要性や自然の大切さが実際の体験を通して学ぶことができたと思う。(成人男性)

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年10月27日	令和元年6月30日	計
事業量	木工クラフト 葉脈しおり作り体験 パネル展示	間伐体験 丸太切り体験 自然散策	
参加者数	約30人	7人	約37人
実施場所	・岡山県津山市大田 グリーンヒルズ津山	・岡山県苫田郡鏡野町上齋原 公社造林地 岡山県立森林公園	

第34回くらしき都市緑化フェア（A-95）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化による環境破壊を防止するには、今ある森林を保全し、森林の機能を増進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性を広く理解してもらうことが重要である。

そこで、緑化フェアの開催により、基調講演会、森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を通して、広く森林の保全や緑の重要性への認識を深めてもらう。

2. 活動の成果

森づくりと緑の募金の紹介では、二酸化炭素の吸収や保水性などの森林の機能や木の魅力について、多くの人にPRした。また、苗木600本を無料で配布することによって、多くの人が木に親しみ、その魅力を知ってもらうことができた。さらに、次世代を担う子どもに木に関心をもってもらうために、岡山県産のヒノキを使って、ちびっこ木工教室を開催したり、木材を使用したカブラにより木の良さを体感してもらった。

また、庭木の剪定教室を開催し、民地の緑化推進を図るとともに、樹木に関する展示を行い、緑化の普及啓発に努めた。

今後とも、身近な緑の重要性を理解してもらうとともに、県産木材をより身近に感じてもらえるような取組みを行っていきたい。

3. 参加者の声

- ・ちびっこ木工教室で触れた無垢の木の感触は、プラスチックや合板と違い、気持ちが落ち着くように感じました。今度、玩具を買う時は、無垢の積み木を選び、それを大切にしていきたい。
- ・岡山県産のヒノキの積み木コーナーで遊ばせていただきました。塗料を使っておらず、自然の香りが部屋いっぱいにひろがり、森林浴をしているように感じました。その効果によって、子どもだけでは無く、遊んでいる子どもを見ている私たちもリラックスさせていただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月21日	計
事業量	1日	1日
参加者数	1,609人	1,609人
実施場所	岡山県倉敷市福田町古新田940番地	ライフパーク倉敷

緑化普及推進事業（C-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、自然の中で共同生活と学習活動を通じて、緑の持つ重要性や必要性を学んでもらうとともに少年隊相互の交流を図ることを目的に、県内各地のみどりの少年隊が、1泊2日で備前市閑谷の県青少年教育センターに宿泊し、樹木観察、木工作や地元の備前焼づくりに挑戦した。

「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に加賀郡吉備中央町の国立吉備青少年自然の家で、施設等現地調査、焼き板づくり、意見交換会を実施した。

なお、「みどりの大会」は、広く県民に森林や水に対する認識を深めてもらう目的で企画・準備したが、台風接近によりやむなく中止した。

「岡山の巨樹老樹名木」の編集・現地調査は、書籍の作成に向けた特選樹の選別作業や現地地調査、写真撮影、原稿の作成を行った。

また、緑化月間には山陽新聞社の協力を得て、緑化募金や緑化事業、各種緑化イベントのPRを紙面に大きく掲載した。

2. 活動の成果

みどりの少年隊交流集会では森林内の宿泊研修施設で共同生活と体験学習活動を通じて少年隊員たちの交流や緑の大切さについて認識を深めることができた。

みどりの大会は台風接近により中止となったが、後日、地元少年隊による植樹活動を行った。

岡山の巨樹老樹名木では、書籍の発行に向けた特選樹の選定や原稿作成を行った。

少年隊の研修等については、これからも内容等を充実させて、多くの子供たちや指導者が参加できる企画に取り組みたい。

3. 参加者の声

交流集会での子供たちの感想文には、「森の中で色々なことが出来て楽しかった。」「みんなと一緒に面白かった。」「木工クラブができた。」など1泊2日の集団生活や自然学習、友達と交流の様子が生き生きと書かれていた。

「岡山の巨樹老樹名木」の改定は約40年ぶり、出版に向けて大きな期待が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

行 事 名	みどりの少年隊 交流集会	みどりの少年隊 指導者研修会	みどりの大会	「岡山の巨樹老樹名木」 編集・調査
実 施 時 期	H30.8.17～18	令和1年6月28日	H30.9.30	H30.10～R1.6
事 業 量	1泊2日	1日	1日	1年間
参 加 者 数	57人	23人	人	
実 施 場 所	備前市閑谷	吉備中央町吉川	台風により中止	県内各地

平成30年度「緑と水の森林ファンド」事業（A-96）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②しおり作り・木工クラフト、③自然は遊びの宝物、④丸太切り体験、⑤ノルディック・ウォーク、⑦親子木工教室、⑧紙粘土で干支のイノシシを作ろう、⑨鳥のオカリナを作ろう、⑩折り紙で昆虫づくりを開催し多くの家族連れで賑わった。

また、販売ブースにおいては、①かずら製品・竹炭などの里山の土産、②朝取り野菜と地元加工品、③わた菓子・スーパーボールすくい等を開催し、好評を博した。

展示コーナーにおいては、広島県、広島市、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

当日は、晴天に恵まれ、約2,500人の県民の方々に参加していただいた。本年度第23回の開催となり、多くの県民に定着したイベントとなっている。

3. 参加者の声

親子木工教室等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。作品が家庭に持ち帰り、使えることがメリットであると喜ばれた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、雨にもかかわらず、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取り組み、今後も継続を求める声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計
事業量	10:00 開会式 各種行事を実施 15:00 閉会式	
参加者数	2,500人	2,500人
実施場所	広島県 広島市 東区 福田町 ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」	

木材需要拡大講演会等開催（A-97）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の利用拡大は「林業の成長産業化」に欠くべからざる要素であり、再生可能な森林資源を持続的に循環利用し、地球温暖化防止など森林の多面的機能を発揮させつつ国産材の安定供給体制を構築し、新たな木材利用の創出を図ることが重要な課題となっている。

このため、我が国伝統の「木の文化」を再構築し、林業・木材産業及び関係諸産業の健全な発展を目指して、木材需要拡大の重要性を広く県内外関係者で共有し、取組み強化の契機とすることを目的に、大会サブテーマである「木をつなぐ～神々の時代から、現在（いま）、そして未来へ～」に相応しく、出雲大社権宮司の千家和比古氏を講師に招き、「つなぎ」をキーワードに、「高大な木造り神殿～出雲大社をめぐる“なるほど”探訪～」の演題で、記念講演会を開催した。

2. 活動の成果

全国の木材産業関係者が一同に会し、林業・木材産業の健全な発展を目指して、木材産業の振興発展方策について討議し、大会宣言決議、行動宣言を行なうとともに、各種表彰行事などと併せて記念講演を開催した結果、全会一致で、木材需要拡大に向けた決意表明に繋がる等、一層の機運醸成が図られた。

また、「木材利用を優先する社会（ウッドファースト社会）」の実現に向け、国、県、市町等関係行政機関に対する施策展開に向けた要請及び、広く国民・県民に対する「木の文化」復活に向けたアピールを通じて、森林の重要性に対する理解の推進並びに「国民参加の森林づくり」運動展開に向けた大きな契機となった。

3. 参加者の声

○出雲大社にまつわる様々な“なるほど”を聞くことが出来、大変良かった。

○平成遷宮における木造建築本殿の修理模様を詳しく聞かせて頂き、「木の文化」の素晴らしさが改めて実感できた。

○高大な木造り神殿が古来から造営され「木の文化」が継承されて来たこの歴史を、現代に生きる我々は真剣に受け止め、将来に引き継いでいく使命があると感じた。

○木材の需要拡大の一層の促進を通じて、新たな発想で木材産業の明るい未来を切り開いていく決意を新たにした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月18日	計
事業量	講演会開催	
参加者数	850人	850人
実施場所	広島県 広島市	

(第38回) 緑の少年団交流集会開催事業 (C-49)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団が一堂に会する交流集会を開催し、野外活動を通じて相互の交流と親睦を図るとともに、自然に親しみながら、心身を鍛練し、自律・友愛・協同・奉仕の心を養うことを目的とする。

広島県廿日市市吉和の「県立もみのき森林公園」において、平成30年7月26日(木)～7月27日(金)に、県内の緑の少年団4団・団員42名が一同に会して、キャンプ・班旗作り・野外学習(アスレチック、林業体験)・キャンプファイヤー・夕食の炊事等を行った。

2. 活動の成果

好天に恵まれ、大きく体調を崩す団員はなく、無事に交流集会を完了した。予定より少ない参加団数であったが、班員どうしにおいても、参加者どうしにおいても、密な親睦が図られた。

森林内での学習活動、キャンプなどのレクリエーション活動を通じて、自然を愛し、仲間を愛するなど心豊かな人間を培うことに寄与できた。

3. 参加者の声

今回は少し人数の多い班構成となったが、参加者が一体となって行事に取り組んだことで、全員が役割を担うことを体験し、例年にも増して一体感が養われた。程よい行事日程のため、無理なく楽しめた。釜戸の火を付けるのが難しかった。助け合いながら自分たちで作ったご飯は、おいしかった。アスレチック、キャンプファイヤーが良かった。満天の星空が美しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月26日	7月26日	計	備考
事業量	オリエンテーション 班旗作り アイスブレイク テント設営 夕食作り キャンプファイヤー	朝の体操 アスレチック 林業体験 後片付け お別れ会		
参加者数	73人	73人	73人	少年団員42名 指導者等31名
実施場所	広島県 廿日市市 吉和 1593-75 「県立もみのき森林公園」			

都市と山村ふれあい交流促進事業（A-98）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができ楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月28日 ～12月21日	計
作業内容		9 林業研究グループが9箇所で開催した森林林業体験等を実施	
参加者数	県内	614人	614人
	県外	0人	0人
	計	614人	614人
実施場所		山口県 岩国市、光市、山口市、長門市、萩市、阿武町	

森林体験学習支援事業（C-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配布し、森林環境教育・森林E S Dの促進を図る。

2. 活動の成果

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校37校の児童生徒及び指導者等1,000人に「緑の手帳」を配布し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解を深まり森林環境教育・森林E S Dの促進を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・児童達は緑の手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月18日～3月1日	計
作業内容		37小中学校で森林体験学習を実施 学習教材を配布	
参加者数	県内	1,000人	1,000人
	県外	0人	0人
	計	1,000人	1,000人
実施場所		山口県 岩国市、柳井市、下松市、光市、周南市、山口市、宇部市、山陽小野田市、美祿市、下関市、長門市、萩市、和木町、周防大島町	

記念の森造成事業（C-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

2. 活動の成果

県内の5箇所において、子どもを含めた地域住民約302名が参加し、記念植樹や植樹祭・交流会等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月1日～3月20日	計
作業内容		県内5箇所での記念の森を造成、植樹、森林整備等実施	
参加者数	県内	302人	302人
	県外	0人	0人
	計	302人	302人
実施場所		山口県 山口市、防府市、宇部市、下関市、萩市	

企業の森づくり普及啓発イベント事業（C-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

高い環境意識を持って地球温暖化防止等に貢献される企業・団体の皆様から「緑の募金(使途限定募金)」を寄附していただき、森林整備を実施している。これまでに支援いただいた企業・団体の皆様や森づくりを実施する地元の方との交流と親睦を図る植樹イベントを行い、森林整備の重要性を認識していただき、県民総ぐるみの森づくり活動を定着させることを目的とする。

2. 活動の成果

県西部において、森づくり活動・木工クラフト・西日本豪雨災害報告などを実施。

木工クラフトでは、木の実や切り株など森の資源を活かした小物作りを行い、参加者が自然に親しむきっかけとなった。

また、西日本豪雨災害報告では、森づくり活動を実施した三好市の被害状況から土砂災害の傾向と対策を分析し、災害に強い森づくりに向けた取り組みが紹介された。また、防災クイズを行い、子供から大人までの幅広い年齢層の参加者が、楽しみながら防災について学んだ。

3. 参加者の声

- ・青空の下で友人と植樹することができ、森を守る活動に参加できてうれしかった。
- ・西日本豪雨の災害報告会に参加し、災害を身近に感じ、防災のためにも森づくりが重要だと実感した。
- ・木工クラフト体験で、どんぐりを使った小物入れを作り、子供たちもとても喜んでた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月3日	計
事業量 又は 事業内容		植栽1.23ha 2,460本 (ヒノキ・イタヤカエデ・ヤマザクラ・モミジ)	1.23ha 2,460本
	県内 県外 計	187人 14人 201人	187人 14人 201人
実施場所		徳島県三好市池田町馬路寺道	

緑化普及活動事業（A-99）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 目的

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

(2) 内容

- ① どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ② 香川県の水源である早明浦ダムの上流にある高知県大川村での「交流の森づくり下草刈りツアー」は、台風のため未実施だったが、水源地における森林の大切さへの普及啓発に努めた。
- ③ 2018ウッドフェスティバル会場において、森林ボランティア活動の屋外テントを出店した。

2. 活動の成果

多くの県民の参加を得て、県民の森づくりへの理解と関心を深めることができた。今後とも、県民参加の緑づくりを推進するため、県民にみどりづくりの普及啓発を行うほか、森づくりや森に親しむ体験の場を提供して行きたい。

3. 参加者の声

- ①（どんぐり預金、苗木の払い戻し）
 - ・自分の記念植樹として、早く大きくなるように大切に育てたい。
- ②（ウッドフェスティバル）
 - ・森林の働きや緑の大切さ、植林の重要性がよく分かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月6日・7日	年間	計
事業量	2018ウッドフェスティバル	どんぐり銀行活動	
参加者数	150人	2,550人	2,700人
実施場所	香川県内一円		

木工作品製作キット配布事業（A-100）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

木材の利活用を促進するため、次代を担う小中学生を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製した本立てのキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

2. 活動の成果

県産材ということで、木が身近に感じられ、木材になるまでの過程や林業に携わっている人々の思いや苦勞を想像し、実感してもらうことができた。

森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、自分たちができることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・県産の材木ということで愛着をもって作成することができた。
- ・木はとてもいいにおいがしてすべすべしていて、あたたかみを感じました。電動のこぎりを使って少しアレンジを加えたりしてとても貴重な体験ができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月配布 7月～製作	計
事業量	5,838セット	5,838セット
参加者数	5,838人	5,838人
実施場所	愛媛県内の小中学校	

愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業（A-101）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

県民に森林・林業についての知識を向上させ、理解を深める。

【内容】

- ・愛媛県植樹祭(平成30年5月12日)の案内状送付
 - ・久万高原町面河渓谷森林散策の実施(平成30年11月11日)
- 愛媛森林管理署の協力を得るとともに、「えひめ山の日の集い」併催行事と併せての森林散策を行った。

2. 活動の成果

「愛媛県植樹祭」及び「えひめ山の日」の周知に寄与するとともに、森林を散策することで、森林が生み出す綺麗な空気、川、水を体感し、森林の良さを身体全体で実感してもらうことができた。そして、この森林を保全することの必要性を理解してもらうことができた。

今後も、森林と触れあう活動を通して、森林保全、森林資源の活用について、広く一般県民に普及啓発していきたい。

3. 参加者の声

- ・ガイド付きの森林散策で、美しい紅葉や景色を楽しむことができた。
- ・樹木の解説などをしていただいて、知識を深めることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月6日	11月11日	計
事業量	1回	1回	2回
参加者数	-	50人	50人
実施場所		上浮穴郡久万高原町	

土佐の名所の樹木活性化事業（A-102）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の魅力や森林の持つ機能等を伝え、自然の良さや森林を守り育てることの必要性を啓発する学習や自然体験イベントを実施した。

小学生を対象とした植樹体験では、事前学習として森林の持つ多面的機能を伝え、農林漁業の観点から「山・川・海」のつながりについて学んだ。その後、広葉樹を植樹し、樹木を守り育てることを体感した。

親子対象の自然体験イベントでは、これまで緑の募金で整備した「ふるさと再生の森」をフィールドとして、森の散策や木工体験、しいたけの駒うち体験等を行った。

2. 活動の成果

活動には、樹木の保護・育成について学ぶ「樹木医セミナー」の修了者も参加しており、セミナーで得た知識や技術の実践の場となった。また、継続して手入れができるように、地元住民と一緒に作業を行った。これにより、県内で樹木の保護・育成を行うことができる人材を育成できた。

また、子どもたちと一緒に植樹活動を行ったことで、次代への樹木の保護・育成の必要性を伝える機会となった。

3. 参加者の声

- ・地元にもテングス病の桜がたくさんあるので、それらの手入れをするためにも大変勉強になった。
- ・たくさんのボランティアの方に作業をしてもらって、桜がとてもきれいになった。
- ・10年前に植樹した桜が育っている状況を確認できて良かった。テングス病は新たに発生している枝もたくさんあったので、来年度以降の活動で取り組みたい。
- ・初めて植樹したが楽しかった。また参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月22日	11月24日	12月5日	12月18日	1月12日
事業量	国指定天然記念物ヒロハチシャノキの支柱建て替え作業	モミジの植樹活動	樺の木の移植作業および卒業記念植樹	桜のテングス病治療	わんぱく学校（モミジの植樹活動・木工体験等）
参加者数	7人	51人	65人	5人	24人
実施場所	四万十町	四万十町	四万十町	四万十町	四万十町
実施時期	2月19日	1月20日	2月17日	3月24日	計
事業量	町指定天然記念物のコナラの枝の処置	桜のテングス病治療	桜のテングス病治療	植樹および桜の治療場所の現地検討会	
参加者数	5人	31人	35人	23人	のべ246人
実施場所	四万十町	土佐町	高知市	高知市・中土佐町	

森のようちえん推進事業（A-103）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の魅力や森林の持つ機能等を伝え、自然の良さや森林を守り育てることの必要性を啓発する学習や自然体験イベントを実施した。

小学生を対象とした植樹体験では、事前学習として森林の持つ多面的機能を伝え、農林漁業の観点から「山・川・海」のつながりについて学んだ。その後、広葉樹を植樹し、樹木を守り育てることを体感した。

親子対象の自然体験イベントでは、これまで緑の募金で整備した「ふるさと再生の森」をフィールドとして、森の散策や木工体験、しいたけの駒うち体験等を行った。

2. 活動の成果

自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、少し整備をすることで自然を活かしつつ安心して遊べる森になっている。地元住民や大学生等がスタッフとして参加し、過保護にならない見守りをしているので、参加者からは安心して遊べると喜ばれている。新しい参加者がいる一方、リピーターも多く来ており、事業への関心が高まっている。行政の関心も高く、アジロ自然の森での活動が、高知県林業振興・環境部の発行する情報誌「もりりん」に掲載され、県下の全小中学校等に配布された。ターゲットとなる層への周知ができたので、今後更なる広がりが期待できる。

3. 参加者の声

- ・椎茸の駒うち体験や木工体験ができてよかった。
- ・普段食べない山菜を子どもたちが食べていた。自然を味わう体験ができてよかった。
- ・2歳の子どもが元気に山に登る姿を見て、うれしく感じた。
- ・スタッフの方が良く目配りしてくれるので安心できる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月22日	11月18日	3月17日	計
事業量	フィールドの整備	アジロ山を綺麗にしよう＆綺麗になった森で遊ぼう	遊ぼうアジロ山まるごと自然体験	春の息吹を探そう	
参加者数	のべ85人	42人	190人	114人	のべ431人
実施場所	高知市				

森の魅力普及啓発事業（A-104）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の魅力や森林の持つ機能等を伝え、自然の良さや森林を守り育てることの必要性を啓発する学習や自然体験イベントを実施した。

小学生を対象とした植樹体験では、事前学習として森林の持つ多面的機能を伝え、農林漁業の観点から「山・川・海」のつながりについて学んだ。その後、広葉樹を植樹し、樹木を守り育てることを体感した。

親子対象の自然体験イベントでは、これまで緑の募金で整備した「ふるさと再生の森」をフィールドとして、森の散策や木工体験、しいたけの駒うち体験等を行った。

2. 活動の成果

小学生を対象とした植樹体験では、農林漁業分野と教育分野が連携した事業を行うことができ、子どもたちに林業と農業・漁業とのつながりを通して、森林が生活に欠かせないものであることを伝えることができた。

親子対象の自然体験イベントでは、日頃山に行ったことのない親子に自然体験の機会を提供できた。間伐材を使った体験を行い、地元資源の有効活用や森林の持つ機能等についても伝えることができた。

3. 参加者の声

- ・宿毛湾には数多くの種類のサンゴやナマコが生息していることを知りました。
- ・植樹することで山に水が蓄えられ、海に出ていくまでにきれいになっていくので、植樹の大切さがわかりました。
- ・近くに山があるが遊びに行ったことがなかった。楽しかったので、また参加したい。
- ・しいたけの収穫が楽しみ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月4日	1月19日	1月26日	2月10日
事業量	農林漁業の学習と植樹体験	森のようちえんでみんなで遊ぼう！	森のようちえんでみんなで遊ぼう！	森のようちえんでみんなで遊ぼう！
参加者数	58人	10人	22人	17人
実施場所	宿毛市	土佐町	土佐町	土佐町
実施時期	2月17日	3月3日	3月10日	計
事業量	森のようちえんでみんなで遊ぼう！	森のようちえんでみんなで遊ぼう！	森のようちえんでみんなで遊ぼう！	
参加者数	16人	31人	15人	169人
実施場所	土佐町	土佐町	土佐町	

高知森林インストラクター養成講座（A-105）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の魅力や森林の持つ機能等を伝え、自然の良さや森林を守り育てることの必要性を啓発する学習や自然体験イベントを実施した。

小学生を対象とした植樹体験では、事前学習として森林の持つ多面的機能を伝え、農林漁業の観点から「山・川・海」のつながりについて学んだ。その後、広葉樹を植樹し、樹木を守り育てることを体感した。

親子対象の自然体験イベントでは、これまで緑の募金で整備した「ふるさと再生の森」をフィールドとして、森の散策や木工体験、しいたけの駒うち体験等を行った。

2. 活動の成果

過去継続2回以上の受講生についてはスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図るとともに、別途バスツアーや樹木観察教室を開催する等した結果、過去の受講生から3名の森林インストラクターを誕生させることができた。このように、森林・林業分野における指導者の育成が着々とすすんでいる。また、受講者が、今後森林ボランティア等として普及啓発していくことが期待できる。

高知県森林インストラクター会の会員が、情報収集や講師を務めるなど、団体の資質向上にもつながっている。

3. 参加者の声

- ・森林や林業の奥深さを実感することができた。
- ・講座で学んだことをベースに、今後技術力を向上させていきたい。
- ・多くの知識と経験が役に立つということを、身を持って感じる事ができた。
- ・野外活動、ロープワーク、救護法は、日常生活の中での危機管理や防災に役立つ。
- ・講座を通じて森への視野が広がるとともに、興味の幅も広がった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	計
事業量	森林インストラクター養成講座 (全8回)	
参加者数	22人	22人
実施場所	高知市、香美市、大豊町	

地域の森林整備事業（C-53）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のボランティア団体や地域住民により、緑の募金等で植樹が行われた場所の草刈り等を行い、憩いの場の維持管理や景観整備を行った。

2. 活動の成果

緑の募金で植樹した場所は、公園など近隣住民の憩いの場となっており、維持管理をすることで地域の活性化に貢献できた。また、鏡吉原ふれあいの森は、植樹後の定期的な草刈りにより樹木が順調に成長している。成長した桜や紅葉がこの地域の景観を良くしている。

3. 参加者の声

- ・継続的に手入れをしているので、樹木が順調に成長している。
- ・年々、桜や紅葉を楽しめるようになってきた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日	7月・9月	11月23日	8月	計
事業量	約0.4haの 草刈り作業 アジロ自然の森	約0.3haの草刈り・ つるきり、 剪定作業 清水農村公園	約0.4haの 草刈り作業 鏡吉原ふれあいの 森	約0.7haの草刈り、 根本整理、つるき り、倒木処理等 ほどのウェディン グの森	
参加者数	4人	のべ5人	8人	のべ4人	のべ21人
実施場所	高知市	いの町	高知市	いの町	

活動基盤整備推進事業（C-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

高知県内で森や緑と水に関わって活動する団体について、団体や会員、個人が連携するネットワークによる日常的な活動の場を広げていくために、地域ごとに組織化を図ることを目的として、高知県内4つの緑と水の会（幡多、須崎、高知、嶺北）の活動を持続できる基盤整備として事務費の助成を行った。

2. 活動の成果

地域の森林整備や緑化推進に関する啓発活動を行っている団体を支援することで、ボランティア活動を継続することができる。これにより、一般県民に森林にふれる機会を提供でき、森林の持つ機能や大切さについての普及啓発ができる。

3. 参加者の声

- ・インクや切手等を購入できたので、会員に事務連絡が多くでき、活動の範囲を広げることができた。
- ・総会開催にともなう通信費、事務用品にあてることで会費を節約でき、新たな事業を設けることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	計
事業量		
参加者数	4団体	4団体
実施場所	高知市、須崎市、四万十市、土佐町	

ウッドフェスタ2018福岡 事業（A-106）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 木材と直接ふれあうことによって、木材の良さや木材を使うことの大切さを広く県民に理解してもらうことを目的としている。
- * 木工教室（背付きイス 100セット、背無しイス 150セット、本立て・小物入れ 各75セット、ティッシュケース 100セット）
 - * VR伐採体験、丸太切り
 - * 木工工作コンクール表彰式及び作品展示 等

2. 活動の成果

多数の親子連れで賑わい、木工教室や木育広場の遊具では子どもが楽しそうだった、木の良さを感じることができた、また参加したい、と大変好評であった。

材料は無料で提供し、併せて緑の募金への協力を依頼したところ、皆快く募金に応じてくれた。

今後も、いろいろな活動を通して木材の素晴らしさや、木を使うことの意義を多くの人々に普及啓発しなければならないと実感した。

3. 参加者の声

- ・木に触れる貴重な機会ができて良かったです。
- ・とても楽しかったです。また機会があれば参加したいと思います。
- ・イス作りが楽しかったです。
- ・はじめて参加しました。楽しく自然とふれあうことができました。
- ・樹木観察会で、貴重な話を聞いてラッキーでした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年10月8日	計
事業量	100%	
参加者数	7,382人	7,382人
実施場所	福岡県福岡市中央区小笹 福岡市植物園	

森林ふれあい交流事業（A-107）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 親子木工教室・・・木製品を利用することで間接的に自然とのふれあいを親子間で感じながら物を組み立てていく共同作業を通じて親子の絆を深めていきます。
- 写真展・・・「福岡の自然と四王寺山にかかわるもの」と題して、一般の方々から作品を募集することにより、その題目に対しての認識を深められ、また、それらの作品を展示公開することにより、見学される方々にも同様な認識を広げてゆきます。

2. 活動の成果

- 親子木工教室・・・さわやかな秋晴れの天候に恵まれ、多くの親子がいっしょに笑顔で作業を楽しみ、自然の木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてもらえたと思います。
- 写真展・・・鳥、昆虫、植物など森林の生息する生き物たちや、朝焼けなど自然の織り成す様々な風景に感動して、森林や自然環境を守り育てる心が醸成できたと思います。森林のひみつ等のパンフレットも喜んで持って帰っていました。

3. 参加者の声

- ・木工教室・・・親子で、いっしょに金槌やプラスドライバーを使って木工キットを組み立てたり、丸くくり抜いた間伐材を使いサンドペーパーやオイル・ニスなどでプレスレットを作ったりしてたのしかったです。
- ・写真展・・・四王寺の野鳥や季節ごとの葉の色づき、身近に可愛い昆虫がいることにおどろきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月3日	11月11日～12月9日	計	備考
事業量	50%	50%	100%	11/3：親子木工教室
参加者数	105人	1,000人	1,105人	11/11～12/9：写真展
実施場所	福岡県糟屋郡宇美町大字四王寺（福岡県立四王寺県民の森）			

グリーンフェスティバル2019 (A-108)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民が直に緑に接し、森林を観察し、木材に触れることを通じて身近な緑環境や森林の機能を実感し、緑の保全の重要性・必要性について理解を深めてもらうことにより、地球温暖化防止機能を始めとする森林の公益的機能に対する認識と緑と水の豊かな郷土づくりの普及啓発を図ることを目的として開催した。

緑に触れる機会を増やすため、子どもを対象にした樹木探偵団、ハンギングバスケットコンテストなど、また椅子、小物入れなどの製作による木工体験を通じて樹木や木材の素晴らしさを体感してもらった。

生産者が直接販売する軽トラ植木市や販売された苗木を利用した寄せ植え作りおよび香りのワークショップを新たに企画し、緑化木としてだけでなく新たな緑の利用法についても普及開発を行った。

その他にも親子丸太切り競争、チェーンソーアート、スケッチ会、モデル庭園展示、ふれあい動物園、積み木コーナー、落書きボードコーナー、植物観察会、緑の相談コーナーなどを実施した。

2. 活動の成果

開催開始時は弱い雨に見舞われたにもかかわらず、多くの人手で賑わった。

子どもを対象とした樹木探偵団では多数の参加者があり大変好評であった。また、親子丸太切り競争では、募集開始後すぐに定員に達し、木工体験では用意したキット全て無くなるなど盛況であった。なお、ハンギングバスケットコンテストは23点の応募があり、展示も華やかで多くの鑑賞者が見られた。

参加者に緑への関与を自覚してもらうため、花苗の無償配布を取りやめ、募金方式としたところ、緑の募金の募金額が昨年と比較して2.5倍となり、緑への関心を高めることができた。

新企画の軽トラ植木市や寄せ植え作りでは、生産者と購入者が木の特徴や植栽・管理方法について直接対話する機会となり、生産者、購入者ともに好評であった。また、香りのワークショップでも、切口を変えた利用法を参加者に提示することで、さらなる緑への関心をアピールできた。

チェーンソーアート、スケッチ会、ふれあい動物園、積み木コーナーなど終日賑わった。

多くの参加者に、森林・緑・水の大切さを伝え、体感してもらい、理解してもらえることができる好適な催しであるため、今後も、活動目的に沿って続けていく必要がある。

3. 参加者の声

- ・丸太切り競争は疲れたがおもしろかった。また参加したい。(小学生低学年丸太切り競争参加者)
- ・木工体験など子どもと一緒に遊べるイベントがあり良かった。また来たい。(大人女性木工体験)
- ・募金額は少ないが、募金したことで自分も緑化へ関心を持つ必要を感じた。(緑の募金者)
- ・軽トラ植木市は生産者から直接説明を聞いて、庭に楽しみが増えました。(苗木購入者)
- ・香りのワークショップの石けん作りは、幼稚園の弟と楽しめて良かった。(小学校低学年)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年 5月19日(日)	計
事業量	100%	
参加者数	10,000人	10,000人
実施場所	福岡県久留米市田主丸町益生田 (福岡県緑化センター)	

第28回世界子ども愛樹祭コンクール (A-110)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

近年、植栽による針葉樹林の嵐かと放置・広葉樹林の減少などによる各地で豪雨による被害の拡大。海外においても森林伐採、海岸埋め立て、工場廃棄物による自然破壊、汚染の進行により、地球温暖化、異常気象の引き金となっている。本会はこのような事態を予期し、森との共生によりこころ豊かな人間性を育み緑豊かな自然環境づくりを訴え、平成3年より「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画・実施してきた。環境的・教育的見地から応募が相次ぎ、27回までに世界24カ国国内46都道府県より絵画49,710点(海外7,446点)、詩・作文18,395点、木はがき8,751点作品累計76,856点、27回の受賞者記念植樹は300本を超えるなど多大な成果を見ている。28回コンクールは更なる環境保全・緑化推進を目指して子ども達への啓発を進め、悪化する地球環境への警鐘としたい。

2. 活動の成果

国内は元より、海外からの多数の作品応募があり、国内外問わず、自然環境の大切さに、人類は感心を持っているという事への安堵感が再確認出来た。まだまだ、微力ながら、未来の地球を次世代へのこすために、これからも活動していきたいし、意味がある事業だということが分かった。

3. 参加者の声

遠方は、群馬県より受賞者の参加があり、予想を上回る授賞式典に大変感動されており、次回も賞を励みに応募されるとの嬉しい言葉を頂いた。

年齢関係なく参加出来る事へ感心の声が多数みうけられた。

地域の方からは、永年の活動へのねぎらいの言葉や、協力、参加したいとの声があった。皆様のお言葉を励みに30回を目指していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月24日	1月15日	3月24日	3月24日	計
事業量	35人	10人	280人	70人	295人
参加者数	32人	7人	250人	70人	289人
実施場所	福岡県八女市	東京都千代田区	福岡県八女市	福岡県八女市	

里まちサイクルプロジェクト（C-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 「目的」 未来の子ども達に豊かな自然環境を引き継ぐために、森林資源の整備を行う。又、青少年が森林を身近なものに感じるためには、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行い、次世代のリーダー育成のための普及啓発事業を行う。また、多くの方々に森林の現状を理解し、森林資源の整備等の必要性を理解してもらうためにも普及啓発事業を行う。
- 「内容」 ①里山の保全活動を行う。竹林の整備により発生した竹材を竹粉砕機を使って有効活用する。粉砕した竹「チップ」を、市民農園や老人農園等で使った結果、良い効果を得ている。『循環』『再生』を行うことができた。
- ②竹林を活用した環境教育等を通して、守り育てる必要性の学習。竹を使って竹細工作り、竹パンを焼こう。杉の間伐材を切る体験等の自然体験学習、その他、竹を生かした遊び道具、筍掘り体験等。
- ③森の迷惑物のカズラを取って、木の実等を使って(クリスマスリース作り)を行った。その結果、まち(都会)の方々からとても喜んでいただけ、年々リピーターが増えてきています。又古い竹を使って「ミニ門松づくり」の体験学習では、非常に評価を得ています。
- ④森林(竹)の再利用として、ミニ門松づくりを多くの一般市民に(都会)紹介。特に③④は好評を頂いている。

2. 活動の成果

- 整備活動を通して、竹を循環・再生の商品として、活用することができ、竹の思わぬ利用に好評を得ることができました。また、自然環境学習の開催で、年々参加者が増え、多くの方々に里山を身近に感じてもらうことができ、森林の大切さ、守っていかねばならない点を理解していただいた。
- 今後の取り組みとしては、竹の循環・再生を整備を通して行っていきたい。又、より多くの方々に森林の現状、里山の現状を知っていただき緑地の再生、修復に理解と協力を得るために、体験型学習を今後も開催していきたいと考えています。

3. 参加者の声

- 自然に触れることが少なくなっている子供たちに、有意義な機会を与えてくれて嬉しい。
- 自然体験に来年も参加したいです。
- 竹でパンを焼き、丸太を切ったり、ロープ遊びなど初めてしたので感激です。
- 竹を使ってミニ門松ができたので正月が楽しみです。
- 生のカズラでリースができて木の実もいろいろな種類があって山を見る目が変わって楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量			
緑化維持活動	7月26日～H31.2月21日	62人	10回
自然環境学習会	7月28日～H31.4月13日	296人	8回
竹の再利用	12月21日～12月24日	92人	4回
参加者数		450名	22回
実施場所	福岡県 福岡市早良区・西区・城南区・中央区 福岡県 糸島市		

よかウッドフェスタ（A-111）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑を県民みんなの財産として社会全体で守り育て、次の世代に引き継いでいくという意識の醸成を図るため、緑の募金寄付者の表彰、森の名手・名人認定証伝達式、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技の表彰並びに作品の展示、優良丸太展示品評会の表彰を行うとともに、ふれあい広場において併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ① プレイベント：イベント開催に先立ち、9時30分から和太鼓・葉隠による和太鼓演奏を開始
- ② 式典：緑の募金高額寄付者への理事長感謝状、森の名手名人への認定証伝達表彰、県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技及びさがが優良丸太展示品評会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ③ 併催イベント：木工工作、木の実工作、かんな削り・かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、棟上実演・もち投げ、魚のタッチプール、親子で森川海をひとつに競争、シシ肉とのりパン無料配布、チェンソーアートやfumikaトーク&ミニライブなど多彩な催しを行った。

2. 活動の成果

緑化や木材に関する表彰を実施することにより緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらった。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「木の良さが改めてわかり、香りで癒され、いろいろ体験できよかった」、「天然の木をもっと使用して環境の良い日本へ」、「佐賀の木材利用増加のために良いフェスタだと思う」、「とても良いイベント、佐賀の森林・林業を盛り上げていただければと思います」、「子供が自然に触れあえる機会になって、とても良かった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月4日（日）	計
事業量	・緑の募金寄付者、木工工作コンクール等の表彰 ・木工工作体験など各種イベント実施	
参加者数	約1,200人	約1,200人
実施場所	佐賀市天神 どん ³ の森広場及び佐賀県女性と生涯学習センター	

ふれあいの森フェスタ（A-112）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に森とのふれあいを通して、森・川・海が暮らしに様々な恩恵を与え、重要な役割を果たしていることへの理解を深めてもらい、森・川・海に対する県民意識の醸成を図るため、21世紀県民の森を会場に佐賀県森林整備課との共催により、一般県民や緑の少年団の森づくり活動として広葉樹の植栽を行った。

また、会場内に「ふれあいエリア」及び「イベントエリア」を設けて、森川海の工作・講演会・パネル展示や森川海クイズ大会などのイベントを行った。

〔事業の実施内容〕

- ① 森林づくり活動
さがの樹植樹活動として、午前にはヤブツバキ100本とコブシ100本を森づくりエリアB（ふるさと記念の森内）に、午後にはクスギ150本を森づくりエリア（木工芸センター入口付近）に一般県民及び緑の少年団延べ80名で行った。
- ② ふれあいエリア
森林学習展示館において、森・川・海のパネル展示、森川海の素材を使った工作や積木コーナーの催しを行った。
- ③ イベントエリア
総合案内センター広場において、森川海の講演会・クイズ大会、動物ふれあいコーナー、森の水族館、ヤマメのつかみ取り、さがの樹プレゼントやお楽しみ抽選会などの催しを行った。
また、天皇陛下ご下賜金記念植樹として、ヤマザクラ1本と福岡県から寄贈された東日本大震災復興支援への感謝苗木2本（三春滝ザクラ、はるか）の記念植樹を実施した。

2. 活動の成果

緑森づくり活動、森川海に関する講演会や様々なイベントを体験することにより、森・川・海はひとつの認識を深めてもらうとともに、森・川・海が一体となった整備・保全や維持管理が重要であるとの意識の醸成を図ることができた。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「子供が楽しめる、自然の中で過ごせる、動物とふれあえる」、「植樹活動が楽しかった、また来たい」、「子供はヤマメなど触る機会がないのでよかった」、「子供も大人も一緒に楽しめた」、「ヒヨコとかにごはんあげられてよかった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月28日	計
事業量	・森林づくり活動（ヤブツバキ・コブシ・クスギ350本植樹） ・森川海の素材を使った工作などの体験活動 ・森川海の講演会、森川海に関するイベント ・記念植樹（天皇陛下ご下賜金苗木など3本）	
参加者数	437人	437人
実施場所	佐賀市富士町 佐賀県立21世紀県民の森	

緑の探検学習会（C-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、夏休みの期間に野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらい、自然の中で少年団活動発表会や団員の交流会を盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午 前

- ① 県内緑の少年団及び指導者が参加し、各地区代表の4団が体験活動を発表
- ② 講演「自然災害に備える」講師:佐賀地方気象台 水害対策気象官 高平憲一氏

午 後

- ① 葉っぱウォークラリー
会場周辺の神水川中原公園内の森において、葉っぱのシルエットを記載した問題用紙を配布し、公園森内を回り実物を探し問題を解く葉っぱウォークラリーを行った。
- ② 福を呼ぶスプーンづくり
「福を呼ぶスプーンづくり」として、南天(なんてん)の枝、無患子(むくろじ)の実を材料に、各々オリジナルスプーンづくりを行った。
- ③ 活動発表大会の表彰式及び閉会式

2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた。

また、樹木の葉っぱの特徴や違いを学習するとともに、福を呼ぶスプーンづくり体験を行うことにより樹木が身近に感じる事が出来た。また、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

3. 参加者の声

アンケートによると、子供たちは、自然は楽しいこともあれば危ないこともあることが分かった、自然災害への備えや積乱雲の怖さが学べた。など、自然災害への怖さや対応方法に関する感想が多かった。

また、指導者も、自然災害に関し親から教わっていたことを子の伝えてなかった、急な天気変化に以下に対応するか勉強になったなど自然災害に関する感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	計
事業量	・少年団活動発表4団 ・講演「自然災害に備える」 ・葉っぱウォークラリー ・福を呼ぶスプーンづくり	
参加者数	215人（少年団員・指導者等197人、スタッフ18人）	215人
実施場所	佐賀市北山コミュニティセンター・佐賀市富士町神水川中央公園	

森林のつどい事業（A-113）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県民の森開園50周年の節目に、県民が森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「もりフェスタ」を開催し、記念式典や記念植樹、また、会場では森の音楽祭の演奏、森林ウォーキング、木工体験、森の遊園地や木工品や林産物の販売を行った。
- ・小学校高学年を対象に募集を募り、開催したタラッキーキャンプ木育編では間伐体験や「森のはたらき」を学び、2日目は製材工場の見学や丸太のコウスター作りを行った。

2. 活動の成果

- ・「もりフェスタ」では、日頃森林と触れ合う機会が少ない中で森林を再認識する機会が出来た。
- ・タラッキーキャンプ木育編では、次代を担う児童たちが森林のはたらきや、丸太から製材になる過程を見学出来て貴重な体験が出来た。児童や生徒の森林に対する関心を高めるためにも、今後も継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・「もりフェスタ」の来園者からは、毎年このイベントを開催してほしいという声が聞かれた。
- ・森林ウォーキングを通して、他の来園者との交流を持つことが出来て、よい機会となったという声が聞かれた。
- ・タラッキーキャンプ木育編では、木のことを学べて良かった。丸太から製材になる過程を見学出来て良かった。などの意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月3～4日	11月25日	計
事業量	タラッキーキャンプ木育編 ～森のはたらきを知り、丸太から木材 になるまでを学ぼう～	県民の森であそぼう「もりフェスタ」(県 民の森開園50周年記念行事)	
参加者数	29人	3,483人	約3,500人
実施場所	諫早市	長崎市	

緑の少年団活動活性化事業（C-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心を養い、協調性と豊かな心を養うために「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、地域交流集会、全県交流集会及び指導者研修を開催した。

6月の環境月間に、緑の少年団による地域の公共施設等に花苗の植栽を実施した。

2. 活動の成果

- ・地域での花苗の植栽、清掃活動等の野外活動をつうじて、自然の大切さや地域の環境を守るものの大切さを学ぶことが出来た。
- ・地域交流集会や全県交流集会では、それぞれの少年団の活動発表を行うとともに、森林学習では「森林・木材について知ろう、考えよう」というテーマで森林の役割や木材の性質について学習し、森林の役割を再認識出来た。
- ・指導者研修では長崎SN協会(シェアリングネイチャー協会)の講師により、「夜の森」を様々な感覚で体感し、貴重な体験が出来た。

3. 参加者の声

- ・木材が色々なものに使われているのを知ることが出来た。実験で木材の性質をより知ることが出来て良かった。
- ・活動発表会では、他団の活動内容を知ることが出来て参考となった。
- ・指導者研修の講義は緑の少年団活動と共通するところがあり、今後の活動の参考となった。
- ・指導者研修では、夜の森の散策で貴重な体験が出来た。夜の森を歩くのは初体験で非常に良かった。今後、子供達にも体験させたいとの意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月18日 ～11月25日	12月8～9日	6月1日 ～6月30日	計
事業量	地域交流集会 指導者124人 団員 282人	全県交流集会 指導者50人 団員 63人	環境月間花苗植栽 9,266本	
参加者数	16団 395人	11団 113人	23団 689人	937人
実施場所	諫早市ほか4カ所		県下一円	

森林のめぐみいきいき活用促進事業（C-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の利用や林産物の活用を促進するため、県下の林業研究グループが、森林資源の有効活用や林産物の展示・販売や木工体験を実施し、都市の人々との交流をとおして山村の現状や森林・林業に理解を深めてもらうため「森林のめぐみ展示会」を開催。

2. 活動の成果

間伐材を利用した木工製品やシイタケやハラン等の林産物の展示・販売を行うとともに、間伐材での移動式本立てやティッシュボックスの製作をつうじて、間伐材の有効利用、木製品の良さ、森林の恵みの豊かさを都市住民へアピールすることが出来た。

3. 参加者の声

- ・木工製品や林産物の展示・販売では多くの市民が立ち寄っていた。
- ・間伐材の木工体験コーナーでは、多くの子供や親子が参加して本立てやティッシュボックスづくりを楽しんでいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月9日	計
事業量	森林のめぐみ展示会 林研グループ7団体及び諫早農業高校他2団体	
参加者数	45人	45人
実施場所	長崎市	

くまもと森づくり普及・啓発事業（A-114）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社)熊本県緑化推進委員会

共催：(株)熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。
募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本県インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話を聞きながら森を散策した。

また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々の指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	計
事業量		
参加者数	136人	136人
実施場所	熊本市黒髪 立田山いこいの森(多目的広場)	

緑の少年団活動育成事業（C-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然の中で緑を愛し守り育てる活動をはじめ、地域社会での奉仕活動やキャンプ等の野外活動を通して心豊かな人に育つことを目的とした緑の少年団の交流集会を支援する。

2. 活動の成果

県内2ヶ所それぞれの地域の特色を生かしたプログラムによる木及び水とのふれあいや竹細工体験により、地域力の向上が図られたとともに他の少年団員との相互交流が促進された。

3. 参加者の声

川遊びやネイチャーゲームや物づくり体験など日頃は交流のない他の緑の少年団の団員と班編成による共同体験などを通して新たな発見や交わりができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月26日	8月2日	計
事業量			
参加者数	71人	106人	177人
実施場所	熊本県 水俣市	熊本県 阿蘇市	

シンボル森林の活用促進事業 (C-60)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社)熊本県緑化推進委員会

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を書いた総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の設置

八代市泉町梅の木轟公園の森林は、球磨川の最上流域の落葉樹と照葉樹が混在し、吊橋や滝とともに調和のとれた森林で多くの市民や県民に親しまれている。森林を散策する人の利用を促進するため、散策コース案内等も記入した総合案内板を設置した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板W=1,800mm H=900mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

八代市の緑や観光の管理者からは、森林散策のコース等の案内により、梅の木轟公園が分かりやすくなり利用者が増加するのではというような意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～1月	計
事業量	案内板1基設置	案内板1基
参加者数		
実施箇所	熊本県八代市泉町 梅の木轟公園駐車場内	



ふれあい森林教室 (A-115)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の啓発及び森林のもつ多様な機能にふれあう機会の提供を目的に、キャンプ、自然観察等を行う。

内容 7月21日(土)・森林教室(竹工作づくり)・飯ごう炊飯・キャンプファイヤー

7月22日(日)・森の自然観察会・竹工作でつくったお椀とお箸を使ってのそうめん流し

2. 活動の成果

森林教室の竹工作づくりでは小さい子どもでも作業が出来る様に1年生のマタケを使用しました。そのため子どももナイフ、ノコを使って作業が出来ました。また、竹を使った水鉄砲作りも併せて行いました。飯ごう炊飯では火の着け方を親子間、家族間で試行錯誤しながら行われていました。キャンプファイヤーでは、指導者のもと親子・グループ間を超えて楽しさを共有出来ました。

森林教室と自然観察会では、人と自然の関わりを交えながら指導員が指導・説明を行い、そうめん流しでは、自ら作製したお椀とお箸で食し、森林・林業に対する理解・関心が高まったと思われます。

3. 参加者の声

- ・竹細工では、刃物の使い方を学び親子共々勉強になった。
- ・飯盒炊飯では日常で火を扱う機会がないので楽しかった。
- ・自然観察で、植物の仕組み、季節の花や木々、昆虫などについて観察することが出来、楽しかったです。
- ・自然を守ることの大切さを学びました。 など

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日～22日	計
事業量	森林教室 自然観察会 野外炊飯	
参加者数	109人	109人
実施場所	大分市大字高原 平成森林公園キャンプ場	

大分県農林水産祭(第40回 木と暮らしのフェア)(A-116)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材のふれあいの場を広く県民に提供し、木材に対する理解を深め、さらに県産材を中心とした需要を喚起し、県内の森林林業・木材産業の活力を高めることを目的に平成30年度農林水産祭(第41回木と暮らしのフェア)を開催。

木とのふれあい部門において、木製品製作体験・展示を実施。

また木製品・林産物の販売ゾーンにおいて、木製品・林産物等の展示・販売、林業・緑化相談、緑化木無償配布等を実施。

2. 活動の成果

木とのふれあいゾーンや木製品製作体験などを通じて多くの参加者に対し、森林・林業・木材に対する理解を深めてもらうことにより、木材の利用や森林の大切さについて普及啓発を図ることができた。

これからもイベント・出店内容、駐車場を含めたアクセス、雨天対策、休憩場所等への要望をできるだけ反映し、秋の大分県の大きなイベントとして定着している当フェアをさらに充実させていきたい。

3. 参加者の声

- ・木にたくさん触れられてたのしかった。
- ・子どもが積み木など体験コーナーで楽しく遊んでいた。
- ・毎年楽しみにしています。
- ・森のアンケートが勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	10月14日	計
事業量			
参加者数	33,000人	37,000人	70,000人
実施場所	大分県別府市 別府公園		

大分県みどりの少年団のつどい（A-117）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う少年少女に緑化思想の普及と定着を図るため、県下のみどりの少年団が一堂に会し、森に学ぶことによって相互の親睦と少年団活動の助長を図る。活動内容として、今回少年団員の交通事故防止など安全安心に参加できる環境を整えるため貸切バスによる送迎を行った。また、日頃経験できない野外活動を始め、自然観察指導員による緑と森の自然観察会を行い、自然とのふれあいを通じて森林林業への関心を高めた。

内容 8月2日（木）・飯ごう炊飯・キャンプファイヤー

8月3日（金）・自然観察指導員による、緑と森の自然観察会

2. 活動の成果

貸切バスによる送迎を行うことにより、少年団員が安全安心に活動を行うことができた。また、県下の少年団員と活動することで他団体との交流ができ、親睦が深まった。2日目の自然観察会は、指導員の方から植物の仕組みや昆虫について教えていただき、より森林の働きに関心が高まった。

3. 参加者の声

- ・色々な種類の植物や昆虫を観察することができて楽しかった。
- ・活動を通じて、他の団員と友達になった。また、来年も参加したい。
- ・バスに乗って、みんなで参加することができてよかった。

など。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日～3日	計
事業量	野外炊飯 自然観察会 野外炊飯	
参加者数	168人	168人
実施場所	大分市大字高原 平成森林公園キャンプ場	

名木保全事業（B-3）

事業の概要

1. 事業の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について保育、保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

内容：①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた

②実施時期 平成31年1月～平成31年3月

③実施場所 大分県一円（今回は津久見市、由布市）

④事業内容 樹勢等の健康度等を基に治療をおこなった。

2. 事業の成果

- ①調査木 タブノキ、トチノキ
- ②診断結果 別紙にまとめた。

3. 考察

過去の剪定・折損箇所及び傷等を処置せず放置していた所より腐朽が進み、幹の空洞化、樹皮の欠落など生育に大きな影響を及ぼし、樹勢が衰弱している。腐朽に対する樹体抵抗度又は腐朽進行度は、樹種、樹勢等により異なるが、土壌・根系障害などがこれに併発している場合が多いので、腐朽部の治療と土壌改良を一緒に実施することが望ましい。

森林ボランティアリーダー養成研修（C-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

2. 活動の成果

山村所有者と協定を交わしたフィールドを使い、本年度は、昨年に引き続き竹の除伐作業・支障木の伐採・歩道の整備等を行った。また、実践の場として大分県の主催する「豊かな国の森づくり大会」（竹田市）において植樹を行うとともに「県民の森」内の裸地に学生たちが自ら考え選定した樹木を植樹した。また学生たちが先輩から継承した知識と今年度習得した事柄について一般公開のイベント等にて発表し、幅広い人々に林業・森林の役割について啓発出来た。

3. 参加者の声

・年々整備していくことで、きれいになっていくのがわかり、森林に対する意識がより高くなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計
事業量	研修8回	
参加者数	160人	160人
実施場所	大分市久土（NBUの森）ほか	

緑と花のふれあい推進事業（A-118）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病害虫防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

2. 活動の成果

受講者は、①緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、みどりへの関心や理解をさらに深めることができた。②生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、みどりに関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。③「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することが「緑の募金」の推進につながっている。

3. 参加者の声

受講者の多くが夫婦での参加のため、出席率が高い。参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加して良かったという方の意見は次のとおりである。①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々と交流ができて楽しい。③家庭において緑化木管理をしている受講者からは、講義の時の質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④街頭募金活動の際、自分たちの育てた緑化木が市民のみなさんに配布されることが嬉しい、⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年4月～平成31年3月	計
事業量	年間を通じて12回計画で11回実施 (30年8月台風襲来のため中止)	11回
参加者数	受講生 80名	のべ716人
実施場所	宮崎県小林市野尻町 宮崎県緑化木養成圃場	

森林浴癒しの集い事業（A-119）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都市住民を中心に広く県民から参加者を公募し、森林セラピー基地に認定された日南市北郷町猪八重溪谷において、森林セラピーに関する学習や散策を行うことにより、森林の持つ癒し効果と森林やみどりへの理解と認識を深めさせ、県民参加による森林・みどりづくりを推進する。

2. 活動の成果

この事業で、宮崎県内にある森林セラピー基地を散策することにより、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどの理解を深めることができた。

参加者からの評判も良く、高齢社会の中では特に、日常生活では味わうことの少ない自然体験を通じ、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことのできる重要な活動であると考えられる。

県内には3ヶ所のセラピー基地があり、今回は県南のセラピー基地で実施したもので、今後とも、広く県民に県内の森林セラピー基地を知っていただくため、継続して取り組みたい。

3. 参加者の声

- ・森林の中で寝転び、心が癒やされリフレッシュできた。
- ・澄み切った川と森林の中の紅葉が最高であった。
- ・森林浴と山歩き（ノルディックウォーキング）が良かった。
- ・セラピー弁当がおいしかった。 ・テラリウムが体験できて良かった。
- ・コケに触れて心が癒やされた。 ・服部植物研究所が見学できて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月27日（火）	計
事業量	森林セラピーの講義 遊歩道の散策 樹木や苔等の植物観察	
参加者数	28人 (スタッフなど3名含む)	28人
実施場所	宮崎県日南市北郷町 森林セラピー基地 猪八重溪谷ほか	

かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-120）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県や関係機関団体との共催で、「みどりの感謝祭」や「九州森林の日活動」「かごしま木材まつり」などの全県的なイベントを開催し、森林整備体験や森林ボランティア団体の協力のもとに木工クラフトや緑の教室、森の散策などの森林環境学習を実施した。
- ・また県内の各支部では、地区植樹祭や木材祭を開催し、地球温暖化対策をはじめとする森林の多面的な役割を理解させると共に、木材に触れて親しむ機会の創出に努めた。

2. 活動の成果

- ・「共生協働」の理念の元、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体と連携して、さまざまな普及啓発イベントを円滑に開催できた。それぞれのイベントでは、森林ボランティア団体が周到な準備の元、体験学習や環境教育に積極的に取り組んでいただき、所期の目的を十分に果たすことができた。今後ともさらに連携を密にし、積極的な普及啓発、情報発信に努めることとした。

3. 参加者の声

- ・普段なかなか森林に入ったり、木材に触れることがないので、新鮮な体験だった。
- ・森林ボランティア団体の皆さん方のご協力により、種々様々、楽しい体験をさせていただいた。
- ・森林散策、海岸林散策に参加した。気持ちの良い空気を感じながら、森林の役割、森林内の植物について多くのことを教えていただいた。森林により親しみが湧くとともに、大事に守り育てていかなければならないと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	30年10月～30年12月	4月27日	計
事業量	・かごしま木材まつり（2,500人） ・九州森林の日植樹祭（463人） ・支部植樹祭（4地区・1,200人）	みどりの感謝祭 ・記念式典 ・森林整備体験 ・緑の教室	
参加者数	4,163人	2,000人	6,163人
実施場所	県内各所（鹿児島市、南さつま市、始良市、霧島市、出水市、肝付町、南種子町）		

かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県や市町村、教育委員会を通じて事業要望を募ったところ、離島を含め4市町から4ヶ所5本の樹勢診断要望があった。（内訳は学校3ヶ所、神社境内1ヶ所）
- ・11月20日付で日本樹木医会鹿児島県支部に調査業務を委託するとともに、同樹木医会と共催で、今後の診断向上のため、高木における被害状況の把握、及び保全処置の手法（ツリークライミング活用）について研修を実施した。
- ・年末には調査が完了し、その診断結果を各申請者に交付した。

2. 活動の成果

- ・当初7～10本程度の申請があるものと想定していたが、4ヶ所（5本）の要望にとどまった。更なるPRに努め、事業の掘り起こしに努めたい。

3. 参加者の声

- ・校内の樹齢100年以上の大切な木の樹勢が弱ってきていたので、保全措置をしていただき、また木が元気に回復していくと思うと嬉しいです。
- ・せっかく懇切丁寧な保全措置をしていただいたので、今後も大切に管理していきます。ご対応感謝いたします。

実績報告とりまとめ表

実施時期	30年11～12月	31年3月16日	計
事業量	・樹勢診断 4ヶ所5本 ・樹勢診断書作成 5件	・ツリークライミングを活用した診断及び保全にかかる研修会	
参加者数	1団体 （日本樹木医会鹿児島県支部）	15人	1団体・15人
実施場所	樹勢診断：出水市、南さつま市、曾於市、徳之島町 研修会：南さつま市金峰町中津野 南方神社境内		

活力のある緑の少年団活動促進事業（C-62）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどりを守り育てる活動を通じて心豊かな人間となれるよう、県内で52団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導の下に活動している。その活動のより一層の活性化を図るため、緑の少年団活動実績大会を開催するとともに、交流集会等開催した。また遠隔地からも参加できるよう交通費助成等を行った。

2. 活動の成果

全県レベルで実施している活動実績発表会や様々なイベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、活動内容も年々充実し多岐にわたってきている。児童生徒の減少、小中学校の統廃合が進むなか、緑化活動を通じた情操教育は郷土愛をはぐくむとともに、自然界における人間の役割を理解させる糸口ともなっている。今後も関係機関団体と連携を図りながら支援を継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・イベント参加の際の交通費助成はありがたい。遠隔地（離島）でも参加しやすい支援体制に感謝している。
- ・地域の交流集会は夏休み期間中に開催されるため、様々な森林体験プログラムへの参加や他団との交流は、夏の思い出にもなる貴重な体験となっている。今後も続けていただきたい。
- ・団服整備支援については、各団オリジナルの帽子やジャンパーの整備も認めていただき有り難い。

実績報告とりまとめ表

実施時期	30年8月	30年11月	31年4月	計
事業量	地区交流集会 (3地区)	九州森林の日植樹体験	全県交流集会	
参加者数	163人	48人	476人	687人
実施場所	鹿児島市他	南さつま市	始良・霧島市	

森林ボランティア活動促進事業（C-63）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般公募による森林インストラクター養成講座を開催し新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため体験イベントや先進地研修などを開催し相互交流とスキルアップを図った。また、県内の森林ボランティア連絡会加盟団体26団体の自主活動を促進するため活動費を助成し組織の強化に努めるなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

2. 活動の成果

かごしま森林の学校(県版森林インストラクター養成講座)は、地元鹿児島大学など多彩な外部講師を招き9回の講座を実施、9人に修了証を交付した。ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会や講習会も定着してきており、四半期毎に開催する連絡会議と相まって、相互交流が促進され資質の向上が図られた。

また、団体運営活動費の助成により森林ボランティア団体の自主活動が促進され、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

3. 参加者の声

- ・森林・林業に対し、漠然としたイメージを持って養成講座に参加したが、森林の様々な機能や生態について理解が深まったほか、木材についての基礎知識や加工利用についても学ぶことができた。また、林業に携わる方々の現場の話がとても興味深かった。今後、森林ボランティアとして、森林インストラクターとして、一個人がどのように関わっていけるかを考える良い機会となった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	30年7月～元年5月	30年9月3日～4日 31年1月11日	30.11月9日	計
事業量	森林インストラクター 養成講座9回 修了者9名	・ボランティアリーダー研修 (先進地研修・救命法研修等)	・志布志港海辺の森づくり実践活動	
参加者数	延べ90人	41人	84人	215人
実施場所	県内各地	宮崎県	志布志市	

平成30年度 緑の育樹祭開催事業（A-121）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施日 平成30年11月23日（金）

主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会・糸満市

大会テーマ 「育てよう 未来へつなぐ 緑の和」

森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について、理解を深め県民参加の森づくりを進めるため育樹祭を開催した。式典において、主催者、来賓のあいさつ、緑化コンクールの表彰、緑の少年団による大会決議を行い、式典終了後、参加者全員による施肥作業、補植作業を実施。

2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

糸満市「サザンビーチホテル南側緑地」は、海岸沿いに位置する緑地帯でホテル施設と隣接している。観光客の目を楽しませる花木と、海から吹く風を防ぐ防風林を造成した。

今後、適切な保育管理を実施するなど観光立県を目指す本県において、緑の美ら島沖縄を目指し今後も緑化活動を取り組んでいく気運を高めた。

3. 参加者の声

これから適切に保育作業をすることによりさらに樹木が大きく生長して、防風林としての役目に期待するとともに緑の美ら島を守り続けていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年11月23日	計
事業量	緑の育樹祭の開催	
参加者数	400人	400人
実施場所	沖縄県糸満市	

平成30年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実行額	備考
北海道	普	A1	青少年育成事業	160	160	
	普	A2	「美遊の森」体験活動事業	100	100	
	普	A3	森林・みどり環境教育推進事業	150	150	
	普	A4	森林ボランティア活動推進事業	400	200	
	普	A5	野幌自然休養林再生事業を中心に森林知識の普及啓発活動	100	100	
	普	A6	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	200	200	
	普	A7	北海道指導林家社会貢献緑化推進事業	100	100	
	普	A8	☆イベント「家族さのこ観察会」	120	120	
	普	A9	お魚を増やす植樹運動促進事業	350	350	
	普	A10	☆木育ひろば2018 in ばんけい	100	100	
	普	A11	森と自然体験の子どもエコキャンプ 2018	280	280	
	普	A12	身近な森林再発見事業	260	260	
	普	A13	五稜郭保安林清掃事業	90	90	
	普	A14	木のグランドフェア	170	170	
	普	A15	「残された森野幌原始林を学ぶ - 自然探勝会」普及啓発事業	160	160	
	普	A16	普及啓発事業	350	350	
	普	A17	「望みの森」森林浴の集い	90	90	
	普	A18	森林を活用した青少年育成対策事業	100	100	
	普	A19	森林及び木製遊具体験事業	130	130	
	普	A20	緑化団体ネットワーク推進事業	100	100	
	普	A21	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	110	110	
	普	A22	津別「げんきの森」利用推進事業	130	130	
	普	A23	☆気軽に楽しめる霧多布の森づくり	310	310	計画変更
	普	A24	☆間伐施業体験事業	320	320	
	普	A25	緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業	50	50	
	普	A26	青少年の木育推進事業	600	600	
	普	A27	「北海道森づくりフェスタ」春期推進事業	1,435	757	計画変更
基	C1	☆馬追自然の森整備事業	120	120		
	C2	☆里見緑地内遊歩道整備事業	60	60		
	C3	清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業	90	90		
	C4	人道の森づくり事業	115	115		
	C5	台風被災森林の植栽後の保育活動	100	100		
	C6	「遊々の森」での森林体験事業	160	160		
	C7	コンサ百年の森づくり事業	170	170		
	C8	サミットの森プロジェクト	100	100		
	C9	平成30年度 北海道小樽商業高等学校林「植樹の会」	120	120		
	C10	風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり	100	100		
	C11	未来に向かって日高の森林づくり事業	50	50		
	C12	日高の森づくり事業	160	160		
	C13	「おさかなの森づくり運動」事業	170	170		
	C14	市街地緑化事業	50	50		
	C15	お魚を増やす森づくり	90	90		
	C16	旭川ユネスコの森づくり	50	50		
	C17	みんなでつくるビオトープの緑化・公園造成事業	100	100		
	C18	☆枝幸町民植樹祭	180	180		
	C19	☆「帯広の森」づくり事業	80	80		
	C20	☆森は海の恋人植樹事業	320	320		
青森	普	A28	青森県森林づくり推進体験学習活動事業	1,000	1,000	
	普	A29	県産材の利用普及啓発活動事業	960	960	
岩手	普	A30	令和元年度遠野市緑化祭	200	200	
	普	A31	「2018 森林とのふれあい in 平成市民の森（第12回盛岡市民育樹祭）」	200	200	
	普	A32	☆第4回久慈森づくり大会	100	100	
	普	A33	ふるさとの巨樹・名木観察会	200	0	事業期間の変更
	普	A34	第50回岩手県緑の少年団大会	1,950	1,000	
宮城	基	C21	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040	2,040	
秋田	普	A35	緑と水のキャンペーン事業	1,250	1,250	
	普	A36	市民グループ森林づくり事業	700	700	
	基	C22	緑の少年団育成事業	450	450	
	基	C23	森林活動指導者支援事業	250	250	
山形	普	A37	山形県緑の少年団支援事業	980	980	
	普	A38	山形県林業まつり開催事業	720	720	
	普	A39	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	260	260	
福島	普	A40	緑化普及啓発事業	900	900	
	普	A41	森林・林業とのふれあい事業	700	700	
	普	A42	ファミリー緑の教室開催事業	400	400	
	基	C24	都市と農村の交流事業	900	900	
	基	C25	☆未来の森林づくり交流事業	200	200	

茨城	普	A 43	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150	80	
	普	A 44	緑の体験教室開催事業	350	350	
	普	A 45	グリーンフェスティバル開催事業（森林ボランティア団体活動発表大会）	600	600	
	基	C 26	森林ボランティア育成事業	300	300	
	基	C 27	山村地域づくり活動助成事業	550	550	
栃木	基	C 28	緑化樹木等苗木無償配布事業	410	410	
	普	A 46	森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業	1,740	1,740	
	基	C 29	青少年の教育の場としての森林の活用促進事業	200	200	
群馬	基	C 30	☆森林環境教育指導者等支援事業	100	100	
	普	A 47	群馬県植樹祭開催事業	850	850	
	普	A 48	森と木のまつり事業	500	500	
	普	A 49	巨樹・古木巡りツアー事業	700	700	
埼玉	普	A 50	緑の少年団活動活性化事業	480	480	
	普	A 51	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,450	1,450	
	普	A 52	緑の少年団育成事業	220	220	
千葉	普	A 53	緑化普及啓発事業	440	440	
	基	C 31	森林ボランティア活動支援事業	300	300	
	普	A 54	木づかい推進・普及啓発事業	580	580	
東京	普	A 55	森林林業技術講習会	160	160	
	基	C 32	千葉県みどりの少年団交流会事業	1,020	1,020	
神奈川	調	B 1	ふるさと杜活力調査事業	2,250	2,250	
新潟			該当無し			
富山	普	A 56	普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業	843	843	
	普	A 57	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（秋期）	1,926	1,826	計画変更
	普	A 58	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（春期）	1,078	1,078	
	普	A 59	緑化団体活動周知・地理情報活用事業	313	413	計画変更
石川	普	A 60	森林・木材等普及啓発事業	1,216	1,216	
	基	C 33	花とみどりの少年団活動支援事業	464	464	
	基	C 34	森づくりグループ活動支援事業	50	50	
福井	普	A 61	緑化思想の普及啓発事業	120	120	
	基	C 35	県内産緑化苗木無償配布事業	190	190	
	基	C 36	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450	1,450	
山梨	普	A 62	もりとふれあい推進事業	1,370	1,370	
	基	C 37	ふくいの森林づくり推進事業	500	500	
長野	普	A 63	緑の少年隊森林学習会	390	390	
	普	A 64	教職員森林・林業研修	140	140	
	普	A 65	子ども樹木博士認定事業	190	190	
	普	A 66	森の教材「くらしと森林」発刊事業	790	790	
	普	A 67	親子緑の集い	370	370	
	普	A 68	緑化ポスター、標語コンクール開催	320	320	
	普	A 69	緑の活動発表会	130	130	
岐阜	普	A 70	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160	4,160	
静岡	普	A 71	緑化推進キャンペーンと資材供給事業	1,440	1,440	
	普	A 72	みどりの啓蒙推進事業	600	600	
	基	C 38	恵みの森づくり事業	1,140	1,140	
愛知	普	A 73	森づくり県民大作戦支援事業	840	2,458	計画変更
	基	C 39	緑の少年団交流集会開催事業	2,500	882	計画変更
三重	普	A 74	みどりに親しむ集い事業	1,350	1,350	
	普	A 75	みどりフェスティバル'18春事業	450	450	
	調	B 2	ふるさと樹木診断事業	980	980	
	基	C 40	森林ボランティア養成事業	1,050	1,050	
	普	A 76	県民参加の植樹祭開催事業	220	218	計画変更
	普	A 77	みえ森林イベント参加	150	125	〃
	普	A 78	森林とのふれあい促進事業	900	648	〃
	普	A 79	緑の少年隊交流集会	540	280	〃
滋賀	普	A 80	森林教室開催	150	68	〃
	普	A 81	海・山連携植樹事業	300	0	〃
	普	A 82	☆巨樹・古木見学会開催	150	279	〃
	普	A 821	☆巨樹古木普及啓発冊子発行	0	792	〃
	基	C 41	緑の少年団育成事業	2,250	2,250	
京都	普	A 83	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000	2,000	
大阪	普	A 84	大阪府みどりの少年団連盟 交流集会	600	346	計画変更
	普	A 85	☆市民協働による生物多様性ホットスポット保全活動	2,250	2,504	計画変更
兵庫	普	A 86	地域緑化イベント開催事業	400	400	
	基	C 42	森林整備・緑化活動支援事業	2,540	2,540	
奈良	普	A 87	森の文化活動事業	1,510	1,510	
	基	C 43	ボランティア活動推進事業	200	200	

和歌山	普	A 88	青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進	1,870	1,870	
	基	C 44	森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援	460	460	
鳥取	普	A 89	樹名板設置事業	700	795	計画変更
	普	A 90	木工工作キット配布事業	640	637	〃
	基	C 45	青少年・民間活動グループの育成支援事業	300	220	〃
	基	C 46	森林空間活用推進事業	200	188	〃
島根	普	A 91	「森の誕生日」2019 事業	400	400	
	基	C 47	緑の少年団育成強化事業	1,400	1,400	
岡山	普	A 92	森林を考える岡山県民のつどい	300	300	
	普	A 93	県産木材フェア開催事業	400	400	
	普	A 94	もりもりクラブ普及活動事業	124	124	
	普	A 95	くらしき都市緑化フェア	450	450	
	基	C 48	緑化普及推進事業	1,216	1,216	
広島	普	A 96	「みどりの集い」開催事業	1,520	1,520	
	普	A 97	☆木材需要拡大講演会び開催事業	500	500	
	基	C 49	緑の少年団交流集会開催事業	1,000	1,000	
山口	普	A 98	森林体験学習支援事業	440	826	計画変更
	基	C 50	都市と山村ふれあい交流促進事業	360	360	
	基	C 51	記念の森造成事業	1,200	814	計画変更
徳島	基	C 52	企業の森づくり普及啓発イベント事業	1,960	1,960	
香川	普	A 99	緑化普及活動事業	1,410	1,410	
愛媛	普	A 100	木工作品製作キット配布事業	1,880	1,880	
	普	A 101	愛媛の森林友の会の育成及び研修活動	200	200	
高知	普	A 102	土佐の名所の樹木活性化事業	810	950	計画変更
	普	A 103	森のようちえん推進事業	300	300	
	普	A 104	森の魅力普及啓発事業	616	404	計画変更
	普	A 105	高知県森林インストラクター養成講座	400	400	
	基	C 53	地域の森林整備事業	124	196	計画変更
	基	C 54	活動基盤整備推進事業	80	80	
福岡	普	A 106	ウッドフェスタ 2017 福岡	700	700	
	普	A 107	森林ふれあい交流	200	200	
	普	A 108	グリーンフェスティバル 2018	650	650	
	普	A 109	ちくしの森林ボランティア事業	300	—	事業期間変更
	普	A 110	☆第 2 8 回世界子ども愛樹祭コンクール	300	300	
	基	C 55	里まちサイクルプロジェクト	540	540	
佐賀	普	A 111	「よかウッドフェスタ及び緑化祭」開催事業	700	700	
	普	A 112	☆ふれあいの森フェスタ開催事業	700	700	
	基	C 56	緑の探検学習会開催事業	390	390	
長崎	普	A 113	森林のつどい事業	1,120	1,120	
	基	C 57	緑の少年団活動活性化事業	1,150	1,150	
	基	C 58	森のめぐみいきいき活用促進事業	500	500	
熊本	普	A 114	くまもと森づくり普及啓発事業	1,000	1,000	
	基	C 59	緑の少年団活動育成事業	1,090	1,088	計画変更
	基	C 60	シンボル森林の活用促進事業	600	602	計画変更
大分	普	A 115	ふれあい森林教室	650	650	
	普	A 116	木と暮らしのフェア	80	80	
	普	A 117	☆大分県みどりの少年団のつどい	200	200	
	調	B 3	名木保全事業	850	850	
	基	C 61	森林ボランティアリーダー養成研修	260	260	
宮崎	普	A 118	緑と花のふれあい推進事業	2,370	2,370	
	普	A 119	森林浴癒しの集い事業	280	280	
鹿児島	普	A 120	かごしまの緑・元気な森林体験事業	1,630	1,643	計画変更
	調	B 4	かごしまの名木古木樹勢診断事業	350	337	計画変更
	基	C 62	活力ある緑の少年団活動促進事業	800	800	
	基	C 63	森林ボランティア活動促進事業	850	850	
沖縄	普	A 121	平成 29 年度 緑の育樹祭開催事業	1,470	1,470	
合 計				118,070	117,660	

国 緑 3 0 第 2 号
平成 3 0 年 2 月 1 日

各都道府県緑化推進委員会 殿
様

公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 佐々木 毅

平成 3 0 年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

平成 3 0 年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の要望につきましては、別添「平成 3 0 年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、〔様式 1〕により平成 3 0 年 4 月 1 3 日（金）までに提出してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

担当：基金業務 井上
0 3 (3 2 6 2) 8 4 5 7
E-mail: inoue@green.or.jp

平成30年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっております。具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

II 重点課題の設定

平成30年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及・啓発
- ② 地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ③ リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- ④ 学校林活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- ⑤ 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する普及啓発・調査研究

Ⅲ 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の四分野において、以下の事業を重点的に実施する。

1 普及啓発事業

- (1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発活動
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用等の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

Ⅳ 事業の適切な実施

平成30年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとする。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol.8

令和2年2月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <http://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



青少年の木育推進事業（北海道）
北海道森と緑の会